SONY®

3-087-414-**04** (1)

デジタルビデオカメラレコーダー

Mini DV Digital Video Cassette

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HANDYCAM

DCR-VX2100

目次

とにかく撮って見る 4

必ずお読みください

お使いになる前に

別売りのアクセサリーキットについて
本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。
お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

CM カセットメモリー付きのミニDVカセットをおすすめします
本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみご使用になれます。

カセットメモリーの有無により操作方法の違う機能
「次の撮影開始点を探す −エンドサーチ」（22、26ページ）
「インデックスで頭出しする−インデックスサーチ」（65ページ）
「撮影日で頭出しする−日付サーチ」（69ページ）
「見たい静止画を探す − フォトサーチ」（71ページ）

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能
「タイトル場面を頭出しする−タイトルサーチ」（67ページ）
「タイトルを入れる」（103ページ）
「オリジナルタイトルを作る」（107ページ）
「カセットに名前を付ける−カセットラベル」（109ページ）
詳しくは152ページをご覧ください。

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能には、説明の前に左のマークが付いています。

カセットメモリー付きミニDVカセットには CM マークが付いています。

ためし撮り
必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

電波障害自主規制について

> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面、ファインダーおよびレンズについて

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

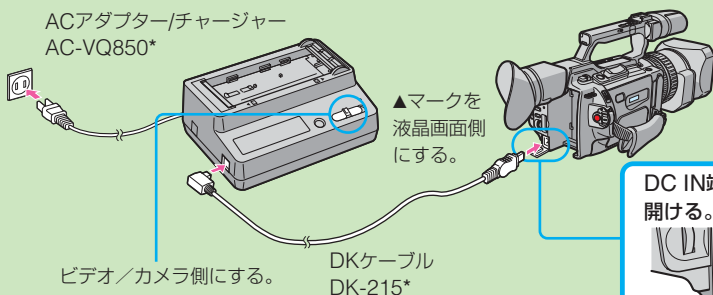
本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

とにかく撮って見る

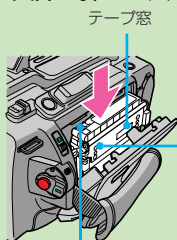
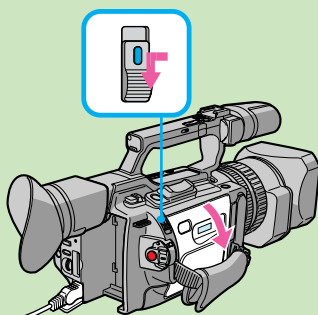
ここでは本機の使いかたを簡単に説明します。
詳しくは（ ）内のページをご覧ください。

1 電源をつなぐ（9ページ）

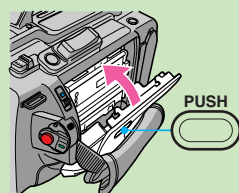
屋外ではバッテリーを使います → 8ページ

* 別売りのACCKIT-D10に付属

2 カセットを入れる（13ページ）

❶ 青のボタンを押しながら、カセット取出しスイッチを矢印の方向にずらす。

❷ テープ窓を外側に向け、カセットの背の中央部を押して入れる。

誤消去防止ツマミを上にしてカセットを入れる。

❸ PUSHマークを押して、カセット入れを閉める。

❹ PUSHボタンを押して、カセットぶたを閉める。

3 撮影する（14ページ）

ファインダー
液晶画面を閉じているときは、
この部分に目を当てて画像を見ます。

❶ **レンズキャップ付きフードのシャッターを開ける。**
レンズキャップ付きフードの取り付けかたについては、175ページをご覧ください。

❷ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

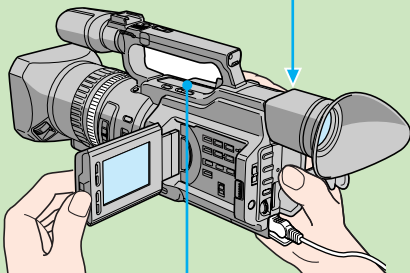
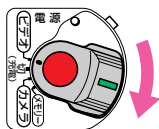
「ND1」、または「ND2」の表示が点滅したときは、43ページをご覧ください。

❸ **OPENボタンを▶の方向にずらして、液晶画面を開ける。**

❹ **赤いボタンを押す。**
撮影が始まる。

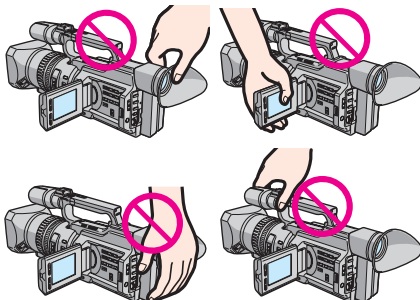
もう1度押すと止まる。

4 液晶画面で見る（23ページ）

❶ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

❷ **◀◀巻戻しを押してテープを巻き戻す。**

❸ **▶再生を押すとテープが再生される。**

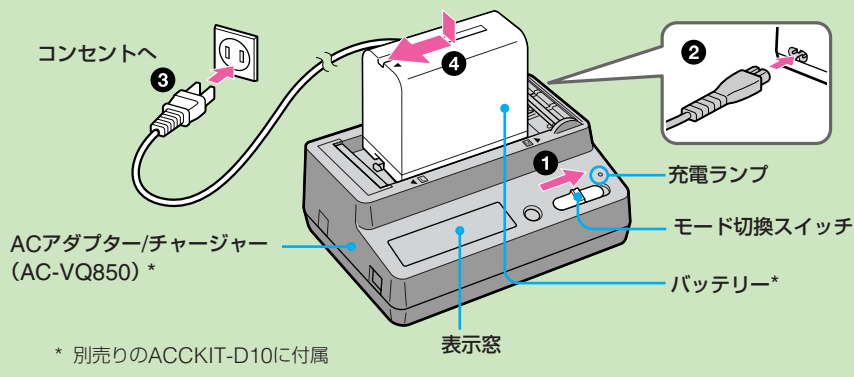
再生

ご注意
ファインダーや液晶画面、バッテリー、マイクをつかんで、本機を持ち上げないでください。

準備1 電源を準備する

バッテリーを充電する

別売りのアクセサリーキットの取扱説明書もあわせてご覧ください。
バッテリーは充電してからお使いください。
本機の電源には、別売りの“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

コンセントへ
❸
❹
❷
❶
充電ランプ
モード切換スイッチ
ACアダプター/チャージャー
（AC-VQ850）*
バッテリー*
表示窓

* 別売りのACCKIT-D10に付属

ご注意

- 充電する場合はACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「充電」側にしてください。「ビデオ/カメラ」側にしていると充電できません。
- バッテリーは水に濡らさないでください。
- バッテリーを使用せずに長期間保管するときは、一度満充電してから使い切り、涼しい場所で保管してください。
- ACアダプター/チャージャーは、お手近なコンセントを使用してください。本機をご使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

本体に取り付けて充電するときは
155ページをご覧ください。

❶ モード切換スイッチを「充電」にする。

❷ 電源コードをつなぐ。

❸ コンセントにつなぐ。

❹ バッテリーを押しながら矢印の方向にずらして取り付ける。

充電が始まると、充電ランプが点灯する。

充電が終わると、表示窓のバッテリーマークがすべて点灯する「▰▰▰」**（実用充電）**。

さらに充電ランプが消え、バッテリーマーク「FULL」が表示されるまで充電を続けると、若干長く使える**（満充電）**。

“InfoLITHIUM（インフォリチウム）” バッテリーとは
“インフォリチウム” バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持ったリチウムイオンバッテリーです。本機は “インフォリチウム” バッテリー（Lシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム” バッテリーLシリーズには InfoLITHIUM L マークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

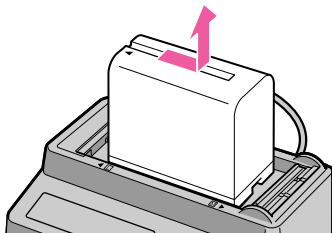
ACアダプター/チャージャーの使用可能時間表示は
ファインダーを使って撮影するときの使用可能時間です。本機の残量時間表示と多少異なる場合がありますが、故障ではありません。

バッテリー残量時間表示
連続撮影時間の目安を液晶画面または表示窓、ファインダーに表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間を表示するのに約1分かかります。

バッテリー残量が充分あるのに、電源がすぐ切れるときは
バッテリーを一度満充電してください。残量が正しく表示されます。

ご注意

25℃で撮影、再生したときの時間の目安です。低温では使用時間が短くなります。

❺ 充電が終わったら、バッテリーをACアダプター/チャージャーから取りはずす。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-F550	115（55）
NP-F570	145（85）
NP-F730	160（100）
NP-F750	170（110）
NP-F770	230（170）
NP-F960	245（185）
NP-F970	310（250）

使い切ったバッテリーを充電したときの時間（約　分）。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時	実撮影時*	連続撮影時	実撮影時*
NP-F550	150（135）	80（75）	130（115）	70（60）
NP-F570	230（205）	120（105）	195（175）	100（90）
NP-F730	265（240）	145（130）	230（205）	125（110）
NP-F750	315（275）	175（150）	265（235）	145（130）
NP-F770	470（420）	260（230）	400（360）	215（190）
NP-F960	575（515）	320（285）	480（430）	265（240）
NP-F970	705（630）	390（350）	600（540）	330（295）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
NP-500/510/710はご使用いただけません。
* 録画、スタンバイ、電源入／切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。

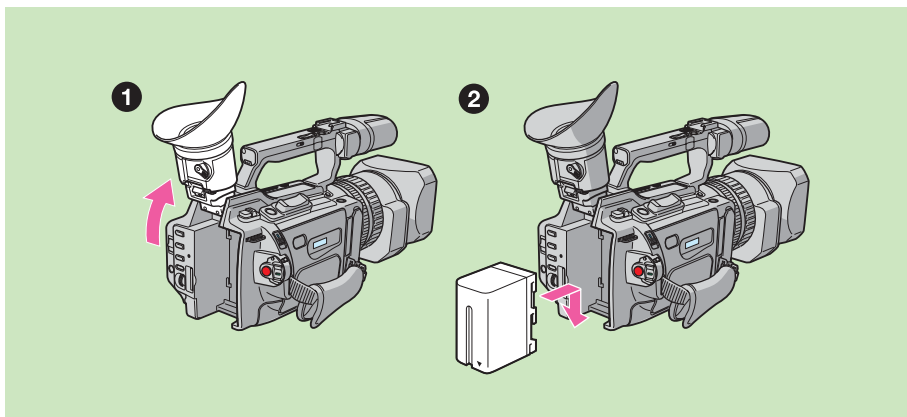
海外でも充電できます
詳しくは168ページをご覧ください。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-F550	185（165）	225（195）
NP-F570	275（245）	335（300）
NP-F730	305（275）	385（345）
NP-F750	375（335）	460（415）
NP-F770	560（500）	685（615）
NP-F960	680（610）	830（745）
NP-F970	840（755）	1015（910）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
NP-500/510/710はご使用いただけません。

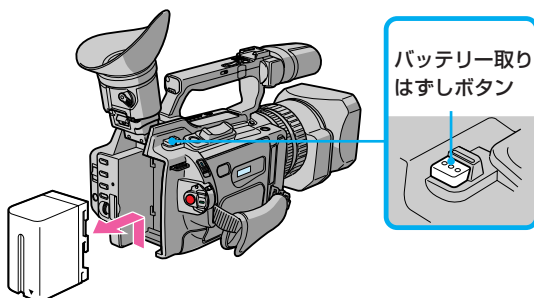
バッテリーを取り付ける

本機を屋外で使用するときは、バッテリーを取り付けます。

❶ ファインダーを上げる。

❷ バッテリーを押しながら、カチッとロックするまで下へずらす。

バッテリーを本体から取りはずす

1 ファインダーを上げる。

2 バッテリー取りはずしボタンを押しこみながらバッテリーを上にずらす。

コンセントにつないで使う

ご注意

- コンセントにつないで使う場合は、ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にしてください。「充電」側では電源は供給されません。
- バッテリーをつけたままでもお使いいただけます。
- ACアダプター/チャージャーを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- 電源供給はDC IN端子が優先されます。バッテリーで使用するとき、コンセントから電源コードを抜いても、DC IN端子にコードが差し込まれているとバッテリーから電源は供給されません。

ACアダプター/チャージャーは
別売りのカーバッテリーコードを使用すると、自動車の電源でもお使いになれます。
詳しくはACアダプター/チャージャーの取扱説明書をご覧ください。

テープを再生するときなど長時間使用するときは、家庭用のコンセントを使うとバッテリー切れの心配なく使えます。

❶ ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にする。

準備

次のページへつづく

❷ DKケーブルを本機のDC IN端子につなぐ。

DC IN端子カバーを開け、DKケーブルのプラグの▲マークを液晶画面側にしてつなぐ。

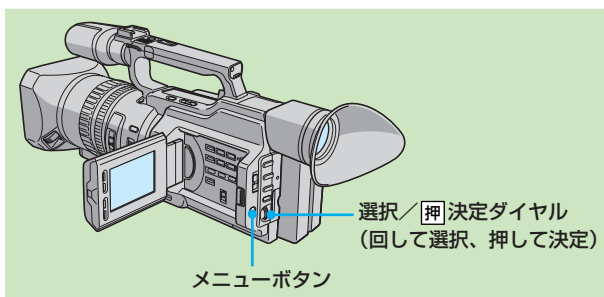
❸ DKケーブルをACアダプター/チャージャーにつなぐ。

❹ 電源コードをACアダプター/チャージャーとコンセントにつなぐ。

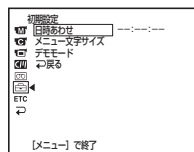
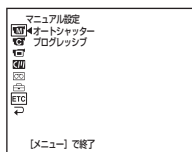
準備2 日付・時刻を合わせる

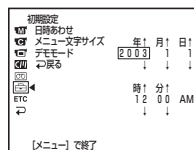
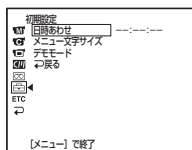
本機を初めて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと電源を入れ、撮影状態にするたびにお知らせメッセージが出ます。**4か月**近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して、日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（170ページ）

準備

日時を設定しないと
テープと“メモリースティック”のデータコードには「--:--:--」（時刻表示）、「---- -- --」（日付表示）が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

1 ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押す。

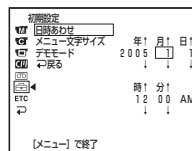
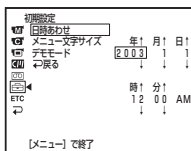
2 **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「日時あわせ」を選び、押して決定する。**

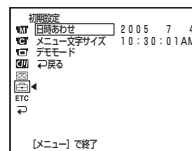
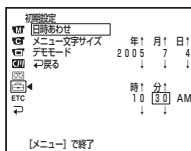
次のページへつづく

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

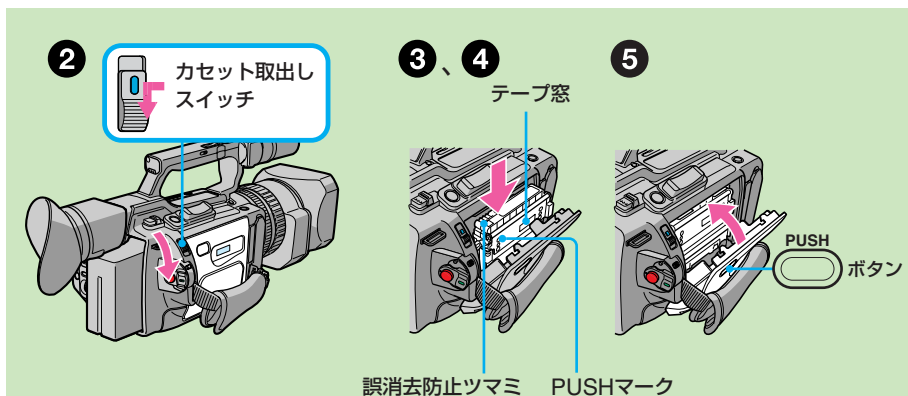
❹ 「年」を合わせる。

選択／押決定ダイヤルを回して「年」を合わせ、押して決定する。

年表示は次のように変わる。

→1995←→1996 - - - 2003 - - - - - - - - 2079←

❺ 手順4と同様にして、「月」と「日」、「時」、「分」を合わせる。

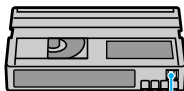
選択／押決定ダイヤルを回して「分」を合わせ、時報と同時に押して決定する。時計が動き始める。

❻ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

準備3 カセットを入れる

ご注意

- PUSHボタン以外の部分を押すと、カセットぶたは閉まりません。
- カセットぶたに指をはさまないようにご注意ください。

カセットが入っているのに「 」が点滅しているときは
PUSHボタンをもう1度押してください。

カセットメモリー付きミニDVカセットをご使用のとき
カセットメモリー機能を正しくお使いいただくために152ページをご覧ください。

大切な映像を間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミをスライドし、「SAVE」にします。

カセット入れが開きにくいときは
グリップベルトの長さを調節してください。（176ページ）

1 電源を準備する。（6ページ）

2 青のボタンを押しながら、カセット取出しスイッチを矢印の方向にずらす。

カセットぶたが開いたあと、カセット入れが自動的に開く。

3 カセットを入れる。

テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上にして入れる。

4 PUSHマークを押して、カセット入れを閉める。

5 PUSHボタンを押して、カセットぶたを閉める。

カチッと音がするまでしっかり押す。

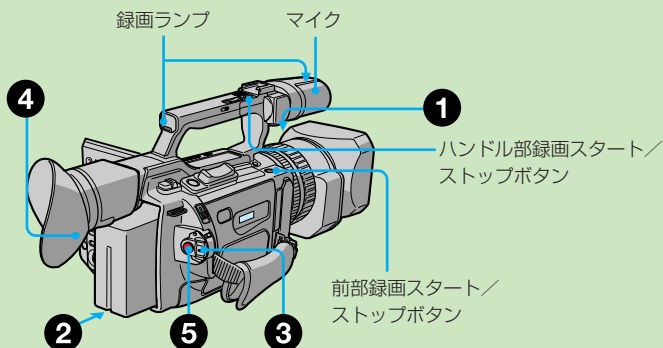
カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

準備

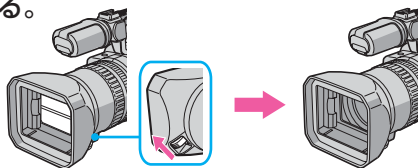
撮影する

ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

- グリップベルトをしっかりと締めてください。
- マイクに手が触れないようにしてください。

パソコンへの取り込みや静止画の再生を目的とした撮影をするときは
あらかじめメニューで「プログレッシブ」を「入」にします。動きのあるものがブレて撮影されることがありますが、画質は向上します。

長時間録画したいときは
メニューの「録画モード」を「LP」にします（115ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

❶ レンズキャップ付きフードのシャッターを開ける。

レンズキャップ付きフードの取り付けかたについては、175ページをご覧ください。

❷ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

「準備1～3」（6～13ページ）をご覧ください。

❸ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。

撮影スタンバイになる。

撮影スタンバイ

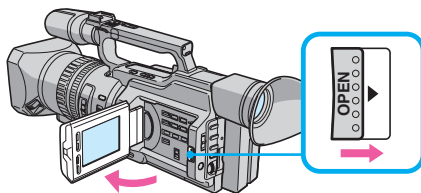
ロックつまみについて
ロックつまみを左側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時は右側（解除）になっています。テープに記録するときは「ロック」にすることをおすすめします。）

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した映像はきれいにつながります。カセットメモリー付きのカセットでは、カセットを取り出したあとでもエンドサーチ（22ページ）を使うと、きれいにつながります。また、以下の点にご注意ください。
- バッテリーの交換は、電源スイッチを「切（充電）」にしてから行う。
- SPモードでの撮影とLPモードでの撮影を同じテープに混在させない。

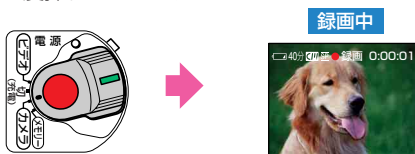
つなぎ撮りするときのご注意
次のようなときは、つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変えたとき。
- LPモードでつなぎ撮りをしたとき。

撮影スタンバイが5分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはテープを保護し、バッテリーの消耗を防ぐためです。再び撮影を始めるには電源スイッチを一度「切（充電）」にしてから、「カメラ」に戻します。
テープが入っていないときには、電源は切れません。

❹ OPENボタンを▶の方向にずらして、液晶画面を開ける。

液晶画面に画像が映る。このとき、ファインダーの画像は消えます。

❺ スタート／ストップボタンを押す。

撮影が始まる。録画ランプ（前部／後部）が点灯する。
もう1度押すと止まる。

録画中

録画のスタート／ストップは、ハンドル部または前部にある録画スタート／ストップボタンでも行うことができます。

撮影中、画面に「ND1」、または「ND2」表示が点滅したら

NDフィルターが必要です。NDフィルタースイッチを「1」または「2」にしてください。（43ページ）

ただし、撮影中にNDフィルタースイッチを操作すると、画面の明るさが急に変わったり、音声にノイズが入ることがあります（故障ではありません）。

実際の撮影をする前に確認して、ND警告が出ないように調整しておくことをおすすめします。

ご注意

液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。ただし、対面撮影中または液晶画面を外側に向けて閉じているときは、ファインダーにも画像が映ります。

液晶画面は
角度の調節は必ず90°まで開いてから行ってください。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
リモコンのゼロセットメモリーボタンは働きません。

対面撮影中の表示
撮影スタンバイ中は❚❚●、撮影中は●が表示されます。その他の表示は左右が反転します。表示が出ないものもあります。液晶画面を外側に向けて本体に閉じたときは、通常の表示になります。

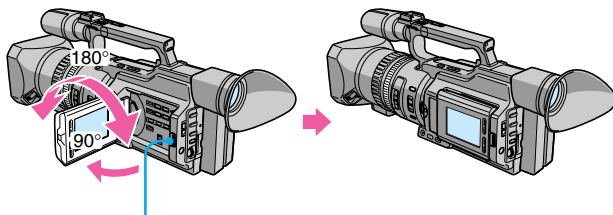
液晶画面や、液晶画面とファインダーの両方を使って撮影するときのバッテリー使用時間は
ファインダーを使った場合より若干短くなります。

液晶バックライトの明るさは
メニューの「パネルバックライト」で調節することができます。（115ページ）

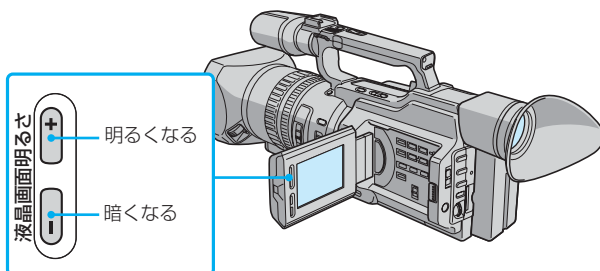
液晶画面明るさボタンおよびメニューの「パネル色のこさ」「パネルバックライト」は
調節しても記録される画像には影響しません。

液晶画面を調整する

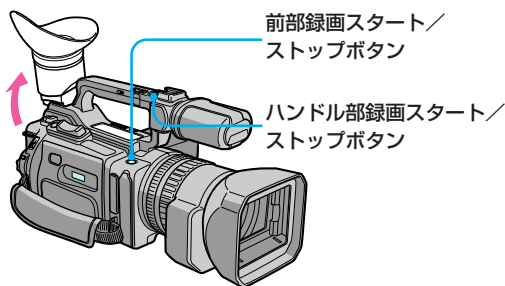
液晶画面は90°まで開きます。また、レンズ方向に180°まで、ファインダー方向に90°まで回転し、角度を調節できます。

［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に液晶画面を180°回転させると、ファインダーと液晶画面に☺が出ます。**（対面撮影モード）**

液晶画面を閉じるときは、液晶画面を垂直にし、カチッと音がするまで本体に向かって閉じます。

液晶画面の明るさを調節する

液晶画面の明るさは、液晶画面明るさボタンを押して調節します。

ローアングルで撮影する

低い位置から撮影するときは、ファインダーを上げるか、液晶画面を上にして撮影することをおすすめします。

撮影は、ハンドル部または前部にある録画スタート／ストップボタンを使うと便利です。

撮影が終わったら

1　**電源スイッチを「切（充電）」にする。**

2　**液晶画面を閉じる。**

3　**カセットを取り出す。**

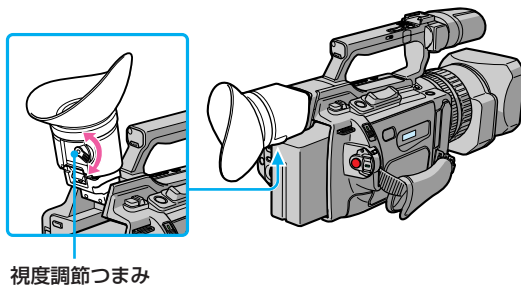
4　**バッテリーを取りはずす。**

アイカップについて
アイカップは左右どちらの向きでも取り付けることができます。詳しくは174ページをご覧ください。

ファインダーの視度を調節する

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。自分の視力に合わせてファインダーの画像がはっきり見えるように調節します。

ファインダーを上げて、視度調節つまみを動かす。

撮る

ファインダーの明るさを調節する

メニューの「VF バックライト」で調節する（115ページ）。

ご注意
- ハンドル部ズーム切り換えスイッチが「OFF」のときは、ハンドル部ズームレバーの操作ができません。
- ハンドル部ズーム切り換えスイッチは、本体のズームレバーとは連動しません。

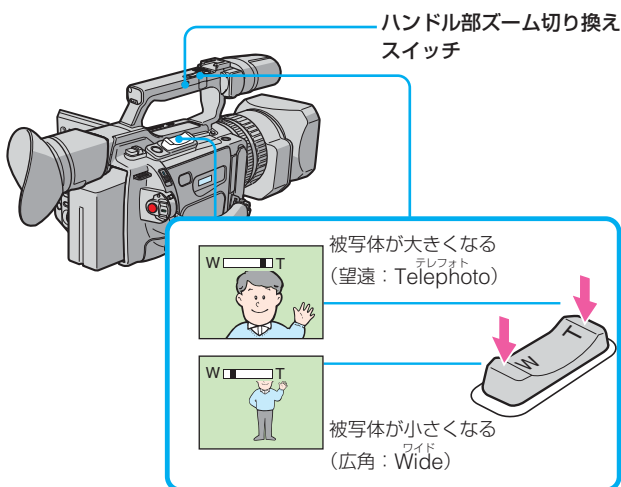
近くの被写体にピントがうまく合わないときは
ズームレバーのW側を押して広角にします。ピントを合わせるために必要な被写体との距離は、W側では約1 cm以上、T側では約80 cm以上です。

ハンドル部ズームレバーについて
切り換えスイッチを「H」にすると速く、「L」にするとゆっくりズームします。

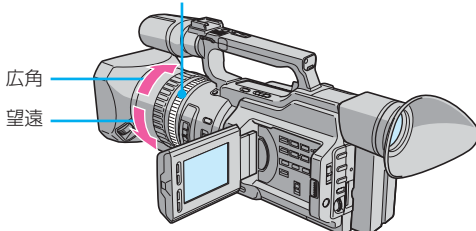
ズームする ― ズームレバーまたはハンドル部ズームレバーを使う

少し押すとゆっくりズームし、さらに押すと速くズームする。
（使いすぎると見づらい映像になります。）

ハンドル部ズームレバーを使うときは、切り換えスイッチでズームの速さを切り換えることができます。

ご注意
ズームリングは適度な速さで回してください。回すスピードが速すぎると、ズームがリングの回転に追いつかないことがあります。

ズームする ― ズームリングを使う

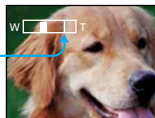
ズームリングを使うと、好みの速さでズームすることができます。また微調節も可能です。

［撮影中］にズームリングを好みの速度で回して、ズームする。

次のとき、デジタルズームは使えません
- プログレッシブ記録モード（30ページ）
- 電源スイッチを「メモリー」にしたとき。

12倍を超えるズーム ー デジタルズーム

メニューで「デジタルズーム」を「24×」または「48×」にします。「24×」にすると24倍まで、「48×」にすると48倍までのズームができます。お買い上げ時は「切」になっています（115ページ）。デジタルズームは画像をデジタル処理により拡大するため、画質が低下します。

このラインよりT側がデジタルズームになります。
メニューで「デジタルズーム」を「24×」または「48×」にすると表示されます。

撮る

タイムコードについて
ファインダーと液晶画面にテープ走行時間が「0：00：00」（時：分：秒）と出ます。ビデオモードのときには「0：00：00：00」（時：分：秒：フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。

テープの残量表示について
テープの種類によっては正しく表示されないことがあります。

日付／時刻は
撮影中は画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時にデータコードボタンを押すと、見ることができます。

撮影中の表示

これらの表示はテープには記録されません。

バッテリー残量
電源を入れてしばらくすると出る。

カセットメモリー
カセットメモリー付きテープを使っているときに出る。

録画モード

撮影スタンバイ／撮影中

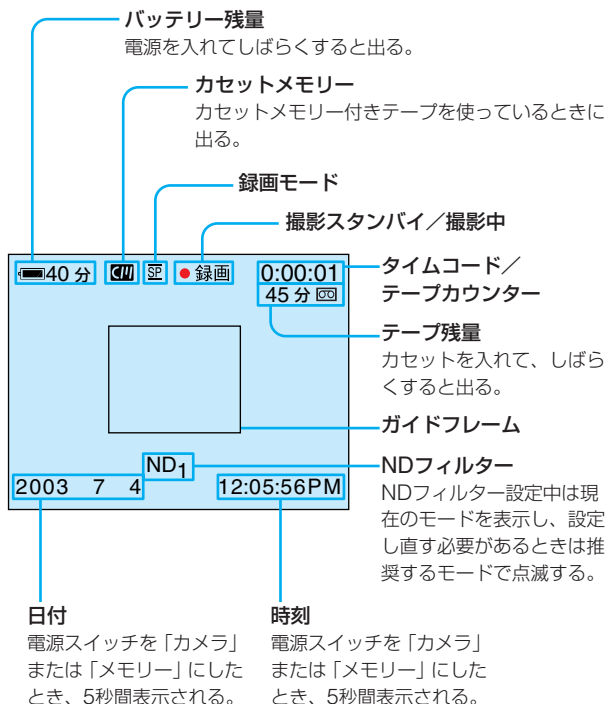
タイムコード／テープカウンター

テープ残量
カセットを入れて、しばらくすると出る。

ガイドフレーム

NDフィルター
NDフィルター設定中は現在のモードを表示し、設定し直す必要があるときは推奨するモードで点滅する。

日付
電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき、5秒間表示される。

時刻
電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき、5秒間表示される。

逆光補正をする

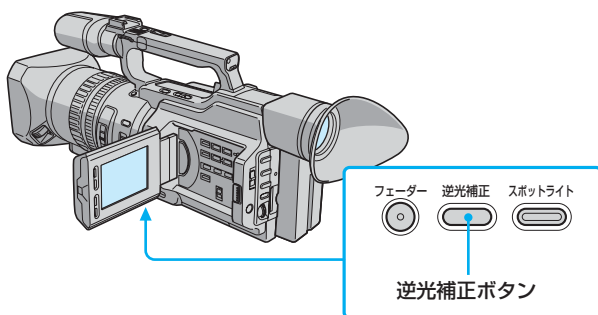
逆光補正中に以下のボタンを押すと
逆光補正は解除されます。
– スポットライトボタン
– 明るさボタン

明るさ調節中は
逆光補正は使えません。

被写体の背後に光源があって、被写体が暗く映るときなどに明るさの補正をします。

［撮影スタンバイ中］または［撮影中］、［メモリーモード中］に

逆光補正ボタンを押す。

液晶画面またはファインダーに逆光補正表示が出ます。逆光補正ボタンをもう1度押すと解除されます。

強い光が当たっている被写体を撮影する － スポットライト

スポットライトモードのときに以下のボタンを押すと
スポットライトモードは解除されます。
– 逆光補正ボタン
– 明るさボタン

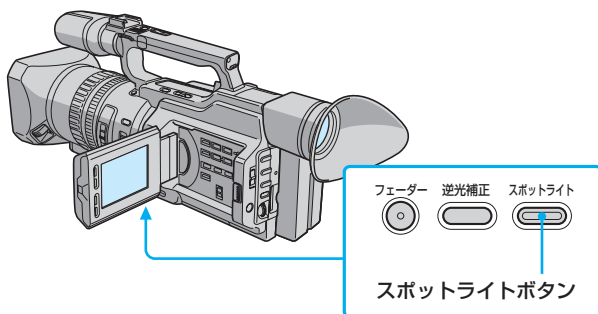
明るさ調節中は
スポットライトモードは使えません。

シャッタースピードが1/30秒以下のときは
スポットライトモードは使えません。

スポットライトモードのとき、以下の操作はできません
– 1/30秒以下のシャッタースピード
– オールドムービー
– プログラムAEのキャンドルモード

舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

［撮影スタンバイ中］または［撮影中］、［メモリーモード中］に
スポットライトボタンを押す。

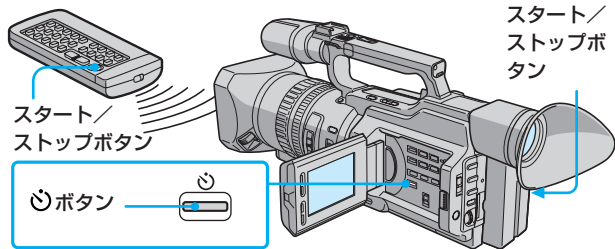
液晶画面またはファインダーにスポットライト表示が出ます。スポットライトボタンをもう1度押すと解除されます。

セルフタイマー撮影

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。

- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーを使用すると、10秒後に自動的に撮影が始まります。自分を撮影したいときなどに使用します。

リモコンも使えます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に

（セルフタイマー）ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

❷ **スタート／ストップボタンを押す。**

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前になるとブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影が始まる。

秒読み中に撮影を止めるとき

もう1度スタート／ストップボタンを押す。

リモコンを使うと便利です。

セルフタイマーでテープに静止画を撮るとき

手順2でフォトボタンを押す。（28ページ）

セルフタイマーで“メモリースティック”に静止画を撮るとき

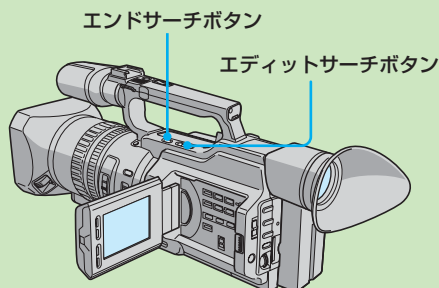
メモリーモード中に（セルフタイマー）ボタンを押し、続いてフォトボタンを押す。（127ページ）

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度（セルフタイマー）ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。

撮る

次の撮影開始点を探す
−エンドサーチ／エディットサーチ／レックレビュー

撮った場面が気になるときや、最後に撮影した場面からつなぎ撮りしたいときに使います。

エンドサーチは
カセットメモリーの付いていないカセットでは、一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチは働きます。ただし、テープの冒頭や途中に一度無記録部分を作ると正しく機能しないことがあります。（152ページ）

エンドサーチ

最後に撮影した映像の終わりの部分に戻ります。

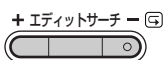
［撮影スタンバイ中］に**エンドサーチボタンを押す。**

最後に撮影した映像の、終わりの約5秒間を再生し、再び撮影スタンバイに戻る。

スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

エディットサーチ

次の撮影開始点を探します。

［撮影スタンバイ中］に**エディットサーチ＋／−ボタンを押し続ける。**

画像が再生される。

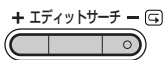
＋：場面を進める

−：場面を戻す

指を離したところが、次の撮影開始点になる。音は出ない。

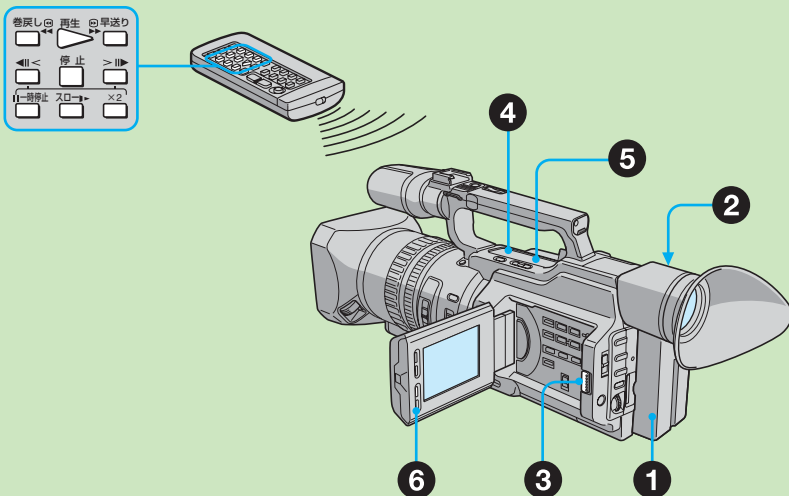
レックレビュー

最後の場面を確認します。

［撮影スタンバイ中］に**エディットサーチボタンの−側をポンと1回押す。**

テープを停止した場所の直前の映像が数秒間出て、再び撮影スタンバイに戻る。

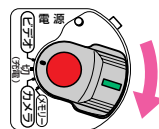
スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

再生する

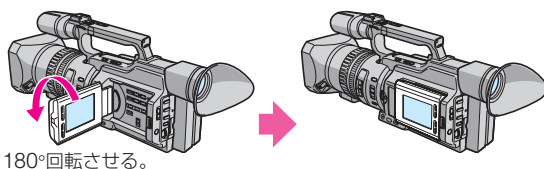
撮影した映像を液晶画面で見ることができます。液晶画面を閉じると、ファインダーで見ることもできます。
リモコンでも操作できます。

見る

1 バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。

2 緑のボタンを押しながら、「ビデオ」にする。

ビデオ操作ボタンが点灯する。

3 OPENボタンを▶の方向にずらして、液晶画面を開ける。

180°回転させる。

次のページへつづく

液晶画面を閉じると
スピーカーから音は出ません。液晶画面を外側に向けて本体に閉じているときは音が出ます。

4 ◀◀巻戻しボタンを押す。

巻き戻しが始まる。

5 ▶再生ボタンを押す。

画像が映る。

6 音量ボタンを押して、音量を調節する。

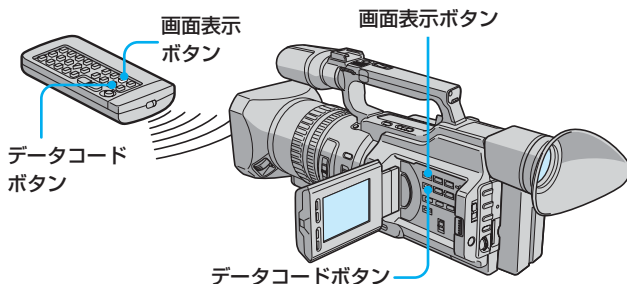
再生を止める

■停止ボタンを押す。

画面にさまざまな情報を出す

本体またはリモコンの画面表示ボタンを押す。

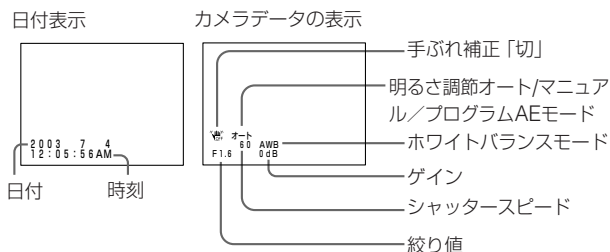
液晶画面に表示が出る。

消すときはもう1度押す。

データコードについて

本機は撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています **(データコード機能)**。

[再生中] に**本体またはリモコンのデータコードボタンを押す。**

押すたびに次のように表示が変わります。

「日付表示」→「カメラデータの表示」→(表示なし)

カメラデータを表示しないようにする

メニューの「データコード」で「日付データ」を選ぶ。(115ページ)

データコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。

「日付表示」↔(表示なし)

カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定情報です。撮影中は表示されません。

次のときは「---- -- --」(日付表示)、「-- : -- : --」(時刻表示) となります
- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を設定しないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつないだときは、テレビ画面で確認することもできます。(27ページ)

手動で明るさを最小にしておくと
絞り値表示の場所に「クローズ」と表示されます。

再生する（つづき）

変速再生中は
音声は出ません。
また、直前の画像がモザイク状に残って見えることがあります。

一時停止（静止画）について
5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度 ►再生ボタンを押します。

スロー再生について
本機にはスロー画像もなめらかに再生する機能があります。ただし i. DV端子を使って出力される画像にはこの機能は働きません。

逆方向再生について
画面の上下や、中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

PAL方式で録画されたテープは
本機が自動的に識別し、再生を始めます（**PAL簡易再生機能**）。再生された映像は、本機の液晶画面またはファインダーでのみ確認できます。

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。

静止画を見る

［再生中］に ▮▮一時停止ボタンを押す。
►再生ボタンまたは ▮▮一時停止ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする

［停止中］に ►►早送りボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す

［停止中］に ◄◄巻戻しボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する

［再生中］にリモコンの＜ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り／巻き戻しする（ピクチャーサーチ）

［再生中］に ►►早送り／ ◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り／巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）

［早送り中］または［巻き戻し中］に ►►早送り／ ◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

スロー画を見る

［再生中］に▮►スローボタンを押す。
逆方向にスロー再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してから▮►スローボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で見る（倍速再生）

［再生中］にリモコンの×2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してから×2ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

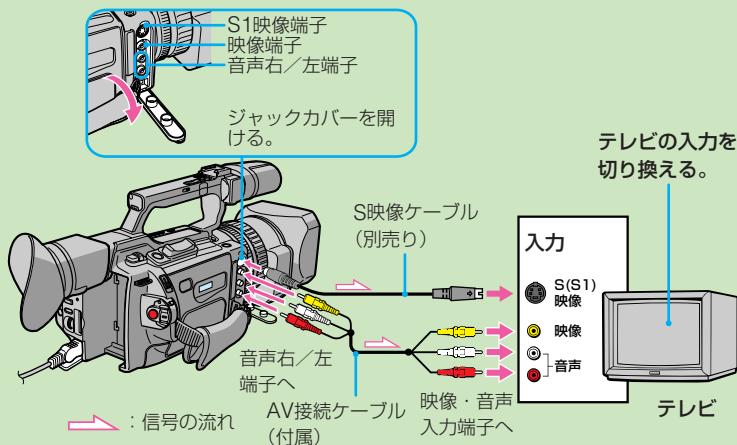
コマ送りで見る

［再生一時停止中］にリモコンの ▮▮►ボタンを押す。
逆方向にコマ送りするときは、◄▮▮ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）

［停止中］にエンドサーチボタンを押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は別売りのACアダプター/チャージャーを使って、コンセントからとることをおすすめします（9ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと
画像がより鮮明になります。
テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりにS映像ケーブル（別売り）で、本機のS1映像端子とテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

モニターの色調を調整するときは
カセットの再生映像ではなく、本機で撮影している映像をテレビで見るときは、画面にカラーバーを表示することができます。
メニューで「カラーバー」を「入」にします（115ページ）。

テレビに他のビデオ機器がつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぐ。

モノラルのテレビにつなぐときは、赤いプラグは使いません。

テープに静止画を撮る – テープフォト撮影

本機は、テープに全画素で静止画を撮ることができます（30ページ）。また、“メモリースティック”に静止画を記録することもできます（127ページ）。

- ビデオプリンターでプリントしたいとき
- あとからテレビやモニターで記念写真のように見たいとき

ミニDVテープに記録できる静止画は、60分テープのSPモード時で約510枚、LPモード時で約765枚です。

ご注意

- テープフォト撮影中は、モードや設定の変更はできません。
- 以下の設定中や操作中は、テープフォト撮影ができません。
  – フェーダー
  – デジタルエフェクト
- 静止画を記録中は、本機を振らないでください。画像が乱れることがあります。

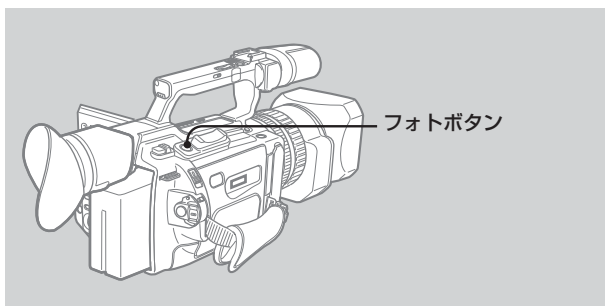
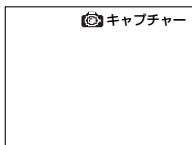
リモコンのフォトボタンで撮影すると

押したときに液晶画面またはファインダーに映っている画像が記録されます。

カメラ撮影中にフォト撮影するときは

フォトボタンを軽く押して画像を確認することはできません。フォトボタンを深く押し、撮影してください。約7秒間静止画を記録したあと、撮影スタンバイに戻ります。

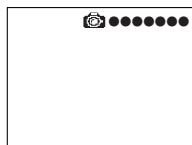
動きのある画像をフォトモードで撮影すると

他の機器で再生したときに画像がブレることがありますが、故障ではありません。

1 ［撮影スタンバイ中］に
フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。

キャプチャー

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このときは、まだ録画されていません。

画像を選び直すときはフォトボタンを離してからもう1度軽く押す。

2 **フォトボタンを深く押す。**

●●●●●●●

録画中は1秒ごとに赤い丸が消えていく。

ボタンを押し込んだときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。

記録中に液晶画面またはファインダーに映る画像は静止画となります。

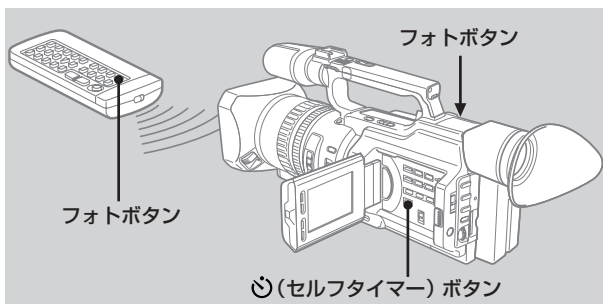
ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。

- セルフタイマーテープフォト撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーテープフォト撮影

セルフタイマーを使って静止画を撮影することができます。

リモコンでも使えます。

1 ［撮影スタンバイ中］に
(セルフタイマー) ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

2 **フォトボタンを深く押す。**

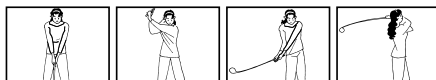
セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前になるとブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

秒読み中に撮影を止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度(セルフタイマー) ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。

リモコンを使って撮影を中断することはできません。

全画素で撮る – プログレッシブ記録モード

本機で撮影した動画をパソコンなどに取り込んで、その一部を静止画としてお使いになる場合は、下記の手順でプログレッシブ記録モードにして撮影することをおすすめします。通常の撮影モードでテープに記録した動画に比べると、静止画にしたときの画像のぶれが少ないので、スポーツのフォーム解析をするときなどに便利です。（画の更新が1/15秒ごとの撮影になりますので、動画としてお楽しみになる場合は、通常の撮影モードでのご使用をおすすめします。）

全画素書き出し（プログレッシブ）とは

通常のテレビ放送は、1つの画面を細かい2つのフィールドに分け、1/60秒ごとに交互に映しています（インターレース方式）。このとき瞬間ごとの画像は、見た目の面積の半分にしか映っていません。これに対し、一度に全画素（フレーム）を書き出す記録方式をプログレッシブといいます。被写体の動きが鈍くなって見えますが、画像は鮮明になります。本機の画の更新は1/15秒ごとです。

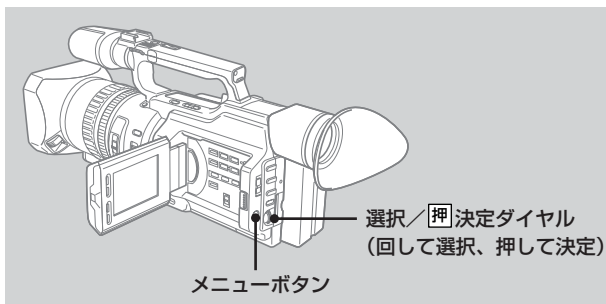
お買い上げ時は、従来のテレビの画像方式に設定されています。

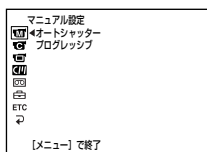
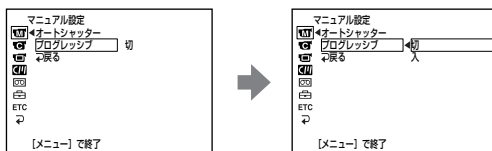
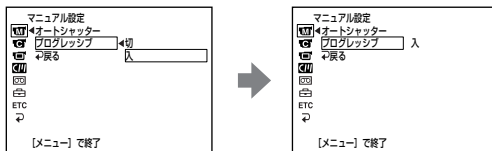
蛍光灯などの照明下では

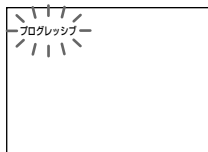
蛍光灯、電球などの照明下でプログレッシブ記録モードにして撮影すると、画面が明るくなったり、暗くなったりする現象（フリッカー）が起こることがありますが、故障ではありません。

気になるときはメニューで「プログレッシブ」を「切」にしてください。

プログレッシブ記録モード中は以下の操作ができません

– デジタルズーム
– ワイドTVモード

❶ ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して「M」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「プログレッシブ」を選び、押して決定する。**

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

プログレッシブ表示が出る。

プログレッシブ記録モードを解除する

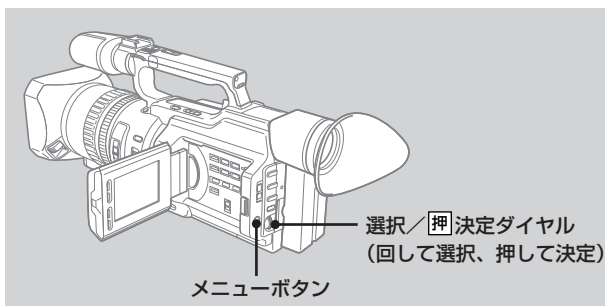
手順4で「切」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

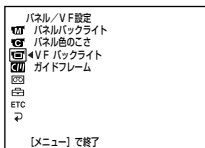
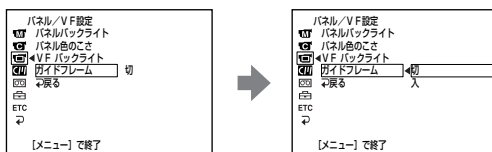
ガイドフレームを使う

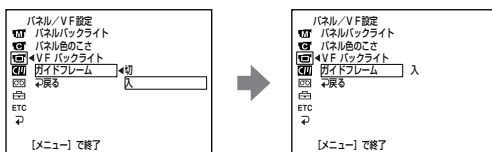
ガイドフレームを画面に表示して撮影すると、ガイドフレームを基準にして水平／垂直のライン合わせが簡単にできます。

ガイドフレームは記録されません。

ご注意

ガイドフレームは水平・垂直を確認するための目安としてお使いください。フレームの大きさや位置は、本機の設定や撮影に影響しません。

❶ ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］、［メモリーモード中］に
メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「ガイドフレーム」を選び、押して決定する。**

メニューの「ガイドフレーム」で「入」を選択すると
他の画面表示も出ます。

❹ **選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**

❺ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

ガイドフレームが出る。

ガイドフレームを消す

手順4で「切」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。
画面表示ボタンを押しても消えます。

横長の画面にする – ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。ID-1/ID-2対応テレビに接続した場合や、S（S1）映像入力端子に接続したときは、自動的にテレビのワイドモードが切り換わります。

接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドTVモードで撮影

液晶画面/
ファインダー

ワイドテレビで
再生

テレビをフルモードに
切り換える

通常のテレビで
再生*

画像が縦長になります。

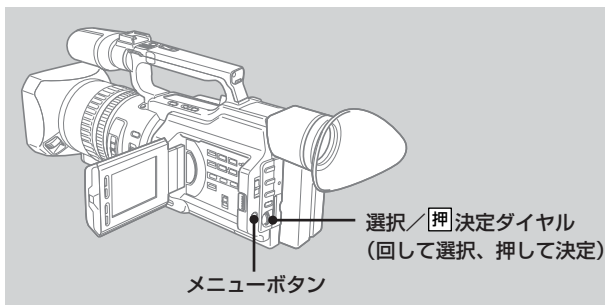
* 4:3モードで再生すると、画像が縦長になります。ワイドモードで再生すると、液晶画面・ファインダーで見たときと同じように映ります。

ワイドTVモードのときは以下の操作ができません
– オールドムービー
– プログレッシブ記録モード

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。
ワイドTVモードを解除するときは、必ず「撮影スタンバイ」にしてから、メニューの「ワイドTV」を「切」にしてください。

ID-1方式とは
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムです。

ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

S1映像信号とは
通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されています。

[撮影スタンバイ中] に

メニューの「ワイドTV」を「入」にする（115ページ）。

ワイドTVモードを解除する

メニューの「ワイドTV」を「切」にする（115ページ）。

効果的な場面転換をする – フェーダー

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

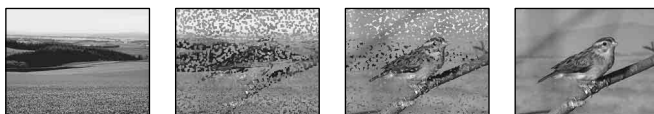
フェードイン

フェーダー

オーバーラップ*

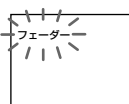
ワイプ*

ドットフェーダー*

* フェードインのみ

フェードアウト

モノトーンフェーダー

フェードインは白黒からカラーに、
フェードアウトはカラーから白黒になります。

1 • フェードインは［撮影スタンバイ中］に
• フェードアウトは［撮影中］に
フェーダーボタンを押して、希望の表示を出す。

押すたびに変わる。
フェーダー→モノトーンフェーダー→オーバーラップ→ワイプ→ドットフェーダー→（表示なし）
表示は前回使ったモードから始まります。

2 スタート／ストップボタンを押す。

表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

表示が消えるまでフェーダーボタンを押す。

ご注意

フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
– デジタルエフェクト
– プログラムAEのキャンドルモード（オーバーラップとワイプ、ドットフェーダーのみ）
– テープフォト撮影
– インターバル録画
– コマ撮り

「オーバーラップ」または「ワイプ」、「ドットフェーダー」を出すと

本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中は表示が早い点滅になり、再生画像が映ります。

画像に特殊効果を加える – ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように白黒を反転させて

ソラリ
→明暗を強調したイラストのように

モノトーン→白黒に

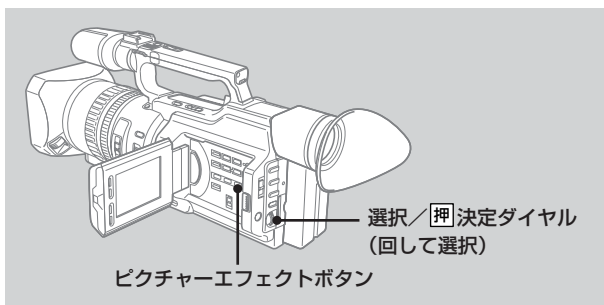
セピア→ 古い写真のような色あいに

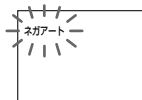
スリム
→縦に引き伸ばしたように

ストレッチ
→横に引き伸ばしたように

ピクチャーエフェクト中は
オールドムービーは選べません。

電源スイッチを「切（充電）」にすると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

メニューの「プログレッシブ」を「入」にすると
スリムとストレッチは選べません。

1 ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に
ピクチャーエフェクトボタンを押す。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して、希望の表示を出す。**

次の順で変わる。
ネガアート↔セピア↔モノトーン↔ソラリ↔スリム↔ストレッチ

ピクチャーエフェクトを解除する

ピクチャーエフェクトボタンを押し、表示を消す。

特殊な演出を加えて撮る – デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像にさまざまな演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

オールドムービー
画面の上下に黒い帯が出て、画面が横長に見える。画像をセピア色にして、シャッタースピードを落として撮影する。

スチルの例

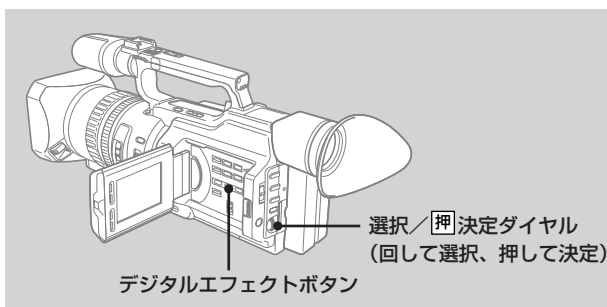
静止画　動画

ルミキーの例

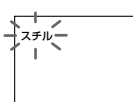
静止画　動画

ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  - フェーダー
  - プログラムAEのキャンドルモード
  - テープフォト撮影
  - 1/30秒以下のシャッタースピード
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  - ワイドTVモード
  - ピクチャーエフェクト
  - プログラムAE
  - スポットライトモード
  - シャッタースピード調節

電源スイッチを「切（充電）」にすると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に**デジタルエフェクトボタンを押す。**

表示が出る。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して、使いたいモードを選ぶ。**

次の順で変わる。
スチル↔フラッシュ↔ルミキー↔トレイル↔オールドムービー

❸ 選択／押決定ダイヤルを押して決定する。

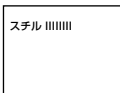
表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記録される。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下の通り。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取り込む部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
オールドムービー	調節は必要ない。

スチル IIIIIII

バー表示。長くするほど効果が大きくなる。
次のデジタルエフェクトで表示される。
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイル。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、表示を消す。

手動調節で撮る

通常本機では、撮影のために必要な各調節を自動で行っています。ただし、お好みにより次の機能を手動で調節できます。

■ **オートロックスイッチを解除位置にして手動調節できる機能**
画像の明るさ、シャッタースピード、ホワイトバランス、プログラムAE

■ **メニューを使って調節する機能**
手ぶれ補正の解除

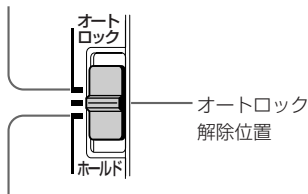
■ **その他のスイッチを使って調節する機能**
NDフィルター、ゼブラパターン、フォーカス、ズーム

ここでは、ホワイトバランス（47ページ）とプログラムAE（54ページ）、フォーカス（56ページ）、ズーム（18ページ）以外の調節を説明します。

逆光補正中（20ページ）またはスポットライトモード中（20ページ）に明るさを手動調節にすると、逆光補正またはスポットライトは解除されます。

オートロックスイッチ

位置を下記のように変えることで各機能の設定を保持/解除します。

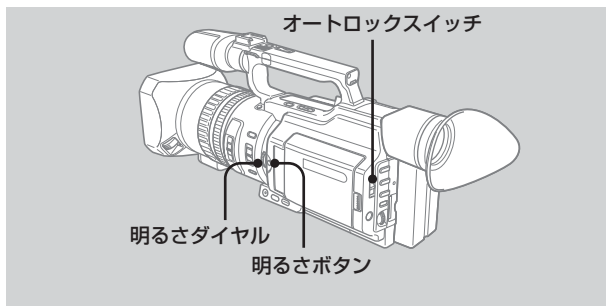
オートロック
すべての機能を自動で調節します。

ホールド
オートロックスイッチをマニュアルにして手動で調節したあと、この位置にすると、設定を保持します。

ビデオフラッシュライト（別売り）を使うときは
オートロックスイッチを「オートロック」にすることをおすすめします。

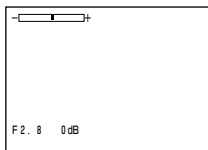
こんなときに使うと便利です
- 逆光補正を細かく行いたいとき
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
- 夜景を撮りたいとき

プログラムAEボタンを押すと
明るさ調節は自動に戻ります。

画像の明るさを調節する

画像をお好みの明るさに手動調節し、固定できます。

❶ ［撮影中］または［撮影スタンバイ中］、［メモリーモード中］に
オートロックスイッチをオートロック解除位置にする。

❷ 明るさボタンを押す。

明るさ表示が出る。

❸ 明るさダイヤルを回して、明るさを調節する。

アイリス（レンズ絞り）はオープン～クローズ、ゲインは0 dB～18 dBの範囲で変わる。

自動調節に戻す

オートロックスイッチを「オートロック」にする。または明るさボタンを押して、表示を消す。

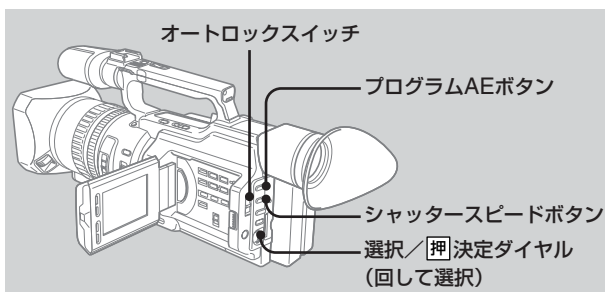
シャッタースピードが遅いときは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると
シャッタースピードによっては、画面が明るくなったり、暗くなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化したりすることがあります。このような場合には、シャッタースピードを関東地方など50 Hzの地域では1/100に、関西地方など60 Hzの地域では1/60に固定してください。

シャッタースピードを調節する

❶ ［撮影中］または［撮影スタンバイ中］、［メモリーモード中］に **オートロックスイッチをオートロック解除位置にする。**

使いこなす―撮影―

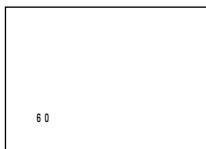
次のページへつづく

ご注意

シャッタースピードを1/30秒以下にすると、スポットライトモード（20ページ）とデジタルエフェクト（38ページ）は使えません。

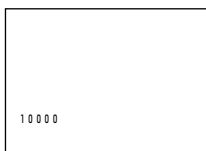
❷ 液晶画面またはファインダーにプログラムAE表示が出ているときは、プログラムAEボタンを押して、表示を消す。

❸ シャッタースピードボタンを押す。

シャッタースピード表示が出る。

60

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して、シャッタースピードを調節する。

シャッタースピードは下記の範囲で変わる。

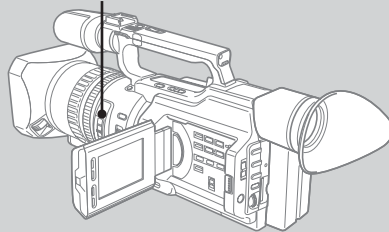
1/4、1/8、1/15、1/30、…、1/4000、1/6000、1/10000
数値が小さくなる（画面上の表示が大きくなる）ほどシャッタースピードが速くなり、数値が大きくなる（画面上の表示が小さくなる）ほどシャッタースピードが遅くなる。

手動調節を解除する

オートロックスイッチを「オートロック」にする。またはシャッタースピードボタンを押して、表示を消す。

ご注意

- 撮影中にNDフィルターを切り換えると、画像が乱れたり、音声にノイズが入ることがあります。
- 撮影を始める前に、NDフィルターの位置を確認することをおすすめします。
- 別売りのビデオフラッシュライトを使うときは、NDフィルタースイッチを「切」にしてください。
- 明るい被写体を撮影するとき、アイリス小絞りによる回折現象のためピントが甘くなることがあります（ビデオカメラでは一般的に起こる現象です）。NDフィルターを使うと、この現象をおさえ、より良好な撮影状況を得ることができます。

NDフィルターを使う

本機には、NDフィルター（NDフィルター1は光量約1/4相当、NDフィルター2は光量約1/32相当に調整）が内蔵されています。NDフィルターを使うと、撮影状況が明るすぎる場合でも、適度な光量に調節し、被写体を鮮明に撮影することができます。

画面に「ND1」または「ND2」表示が点滅したら

NDフィルターが必要です。

「ND1」が点滅したときは、NDフィルタースイッチを「1」にして表示を点灯させる。

「ND2」が点滅したときは、NDフィルタースイッチを「2」にして表示を点灯させる。

画面に「ND OFF」表示が点滅したら

NDフィルターは不要です。

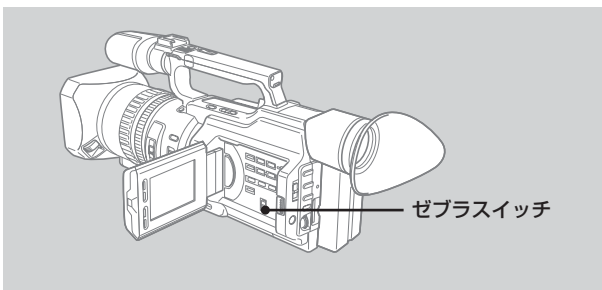
NDフィルタースイッチを「切」にして、表示を消す。

NDフィルターが解除されます。

ゼブラパターンは
テープには記録されません。

ゼブラパターンを使って調節する

ゼブラパターン

ゼブラパターンとは、液晶画面またはファインダーに映る画像のなかで、輝度が一定レベルを超える部分に出る、斜めの縞模様のことです。設定を「100」にしたとき、ゼブラパターンの出る部分は白とびが生じることがあります。そのため、撮影の前にパターンが出るように設定し、明るさを調節するときの目安にします。

［撮影スタンバイ中］または［メモリーモード中］に
ゼブラスイッチを「70」または「100」にする。

設定	意味
70	液晶画面またはファインダーに映る画面上の輝度レベルが約70 IREの部分にゼブラパターンが現れます。
100	液晶画面またはファインダーに映る画面上の輝度レベルが約100 IRE以上の部分にゼブラパターンが現れます。
切	ゼブラパターンは現れません。

ゼブラパターンを解除する

ゼブラスイッチを「切」にする。

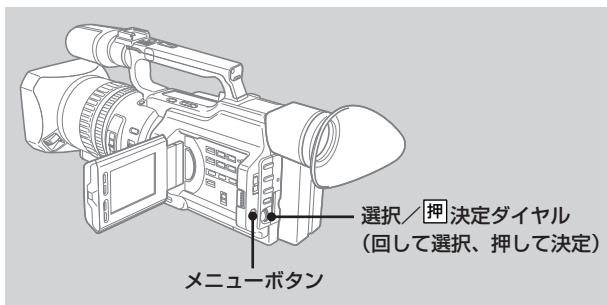
こんなときに使うと便利です
三脚に取り付けるなど手ぶれの心配がないとき。

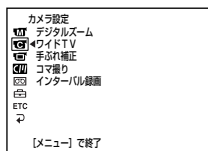
ご注意

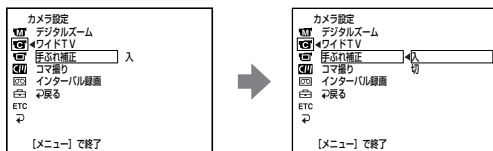
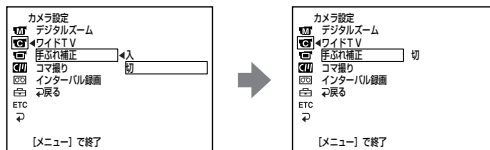
- 「手ぶれ補正」が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正されないことがあります。
- 手ぶれ補正を解除すると、手ぶれの補正を行いません。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示"(OFF)"が出ます。

次の別売りレンズを取り付けると手ぶれ補正が効きにくくなります

- テレコンバージョンレンズ
- ワイドコンバージョンレンズ

手ぶれ補正を解除する

1 [撮影スタンバイ中] または [メモリーモード中] に
メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して「C」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「手ぶれ補正」を選び、押して決定する。**

次のページへつづく

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して、「切」を選び、押して決定する。

❺ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

手ぶれ補正を働かせるときは

手順4で「入」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

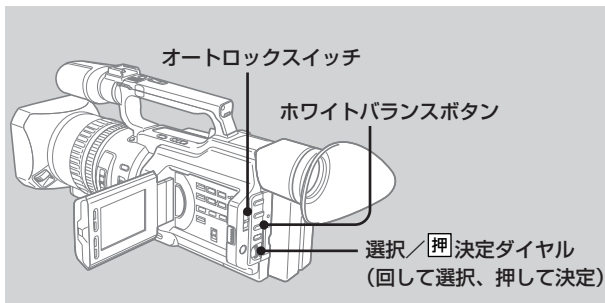
自然な色あいに調節する – ホワイトバランス

これから撮ろうとしている光の状態に合わせ、被写体がより自然な色あいになるように手動で調節することができます。

通常は自動的に色あいが調整されています。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
手順3で☼（屋内）を出して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
室内で撮影する場合でも、☼（屋内）に設定すると、正しいホワイトバランスが設定できません。で設定し直すか、自動調節で撮影してください。

光源が変わったときは
撮影スタンバイ中にホワイトバランスを設定し直してください。撮影中は、でホワイトバランスを設定できません。

1 ［撮影中］または［撮影スタンバイ中］、［メモリーモード中］に
オートロックスイッチをオートロック解除位置にする。

2 **ホワイトバランスボタンを押す。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回し、お好みの表示を表示させる。**

表示が（ワンプッシュホワイトバランス）↔ ☀（屋外）↔ ☼（屋内）と変わる。

表示	撮影状況例
	● 光源に合わせてホワイトバランスの設定をするとき ［撮影中］はできません。次ページの手順に従って設定し直してください。
☀（屋外）	● 夜景やネオン、花火などを撮るとき ● 日の出、日没などを撮るとき ● 昼光色蛍光灯の下
☼（屋内）	● パーティー会場など照明条件が変化する場所 ● スタジオなどビデオライトの下 ● ナトリウムランプや水銀灯の下

使いこなす―撮影―

選択／押決定ダイヤルを押しても表示が点滅から点灯に変わらないときは
ホワイトバランスの設定ができません。自動調節にして撮影してください。

ホワイトバランスの調整
次のようなときは、電源スイッチを「カメラ」にしてから10秒程度、カメラを白っぽい被写体に向けてください。よりよい色あいに調節できます。
ホワイトバランスを自動調節にしたままで
- バッテリーを交換したとき
- 画像の明るさを固定したまま、屋内と屋外を行き来したとき。

手順3で（ワンプッシュホワイトバランス）を選んだときは

被写体を照らす照明条件が変わらない場合、その条件に合わせて、より正しいホワイトバランスを設定できます。下記の手順に従って設定してください。

[画面にを出した状態で]

1 **白い紙などを画面いっぱいに映す。**

2 **選択／押決定ダイヤルを押す。**

が早い点滅から点灯に変われば設定終了です。この設定はバッテリーを取りはずしても保持されます。

自動調節に戻す

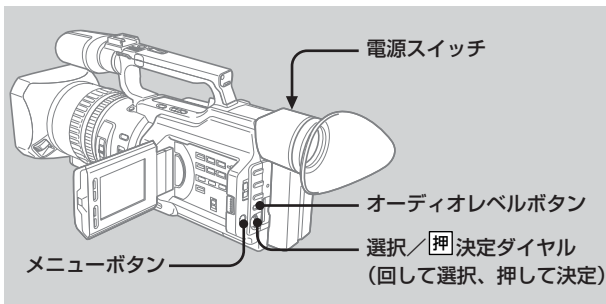
オートロックスイッチを「オートロック」にする。またはホワイトバランスボタンを押して、表示を消す。

録音レベルを調節する – マイク音レベル

録画するときの音量（マイク音レベル）を調節できます。ヘッドホンをつけてレベルを確認することをおすすめします。

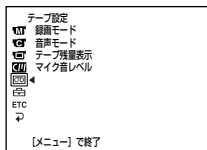
調節したマイク音レベルの保持時間は
バッテリーをはずしてから、約5分間です。そのあとは自動的にお買い上げ時と同じレベルに設定されます。

マイク音レベルを手動調節にすると
画面下部にマイク音レベル表示が出ます。

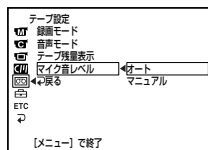
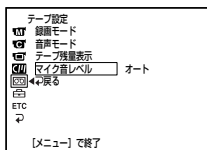
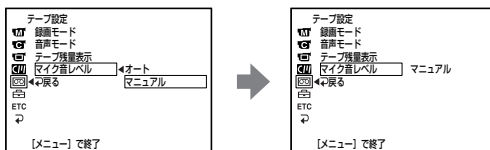
音声右／左端子またはDV端子から入力された音声は
レベルを調節できません。

手動調節にする

1. 電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。

2. メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

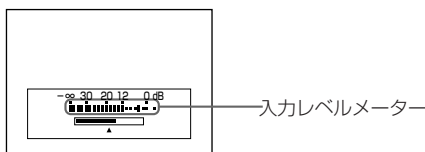
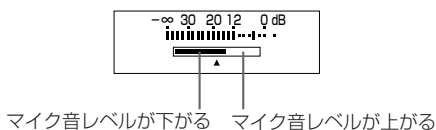
3. 選択／押決定ダイヤルを回して「▣」を選び、押して決定する。

4. 選択／押決定ダイヤルを回して「マイク音レベル」を選び、押して決定する。

使いこなす－撮影－

次のページへつづく

❺ **選択／押決定ダイヤルを回して「マニュアル」を選び、押して決定する。**

❻ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

マイク音レベルを調節する

マイク音レベルが「オート」に設定されているときは
入力レベルメーターは表示されますが、マイク音を調節することはできません。

❼ [撮影スタンバイ中] に
オーディオレベルボタンを押して、マイク音レベル調節画面を表示する。

❽ **選択／押決定ダイヤルを回して、マイク音レベルを調節する。**

マイク音レベル調節画面を消す

オーディオレベルボタンを押す。

マイク音レベルを自動で調節する

手順5で「オート」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

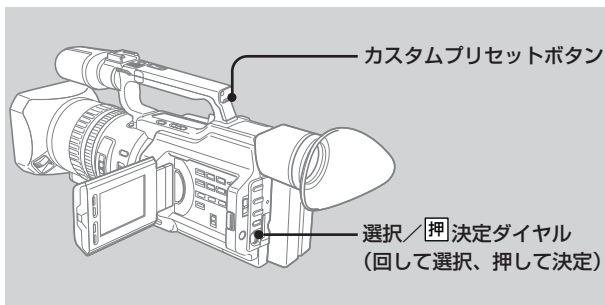
好みの画質を設定する – カスタムプリセット

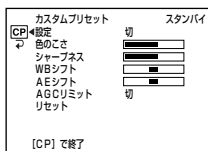
好みの画質で撮影できるように、あらかじめ本機を調節できます。

この機能を使うときには、本機をテレビにつないで、画像を確認しながら調節してください。

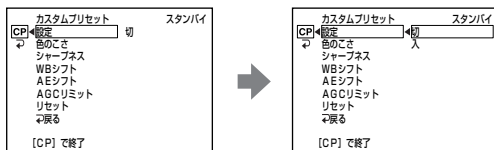
カスタムプリセットメニューの「リセット」を選ぶと、お買い上げ時の画質設定に戻ります。

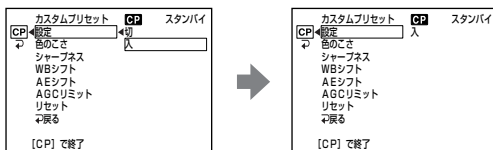
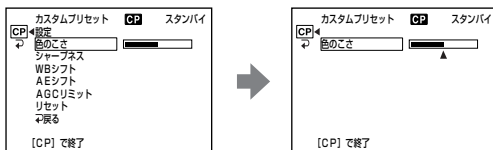
カスタムプリセットメニューの「設定」を「入」にすると
画面にCPと表示されます。

カスタムプリセットでの設定は
設定を行ったモードでのみ有効です。カメラモード、メモリーモードのそれぞれでカスタムプリセットしたいときは、それぞれのモードで別々に設定を行ってください。

1 [撮影スタンバイ中] または [メモリーモード中] に**カスタムプリセットボタンを押す。**

カスタムプリセットメニューが出る。

2 **選択／押決定ダイヤルを押す。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「設定」を選び、押して決定する。**

次のページへつづく

AEシフトを調節すると
撮影状況や被写体に合わせて、画像を好みの明るさに調節することができます。

4 選択／押ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して設定したい項目を選び、押して決定する。

6 選択／押決定ダイヤルを回して画質を調節し、押して決定する。

設定	設定内容	画像の変化
色のこさ	色の濃淡	薄くなる ←→ 濃くなる
シャープネス	画像の輪郭	柔らかな画像に ←→ くっきりした画像に
WBシフト	好みの色あいに	青味がかかる ←→ 赤味がかかる
AEシフト	明るさ調整	−4←→ +4
AGCリミットオート	ゲインの上限値	6dB、12dBまたは「切」
リセット	お買い上げ時の状態に戻す	

ゲインの上限値は
明るさを手動で調節しているときは、18 dB（切）になります。

7 カスタムプリセットボタンを押す。

カスタムプリセットメニューが消え、CPが表示される。

カスタムプリセットを使った撮影をやめる

手順4で「切」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

カスタムプリセットの設定を標準に戻す

手順5で「リセット」の「実行」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。中止するときは、「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

カスタムプリセットの設定を確認する

[撮影スタンバイ中] または [撮影中]、[メモリーモード中] にカスタムプリセットボタンを押す。カスタムプリセットの設定が画面に出る。

撮影状況に合わせて撮る – プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

アイリス優先モード
絞りを手動で切り換えることができます。シヤッタースピードは自動的に調節されます。

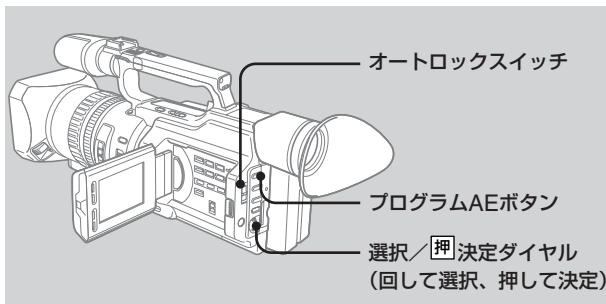
シャッタースピード優先モード
シャッタースピードを手動で切り換えることができます。アイリス値は自動的に調節されます。

スポーツレッスンモード
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

サンセット&ムーンモード
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

キャンドルモード
暗い場所でも、被写体を明るく撮影することができます。

ご注意

- スポーツレッスンモードでは50 cm以内にある被写体にピントが合わないようにフォーカスを制御します。
- サンセット＆ムーンモードでは遠景（距離10 m以上）のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
- プログラムAE中はオールドムービー、シャッタースピード調節の操作ができません。
- キャンドルモード中は以下の操作ができません。
  – デジタルエフェクト
  – オーバーラップ
  – ワイプ
  – ドットフェーダー
  – スポットライトモード
- メモリーモード時、キャンドルモードとスポーツレッスンモードは操作できません。（表示が点滅します）

1 ［撮影中］または［撮影スタンバイ中］、［メモリーモード中］に
オートロックスイッチをオートロック解除位置にする。

2 **プログラムAEボタンを押す。**
表示が出る。

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると
スポーツレッスンモードでは、画面が明るくなったり暗くなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化することがあります。このような場合にはプログラムAEを解除してください。

プログラムAEモードで撮影中でも
明るさを調節できます。

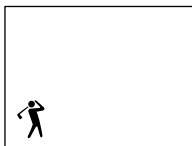
ズームをT側（望遠）にしているときは
F1.6とF2は選べません。

被写界深度について
被写体にピントを合わせると、その被写体の前後の像にぼけを生じますが、実用上ピントが合っているとみなせる範囲があります。このピントが合っているように見える範囲のことを被写界深度といいます。
この範囲が広いときは「被写界深度が深い」、また範囲が狭いときには「被写界深度が浅い」といいます。
被写界深度はアイリス（レンズ絞り）や焦点距離（ズーム）によって下の表のように変化します。

アイリス（レンズ絞り）	被写界深度
開放側（F値小）	浅い
絞り側（F値大）	深い

ズーム（焦点距離）	被写界深度
望遠（T）	浅い
広角（W）	深い

3 選択／押決定ダイヤルを回し、希望の表示を出す。

アイリス優先モードまたはシャッタースピード優先モードを選ぶときは、選択／押決定ダイヤルを押し、次の手順に進む。

表示は次の順で変わる。
アイリス優先モード↔シャッタースピード優先モード↔スポーツレッスンモード↔サンセット&ムーンモード↔キャンドルモード

4 アイリス優先モード（AE A）またはシャッタースピード優先モード（AE S）を選んでいるときは、選択／押決定ダイヤルを回し、希望のアイリス値（F値）またはシャッタースピードを選び、押して決定する。

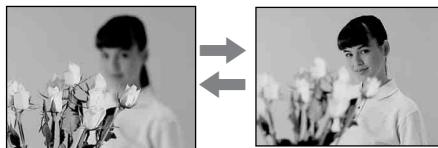
アイリス優先モード
ダイヤルを回すと、F値がF1.6からF11の範囲で変わる。数値が小さくなるほどアイリスは開き、大きくなるほど絞られる。アイリス（レンズ絞り）の設定値によって、ゲインとシャッタースピードの設定値も変わる。

シャッタースピード優先モード
ダイヤルを回すとシャッタースピードが1/60から1/10000の範囲で変わる。数値が小さくなる（液晶画面またはファインダーの表示が大きくなる）ほど速いシャッタースピードになる。シャッタースピードの設定値によって、ゲインとアイリス（レンズ絞り）の設定値も変わる。

プログラムAEを解除する

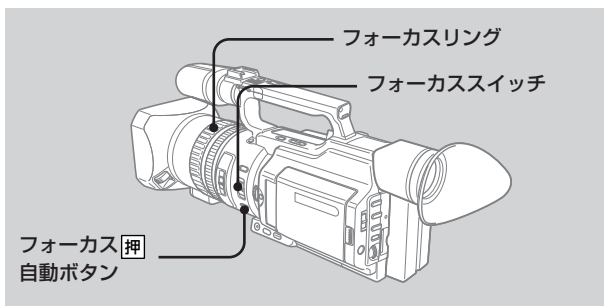
オートロックスイッチを「オートロック」にする。またはプログラムAEボタンを押して、表示を消す。

手動でピントを合わせる

被写体の位置と撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。

- 自動ではピントが合いにくいとき。
  - 被写体が水滴などのついた窓ごしにあるとき
  - 被写体が横縞だけのもののとき
  - 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えたいとき。
- 三脚を使い、ピントを固定して静止した被写体を撮るとき。

正確にピントを合わせるには
ズームをT側（望遠）にして手動でピント合わせをしたあと、徐々にW側に合わせ、ズームの調節をしてください。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせてください。

手動でピント合わせをするとき、◎が次のようなマークに変わります
▲ 無限遠にあるとき。
● それ以上近くにピント合わせをすることができないとき。

1. ［撮影中］または［撮影スタンバイ中］、［メモリーモード中］に
フォーカススイッチを「手動」にする。
手動ピント合わせ表示◎が出る。

2. **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻す

フォーカススイッチを「自動」にする。

ピントを無限遠にして撮影する

フォーカススイッチを「無限」に合わせる。▲表示が出る。

指を離すとピント合わせが手動に戻る。

遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときなどに使います。

一時的にオートフォーカスで撮影する

フォーカス押自動ボタンを押す。押している間、オートフォーカスが働く。

手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体へピントを移すようなときに使うと、自然にピントが合うようななめらかな画像になります。指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

一定時間おきに撮る – インターバル録画

あらかじめ設定した時間ごとに、録画と録画停止を交互に行います。

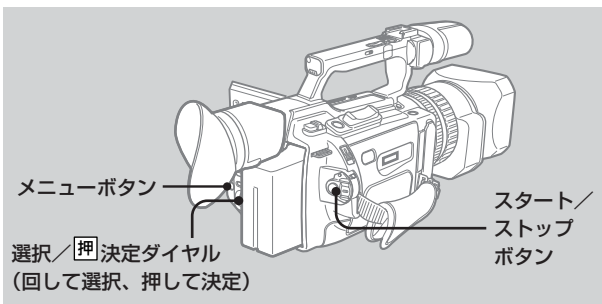
花の開花や、昆虫の羽化などの場面を時間をおいて撮影するとき。

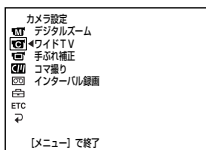
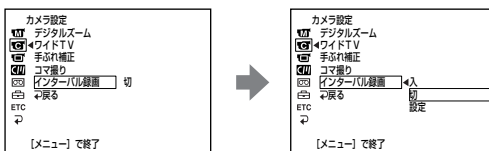
例

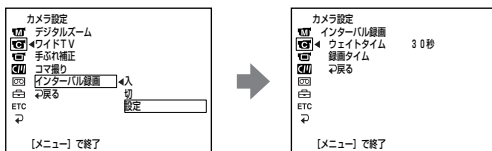
「ウェイトタイム」10分、「録画タイム」1秒を選んだ場合（約10分ごとに、約1秒録画されます。）

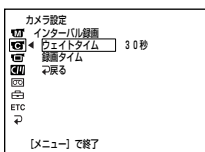
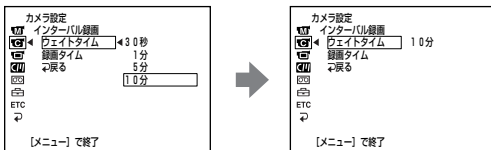
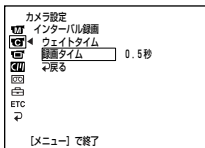
ご注意

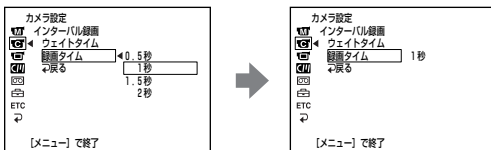
メモリーモードのときは、インターバル録画はできません。

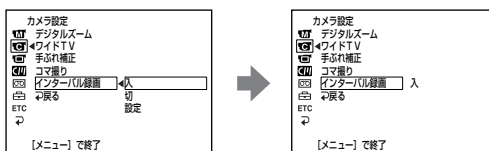
インターバル録画中は
インデックスは打ち込めません。

1 ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

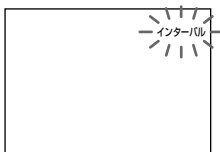
2 **選択／押決定ダイヤルを回して「C」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「インターバル録画」を選び、押して決定する。**

録画タイムは
最大±6フレーム程度の誤差が出ることがあります。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「設定」を選び、押して決定する。

❺ 「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。

1. 選択／押決定ダイヤルを回して「ウェイトタイム」を選び、押して決定する。

2. 選択／押決定ダイヤルを回して「ウェイトタイム」を設定し、押して決定する。

3. 選択／押決定ダイヤルを回して「録画タイム」を選び、押して決定する。

4. 選択／押決定ダイヤルを回して「録画タイム」を設定し、押して決定する。

次のページへつづく

5　選択／押決定ダイヤルを回して「戻る」を選び、押して決定する。

❻ 選択／押決定ダイヤルを回して「インターバル録画」を「入」にし、押して決定する。

❼ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

インターバル表示が点滅する。

❽ スタート／ストップボタンを押す。

インターバル録画が始まる。

インターバル録画中は、インターバル表示が点灯する。

インターバル録画を解除する

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「インターバル録画」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

インターバル録画実行中に通常の録画をする

スタート／ストップボタンを押す。

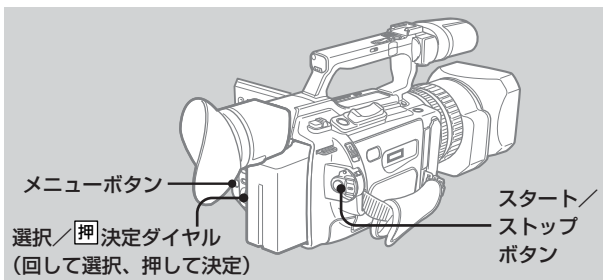
1回だけ通常の録画ができます。終了するには、もう1度スタート／ストップボタンを押します。

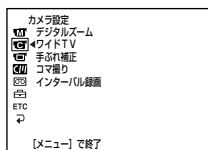
アニメーションのように撮る – コマ撮り

人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。本機を固定し、手順6以降をリモコンで操作することをおすすめします。

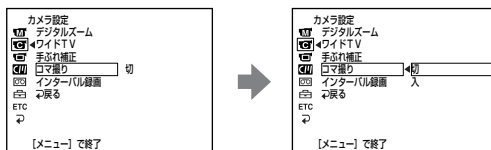
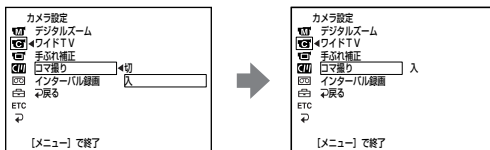
コマ撮りをすると
最終カットは通常の1コマよりも長くなります。

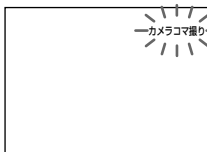
ご注意
コマ撮りを連続して行うと、テープ残量表示は正しく表示されません。

コマ撮り中は
インデックスは打ち込めません。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して、「C」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「コマ撮り」を選び、押して決定する。**

使いこなすー撮影ー

次のページへつづく

4 **選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**

5 **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

カメラコマ撮り表示が点灯する。

6 **スタート／ストップボタンを押す。**

1コマ（約6フレーム）分の撮影が行われ、撮影スタンバイに戻る。

7 **被写体を動かし、手順6を繰り返す。**

コマ撮りを解除するには

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「コマ撮り」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

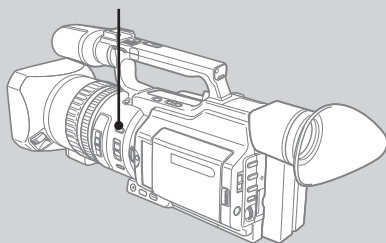
インデックス信号を打ち込む

頭出ししたい場面にインデックス信号を打ち込んでおくと、場面を検索することができます（65ページ）。

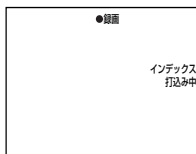
ご注意

- インデックスは撮影中に打ち込みます。インデックスをあとから打ち込むことはできません。
- インデックス信号は、テープとカセットメモリーの両方に記録されます。カセットメモリーの付いていないカセットをお使いのときやカセットメモリーがいっぱいのときは、テープにのみ記録されます。

一度撮影したテープに上書き撮影し、インデックス信号を打ち込むときは

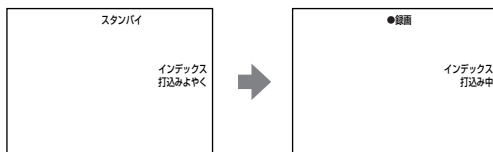
カセットメモリーをすべて消去してから行うことをおすすめします。

[撮影中]に

インデックス打込みボタンを押す。

約7秒間「インデックス打込み中」と表示される。表示が消えると、インデックス打込みが終了する。

[撮影スタンバイ中]に

インデックス打込みボタンを押す。

「インデックス打込みよやく」と表示される。

録画を開始すると「インデックス打込み中」と表示が変わり、インデックス信号が記録される。

インデックス信号はカセットメモリーとテープの両方に記録される。カセットメモリーには11フレーム目（約0.3秒後）から、テープには11フレーム目から約5秒間信号が記録される。

「インデックス打込みよやく」を解除するには

[撮影スタンバイ中]にもう1度インデックス打込みボタンを押す。

見たい場面にすばやく戻す – ゼロセットメモリー

テープカウンター値を「0:00:00」に設定した場面まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。リモコンでのみ操作できます。

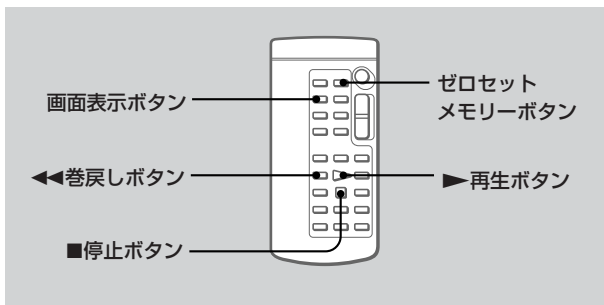
ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう1度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。

テープの途中に記録されていない部分があると

ゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。

撮影スタンバイ中にも操作できます

ある部分だけ撮り直したいときに、撮り直したい部分の終了点でゼロセットメモリーボタンを押しておきます。
撮り直したい部分の開始点まで巻き戻して撮影を始めると終了点でテープが停止し、再び撮影スタンバイになります。

1. ［再生中］に
   表示が出ていないときは画面表示ボタンを押す。

2. **あとから見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**
   テープカウンター値が「0:00:00」になる。
   ゼロセットメモリー表示が点滅する。

3. **再生が終わったら■停止ボタンを押す。**

4. **◀◀巻戻しボタンを押す。**
   テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

5. **▶再生ボタンを押す。**
   再生が始まる。

インデックスで頭出しする – インデックスサーチ

インデックス信号を打ち込んだ場面を頭出しできます。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。リモコンも使います。

インデックスの変わり目を確認したり、インデックスごとに編集するときなど。

■カセットメモリーを使ったインデックスサーチ ➡ 画面でインデックスを選んで頭出し

■カセットメモリーを使わないインデックスサーチ ➡ インデックスの変わり目を頭出し

画面上の［テープ］マーク中のバーは
テープの現在位置を表します。

画面上の［テープ］マーク中の⧗マークは
頭出ししたい位置を表します。

録画した部分に無記録部分があるテープでは
インデックスサーチが正しく働かないことがあります。

カセットメモリーを使って頭出しする

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（152ページ）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（115ページ）

お買い上げ時は「入」に設定されています。

❸ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、インデックスサーチを選ぶ。

インデックスサーチ画面が出る。

押すたびにインデックスサーチ→タイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

次のページへつづく

外部入力しているときにインデックスを打ち込むと
CHの欄に「入力」と表示されます。

外部入力録画開始時の自動打ち込みは
カセットメモリーには記録されません。インデックスサーチをするときは、メニューの「Cメモリーサーチ」を「切」にして、カセットメモリーを使わずにインデックスサーチを行ってください。

4 リモコンのI◀◀または▶▶Iボタンを押して、頭出ししたいインデックスを選ぶ。

選んだインデックスの場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューの「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（115ページ）

カセットメモリーの付いていないカセットをお使いの場合は、「切」にする必要はありません。

3 リモコンのサーチ選択ボタンを押して、インデックスサーチを選ぶ。

押すたびにインデックスサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

4 リモコンのI◀◀または▶▶Iボタンを押す。

インデックスをさかのぼるときは、I◀◀ボタンを、インデックスを進めるときは、▶▶Iボタンを押す。インデックスが打ち込んである位置で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（I◀◀）または後ろ（▶▶I）のインデックスが頭出しされる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

タイトル場面を頭出しする – タイトルサーチ

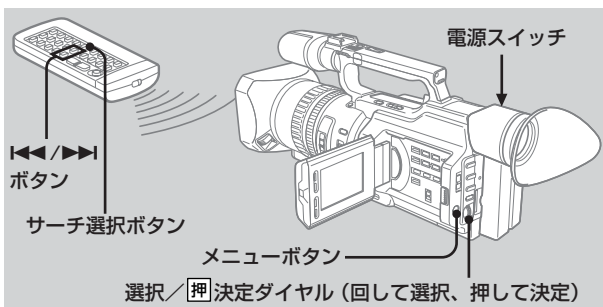
カセットメモリー付きカセットを使えば、タイトルを入れた場面を探せます（タイトルサーチ）（152ページ）。リモコンも使います。

タイトルを入れた場面を探したいとき

カセットメモリーの付いていないカセットでは
タイトルを入れたり、タイトル場面を頭出ししたりできません。

画面上の マーク中のバーは
テープの現在位置を表します。

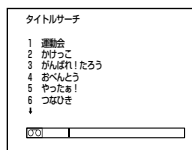
画面上の マーク中の マークは
頭出ししたい位置を表します。

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは
タイトルサーチが正しく働かないことがあります。

1 **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

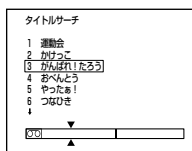
2 **メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（115ページ）**

お買い上げ時は「入」に設定されています。

3 **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、タイトルサーチを選ぶ。**

タイトルサーチ画面が出る。

押すたびにインデックスサーチ→タイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

❹ **リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたいタイトルを選ぶ。**

選んだタイトルの場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

撮影日で頭出しする – 日付サーチ

撮影した日付の変わり目を頭出しできます。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。リモコンも使います。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するときなど。

■カセットメモリーを使った日付サーチ ➡ 画面で撮影日を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わない日付サーチ ➡ 撮影した日付の変わり目を頭出し

ご注意

日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

画面上の マーク中のバーは

テープの現在位置を表します。

画面上の マーク中の⧗マークは

頭出ししたい位置を表します。

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは

日付サーチが正しく働かないことがあります。

カセットメモリーを使って頭出しする

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（152ページ）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（115ページ）

お買い上げ時は「入」に設定されています。

❸ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。

日付サーチ画面が出る。

押すたびにインデックスサーチ→タイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

使いこなす－再生－

次のページへつづく

❹ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい日付を選ぶ。

選んだ日付の場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューの「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（115ページ）

カセットメモリーの付いていないカセットをお使いの場合は、「切」にする必要はありません。

❸ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。

押すたびにインデックスサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

❹ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

見たい静止画を探す – フォトサーチ／フォトスキャン

「フォト撮影」でテープに撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。

また、カセットメモリーとは関係なく静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。

リモコンも使います。

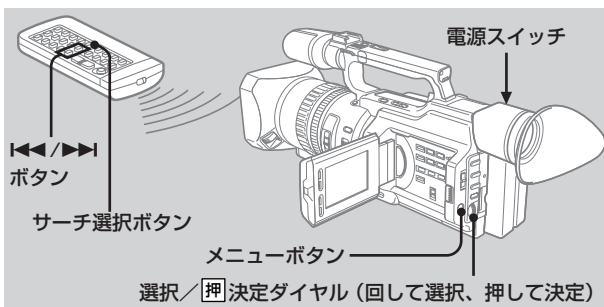
静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するときなど。

■カセットメモリーを使ったフォトサーチ ➡ 画面で静止画の撮影日時を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わないフォトサーチ ➡ 撮影日時とは関係なく静止画を探して頭出し

画面上の マーク中のバーは
テープの現在位置を表します。

画面上の マーク中の⧗マークは
頭出ししたい位置を表します。

録画した部分の間に無記録部のあるテープでは
フォトサーチが正しく働かないことがあります。

カセットメモリーを使って静止画を探す －フォトサーチ

カセットメモリー付きカセットでのみできます。（152ページ）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にする。（115ページ）

お買い上げ時は「入」に設定されています。

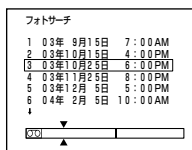
使いこなす－再生－

❸ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。**

フォトサーチ画面が出る。

押すたびにインデックスサーチ→タイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

❹ **リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい静止画の撮影日時を選ぶ。**

選んだ撮影日時の静止画が自動的に再生される。

サーチを止める

■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに静止画を探す －フォトサーチ

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **メニューの「Cメモリーサーチ」を「切」にする。****（115ページ）**

カセットメモリーのついていないカセットをお使いの場合は、「切」にする必要はありません。

❸ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。**

押すたびにインデックスサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

4 リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

静止画の場面で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

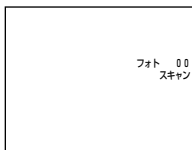
サーチを止める

■停止ボタンを押す。

静止画を次々に出して探すーフォトスキャン

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタンを押して、フォトスキャンを選ぶ。

フォトスキャン画面が出る。

押すたびにインデックスサーチ→タイトルサーチ→日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン→（表示なし）の順番で切り換わる。

3 リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

静止画が順に5秒ずつ表示される。

フォトスキャンを止める

■停止ボタンを押す。

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

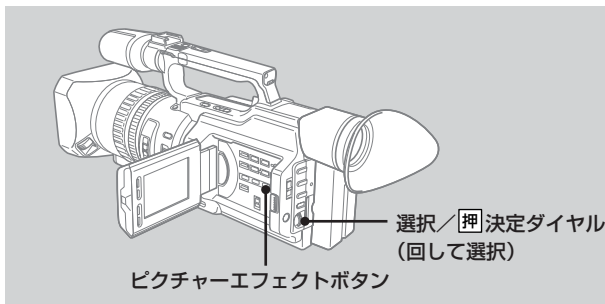
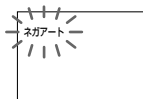
再生している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリのピクチャーエフェクトが使えます。

ご注意

- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- 加工した画像を、本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオで録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
i DV端子から出力することはできません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると
ピクチャーエフェクトは解除されます。

［再生中］または［再生一時停止中］に
ピクチャーエフェクトボタンを押し、選択／押決定ダイヤルを回してモードを選ぶ。

次の順で変わる。
ネガアート↔セピア↔モノトーン↔ソラリ

各ピクチャーエフェクトについて詳しくは、37ページをご覧ください。

ピクチャーエフェクトを解除する

ピクチャーエフェクトボタンを押し、表示を消す。

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

再生している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

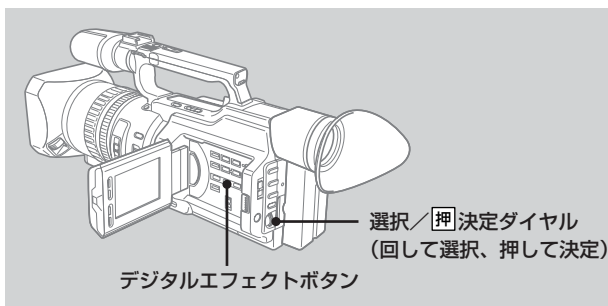
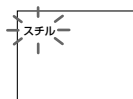
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルのデジタルエフェクトが使えます。

ご注意

- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- 加工した画像を、本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオで録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は

i DV端子から出力することはできません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止するとデジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［再生中］または［再生一時停止中］に
デジタルエフェクトボタンを押し、選択／押決定ダイヤルを回して使いたいモードを選ぶ。

次の順で変わる。
スチル↔フラッシュ↔ルミキー↔トレイル

2 **選択／押決定ダイヤルを押して、モードを決める。**

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

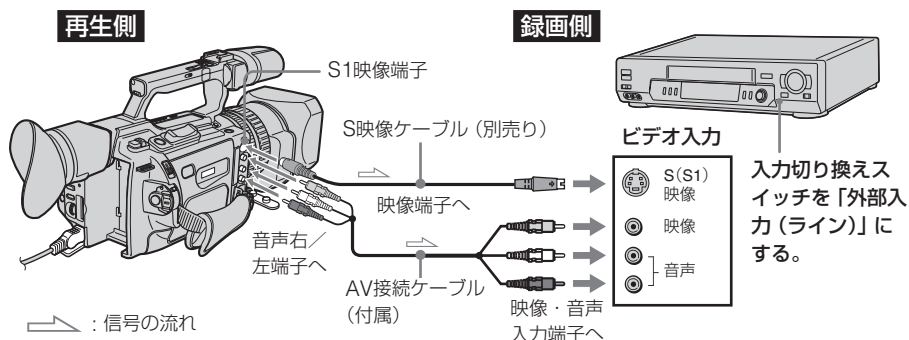
3 **選択／押決定ダイヤルを回して、効果を調節する。**

各デジタルエフェクトについて詳しくは、38ページをご覧ください。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、表示を消す。

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

次のボタンを押して画面の表示を消してください

- 画面表示ボタン
- データコードボタン
- サーチ選択ボタン（リモコン）

消さないでおくと、ダビングしたテープに記録されます。

録画機は以下のどの方式のビデオでも使えます

8、Hi8、VHS、VHSC、SVHS、SVHSC、β、ED Beta、Mini DV、DV、D、MICROMV

録画機の音声入力がひとつ（モノラル）の場合

AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぎます。赤いプラグは使いません。

別売りのS映像ケーブルを使うと

画像がより鮮明になります。ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりにS映像ケーブル（別売り）で、本機のS1映像端子とビデオのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

より精度の高い編集をするには

本機を再生機として、ファインシンクロエディット機能のあるビデオデッキと本機を別売りのLANCケーブルでつなぎます。

ダビングの前に

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。）

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。
録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチを「外部入力（ライン）」にする。
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画を始める。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

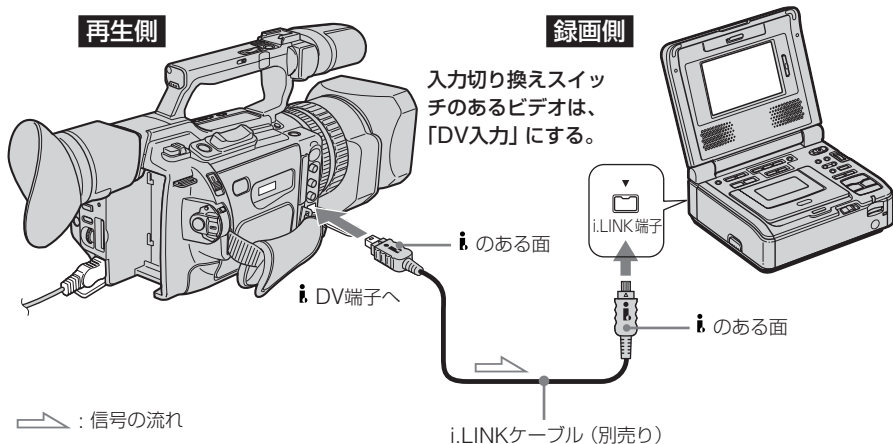
ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

i.LINKケーブルでつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

タイトルや画面表示、カセットメモリーの内容、メモリーインデックス画面の文字はダビングできません。

i.LINKケーブルで本機と接続できるのは1台だけです

デジタルエフェクト、ピクチャーエフェクトを加えた画像は
DV端子から出力することはできません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。
録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画を始める。

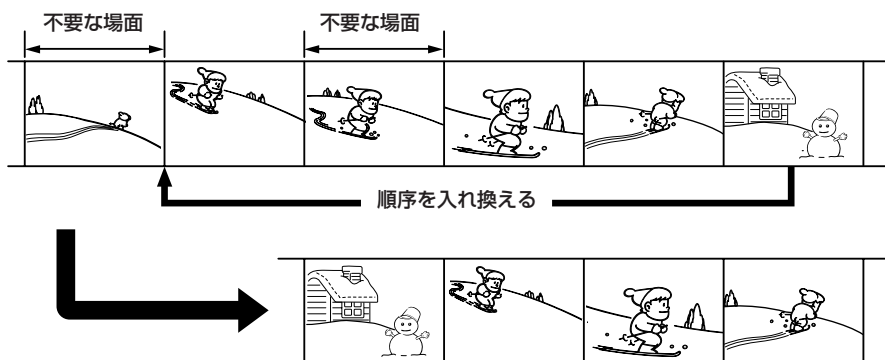
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする
－ デジタルプログラムエディット

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに別のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。

ご注意

- タイトルや画面表示、カセットメモリーの内容はダビングできません。
- i.LINKケーブルで接続したとき、録画機の機種によっては正しく操作できないことがあります。この場合は本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定してください。（79ページの準備2からやり直す。）
- テープの最初から記録すると、始めの映像が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。

i.LINKケーブルでつなぐと
デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

デジタルプログラムエディットには、次の準備が必要です

準備1：録画機をつなぐ（76、77ページ）

準備2：録画機を操作するための設定をする － リモコンでの設定／録画機を操作するための設定をする － i.LINKで録画機を操作する設定（79、83ページ）

準備3：録画機のタイミングを補正する（84ページ）

上記の準備を一度行った録画機を使用する場合、準備2、3は不要です。

操作は以下の順で行います

操作1：プログラムをつくる（86ページ）

操作2：デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）（89ページ）

準備1 録画機をつなぐ

76、77ページの図のように接続します。

AV接続ケーブルとi.LINKケーブルのどちらでも接続できます。

ダビング時の誤差は
ソニー製DV端子付き機器と接続した場合、前後5フレーム以内です。
また、以下の条件では誤差が大きくなることがあります。
- 編集したい場面の長さ（「ここから」と「ここまで」の間（86ページ））が5秒以下のとき
- 「ここから」または「ここまで」をテープの最初に設定したとき

準備2 録画機を操作するための設定をする ー リモコンでの設定

本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に信号を送り操作します。

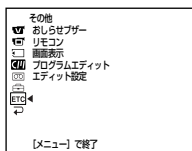
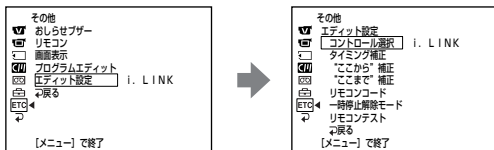
AV接続ケーブルで接続したときは、この設定を行います。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 録画機の電源を入れ、入力切り換えを選ぶ。

録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

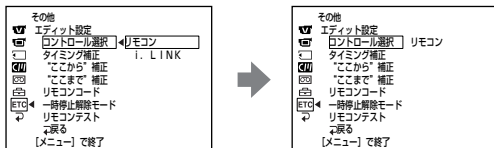
4 選択／押決定ダイヤルを回して「ETC」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して「エディット設定」を選び、押して決定する。

6 選択／押決定ダイヤルを回して「コントロール選択」を選び、押して決定する。

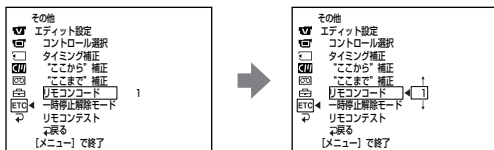
編集するーダビングなどー

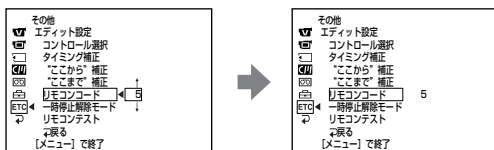
リモコンコードについて
本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの機器のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「1」に設定されています。

メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、56、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
ＮＥＣ	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードに対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

7 選択／押決定ダイヤルを回して「リモコン」を選び、押して決定する。

リモコンコードを設定する

1 選択／押決定ダイヤルを回して「リモコンコード」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルを回して録画機のリモコンコード（番号）を選び、押して決定する。

「リモコンコードについて」を参照する。（左記）

録画機の録画一時停止を解除するときのボタンの選択

録画一時停止を解除するボタンは、録画機によって違います。

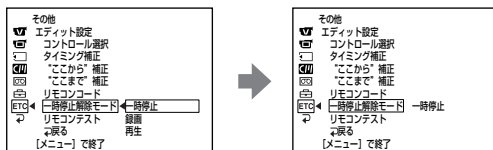
- ❚❚（一時停止）ボタンを押すときは、「一時停止」
- ●（録画）ボタンを押すときは、「録画」
- ►（再生）ボタンを押すときは、「再生」

ご注意

デジタルプログラムエディットの操作信号は、(LANC)端子で送信できません。「リモコン」または「i.LINK」で送信してください。

録画機の一時停止解除を設定する

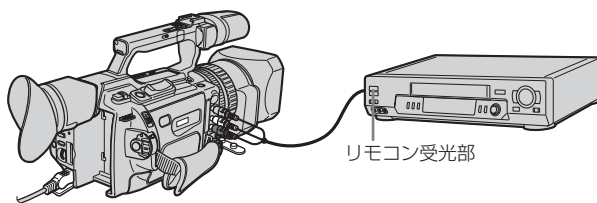
1 選択／押決定ダイヤルを回して「一時停止解除モード」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルを回して録画機の録画一時停止を解除するボタンを選び、押して決定する。

録画一時停止を解除するボタンは、録画機によって違います。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

再生機と録画機を向かい合わせる

本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

機器の距離は約30cm離し、間に障害物などがない状態にする。

画面に「録画機を一時停止にしてください」と表示されたときは
接続した録画機を一時停止状態にしてください。

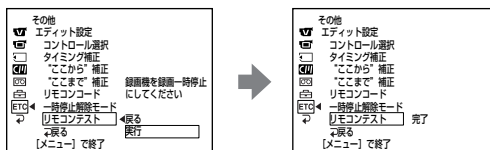
録画機が正しく動くか確認する

❶ **録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。**

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して「リモコンテスト」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。**

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されている。

終了すると本機の液晶画面またはファインダーの表示は「完了」に変わる。

録画機が正しく動作しないとき

「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、リモコンコードまたは「録画一時停止解除モード」を設定し直す。

ご注意

i.LINKケーブルで接続しているとき、録画機を正しく操作できないときは

接続はそのままにして、「コントロール操作」を「リモコン」にしてください。（79ページの準備2からやり直す）
映像／音声はデジタル信号で送られます。

準備2 録画機を操作するための設定をする ー i.LINKで録画機を操作する設定

i.LINKケーブルで接続したときはこの設定を行います。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 録画機の電源を入れ、入力切り換えを「DV入力」にする。

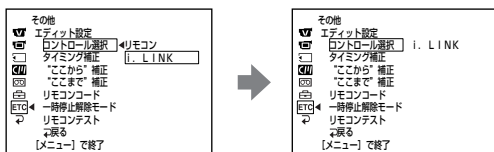
録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「ETC」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押決定ダイヤルを回して「エディット設定」を選び、押して決定する。

❻ 選択／押決定ダイヤルを回して「コントロール選択」を選び、押して決定する。

❼ 選択／押決定ダイヤルを回して「i.LINK」を選び、押して決定する。

画面に「録画機を一時停止にしてください」と表示されたときは
接続した録画機を一時停止状態にしてください。

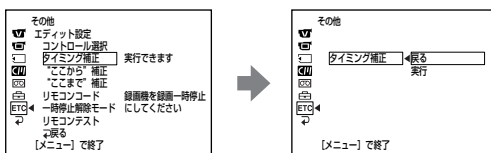
準備3 録画機のタイミングを補正する

本機と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。

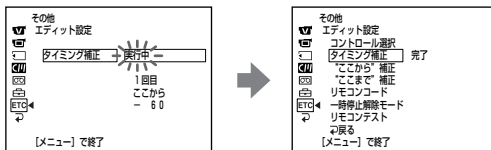
タイミングを補正するときは、本機からカセットを取り出しておいてください。筆記具のご用意をお勧めします。（ソニー製の機器どうしをi.LINKで接続し、「コントロール選択」を「i.LINK」に設定した場合は、以下の設定は不要です。）

❶ 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

i.LINKケーブルで接続し、i.LINKで録画機を制御するときは不要です。

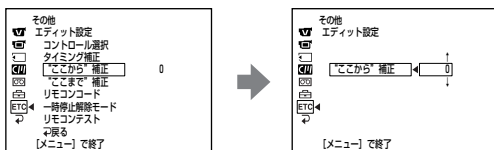
❷ 選択／押決定ダイヤルを回して「タイミング補正」を選び、押して決定する。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画される。

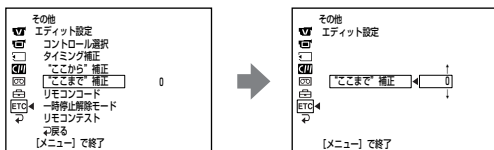
終了すると本機の液晶画面またはファインダーの表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わる。

❹ 録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。

5回分の「ここから」の最初のカウンター数値と「ここまで」の最後のカウンター数値が表示される。これらを控えておく。

❺ 「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。

❻ 選択／押決定ダイヤルを回して「“ここから”補正」を選び、押して決定する。

❼ 選択／押決定ダイヤルを回して「ここから」の平均値の数値を選び、押して決定する。

録画開始のタイミングが補正される。

❽ 選択／押決定ダイヤルを回して「“ここまで”補正」を選び、押して決定する。

❾ 選択／押決定ダイヤルを回して「ここまで」の平均値の数値を選び、押して決定する。

録画停止のタイミングが補正される。

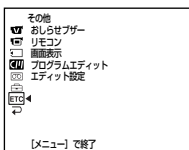
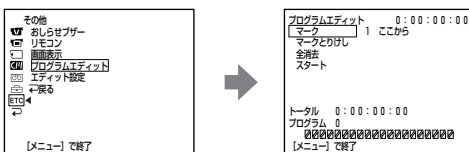
❿ 選択／押決定ダイヤルを回して「戻る」を選び、押して決定する。

操作1 プログラムをつくる

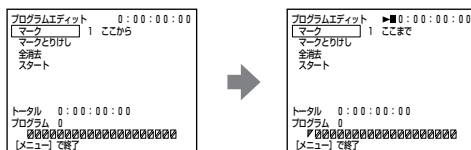
テープの無記録部に「ここから」と「ここまで」を設定することはできません。

❶ 本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。

❷ メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「ETC」を選び、押して決定する。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「プログラムエディット」を選び、押して決定する。

❺ ビデオ操作ボタンを使って録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。（26ページ）

❻ **選択／押決定ダイヤルまたはリモコンのマークボタンを押す。**

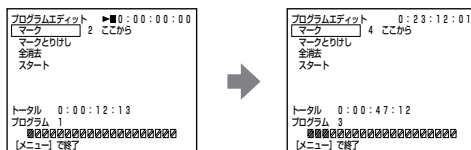
最初のプログラムの「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

❼ **ビデオ操作ボタンを使って録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。**

❽ **選択／押決定ダイヤルまたはリモコンのマークボタンを押す。**

最初のプログラムの「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

❾ **手順5〜8を繰り返し、プログラムを設定する。**

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。

20プログラムまで設定できる。

ご注意

デジタルプログラムエディットを使い、ダビングする時間の合計を表示することができますが、ダビング元の画像のタイムコードが連続していないと合計時間が正しく表示されないことがあります。

最後に選んだプログラムを消す

最後のプログラムの終わりを変更するときは「ここまで」を、プログラムを消すときは「ここから」と「ここまで」を消去する。

1 選択／押決定ダイヤルを回して「マークとりけし」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。

最後に設定したプログラムマークが点滅し、プログラムが消える。

消去を中止する

手順2で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

すべてのプログラムを消す

1 「プログラムエディット」を選択したあと、選択／押決定ダイヤルを回して「全消去」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。

設定したプログラムマークがすべて点滅し、プログラムがすべて消える。

全消去を中止する

手順2で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

プログラムを中止する

メニューボタンを押す。

設定したプログラムはテープを取り出さない限り記憶されています。

ご注意

i.LINKケーブルで接続しているとき、録画機を正しく操作できないときは

接続はそのままにして、「コントロール選択」を「リモコン」にしてください。（79ページの準備2からやり直す）

映像／音声はデジタル信号で送られます。

以下の場合には、録画機で録画できません

- カセットが入っていない。
- テープが終わりになっている。
- テープが誤消去防止状態になっている。
- リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき）
- 録画一時停止解除モードの設定がまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）

以下の場合には、「実行できません」と表示され、ダビングできません

- プログラムが未設定
- i.LINKケーブルを接続していない。（「i.LINK」に設定したとき）
- 接続している録画機の電源が入っていない。

操作2 デジタルプログラムエディットを実行する（ダビングする）

機器の接続と録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKでの接続のときは不要です。）

録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

1 「プログラムエディット」を選択し、選択／押決定ダイヤルを回して「スタート」を選び、押して決定する。

2 選択／押決定ダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。

本機の液晶画面またはファインダーには、サーチ中は「サーチ中」、録画中は「エディット中」と表示される。

ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが点灯する。

ダビングが終わると、本機も録画機も自動的に停止する。

ダビングを中止する

本機の■停止ボタンを押す。

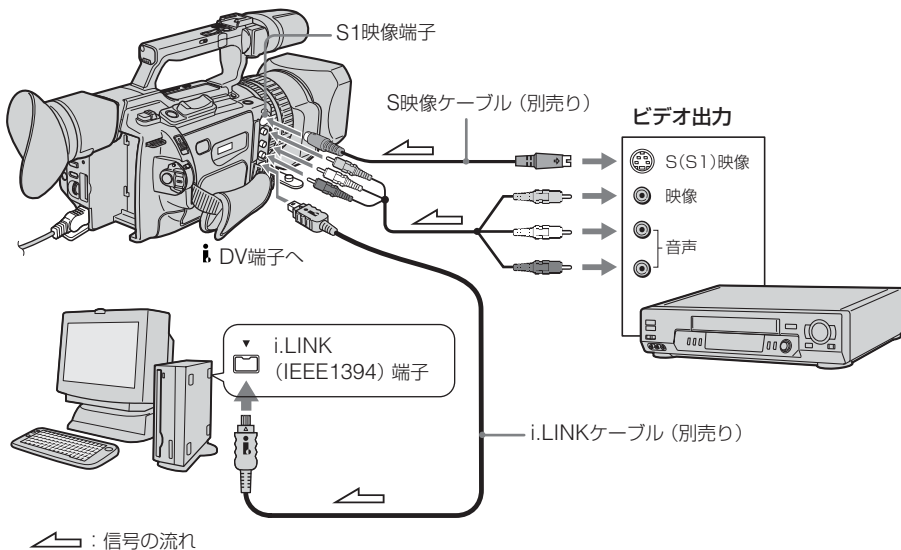
デジタルプログラムエディットを終了する

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

終了するには、メニューボタンを押す。

アナログ機器とパソコンをつないで使う

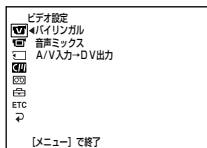
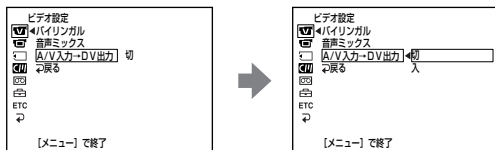
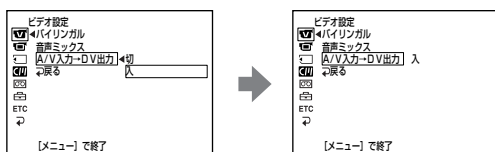
― デジタル変換機能

本機に入力されたアナログ信号をデジタル信号に変換して、DV端子から出力します。アナログビデオ機器などで録画した映像を、本機を通して、i.LINK（IEEE1394）端子を搭載しているパソコンに取り込むことができます。

ご注意

- ビデオ信号の取り込みや送り出しができるソフトウェアがパソコンにインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態、またはパソコン機器によっては、本機からDV信号を正しく出力できず、色消えやノイズが起こることがあります。
- ID-2方式など、著作権保護のための信号が記録されているソフトの信号を本機に入力しても、本機からその信号を出力することはできません。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「VT」を選び、押して決定する。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「A/V入力→DV出力」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

6 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

7 アナログビデオ機器で、取り込みたい映像の始めの部分より少し前の位置から再生を始める。

8 パソコンで取り込む。

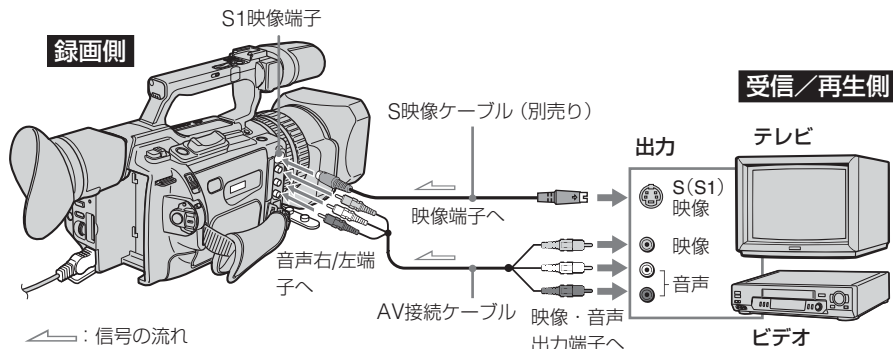
取り込むための操作は、パソコンでお使いになるソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いになるソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取り込みが終わったら

パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、他のビデオの画像
やテレビ番組を録画・編集できます。

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ（モノラル）の場合
AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぎます。赤いプラグは使いません。

別売りのS映像ケーブルを使うと
画像はより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりにS映像ケーブル（別売り）で、本機のS1映像端子とビデオやテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

再生側のビデオ機器で変速再生をすると
記録された映像が乱れることがあります。

❶ **カセットを準備する。**

本機：録画用カセットを入れる。

ビデオから録画するときは：再生側のビデオに録画済みのカセットを入れる。

❷ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ **メニューの「画面表示」を「パネル」にする。（115ページ）**

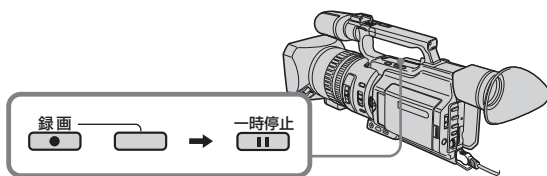
❹ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

インデックス信号は
電源を入れ、録画を始めると、自動でテープに記録されます。このときインデックス信号はカセットメモリーには記録されません。また、インデックス打込みボタンを使って記録することもできます。このときインデックス信号はカセットメモリーにも記録され、サーチ画面の「CH」欄には「入力」と表示されます。

ご注意

付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチを切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

5 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

6 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

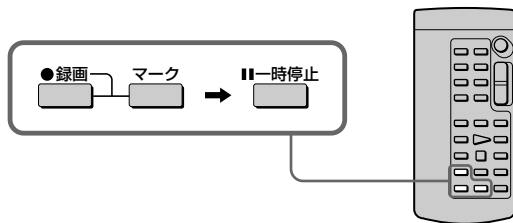
本機の液晶画面またはファインダーに録画したい画像が映る。

7 録画したい場面でもう一度❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

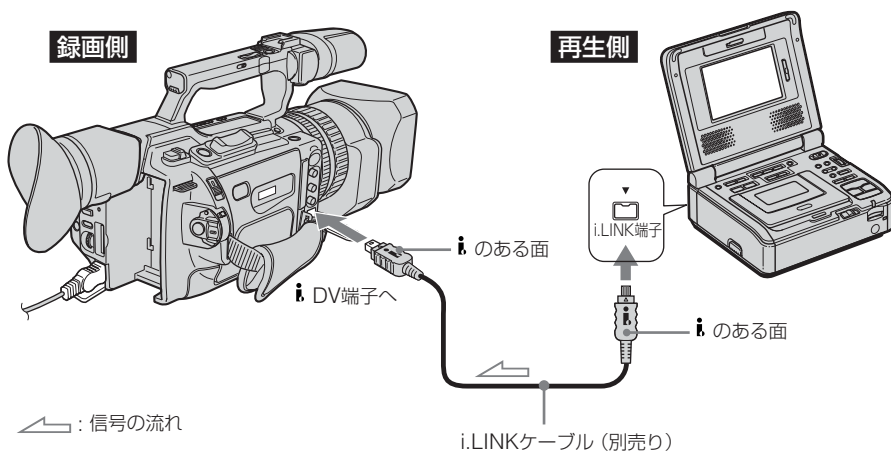
録画が終わったら

本機の録画を停止し、再生側のビデオ機器を停止するか、テレビを消す。

リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順7で❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。

i.LINKケーブルでつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（別売り）でつなぎ本機で録画・編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

i.LINKケーブルで本機と接続できるのは1台だけです

デジタルダビングしているとき
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響ありません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ **カセットを準備する。**

本機　：ダビングしたいカセットを入れる。
再生機：撮影済みのカセットを入れる。

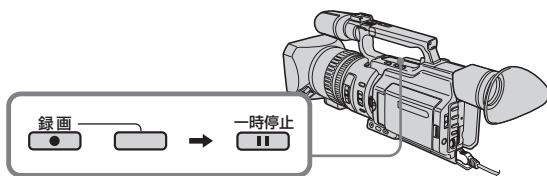
❷ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ **メニューの「画面表示」を「パネル」にする。（115ページ）**

❹ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

録画を始める前に
画面表示ボタンを押し、液晶画面またはファインダーに「DV入力」と表示されることを確認してください。表示は両方の機器に出ることもあります。

5 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

6 再生側のビデオ機器で再生する。

本機の液晶画面またはファインダーに録画したい画像が映る。

7 録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

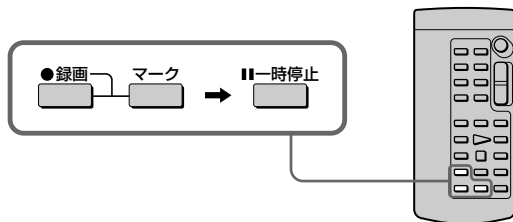
ダビングが終わったら

本機で録画を停止し、再生機で再生を停止する。

リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順7で❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。

ご注意

付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチを切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

撮影したテープに画像を挿入する

撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。

リモコンも使います。

92ページまたは94ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

（a）

テープの走行方向

挿入したい部分

挿入したい部分の入ったテープ（他機）

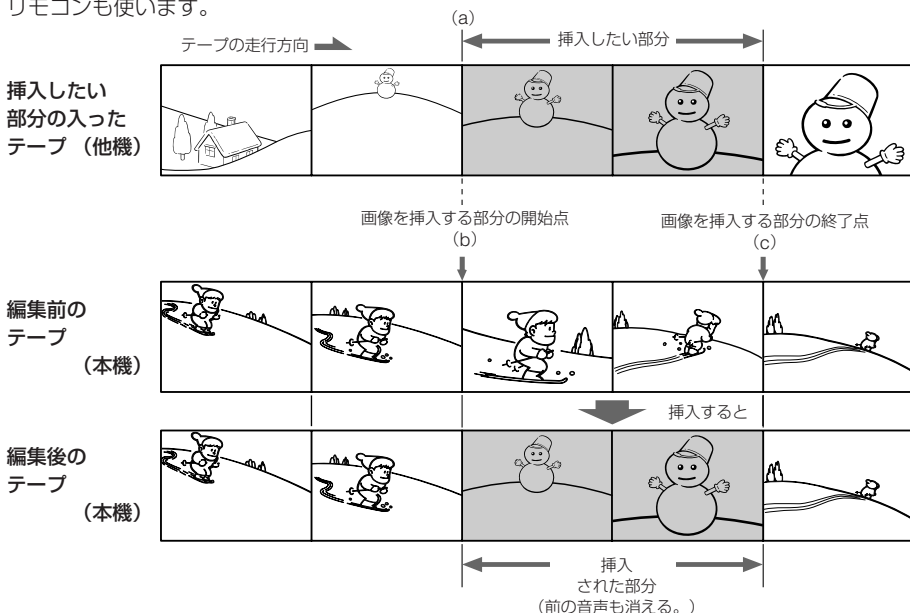
画像を挿入する部分の開始点（b）

画像を挿入する部分の終了点（c）

編集前のテープ（本機）

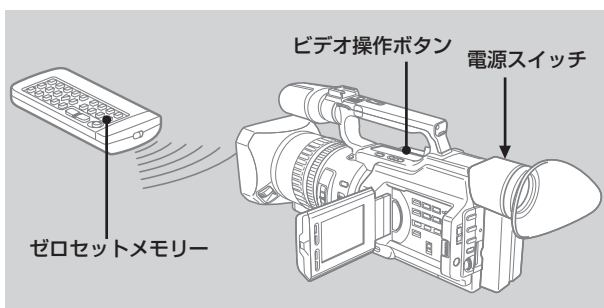
挿入すると

編集後のテープ（本機）

挿入された部分（前の音声も消える。）

ご注意

新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

他のビデオ機器で録画したテープに画像を挿入すると
画質や音質が劣化することがあります（本機以外のDCR-VX2100を含む）。本機で録画されたテープに挿入することをおすすめします。

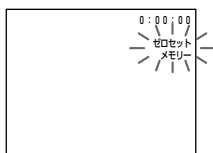
新しく挿入された部分を再生すると
終了点の映像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。
LPモード時は、開始点と終了点の映像と音声が乱れることがあります。

❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

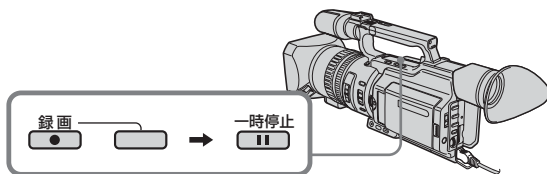
❷ **挿入したい部分（a）の少し前で、他機（再生側）を再生一時停止状態にする。**

終了点を設定せずに録画するときは
手順3と4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❸ 挿入部分の終了点（c）を本機で探し、再生一時停止状態にする。

❹ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

ゼロセットメモリー表示が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。
テープカウンターは、画面表示ボタンを押して表示させます。

❺ 本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

❻ 他機（再生側）の❚❚一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本機の❚❚一時停止ボタンを押す。

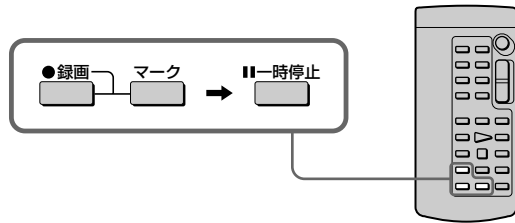
本機のテープの挿入部分に、他機のテープ（再生側）の映像と音声が記録され始める。

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止し、ゼロセットメモリーが解除される。

終了点の位置を変える

手順5のあとでリモコンのゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、ゼロセットメモリー表示を消して、手順3からやり直す。

リモコンを使って録画する

手順5で●録画ボタンとマークボタンを同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順6で❚❚一時停止ボタンを押して、記録を始める。

記録済みテープに音声を追加する – アフレコ

録画済みテープの指定した部分に音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。

リモコンでもできます。

次の5つの方法のいずれかで、音声を録音してください。

ご注意

- 16BITモードで記録されたテープには、アフレコできません。（120ページ）
- LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。
- i. DV端子からはアフレコできません。

すべての接続をすると

追加する音声は、以下の順番で優先されて録音されます。

- マイク（プラグインパワー）端子
- インテリジェントアクセサリーシュー（ガンマイク）
- 音声右／左端子
- 内蔵マイク

i.LINKケーブル（別売り）が接続されていると

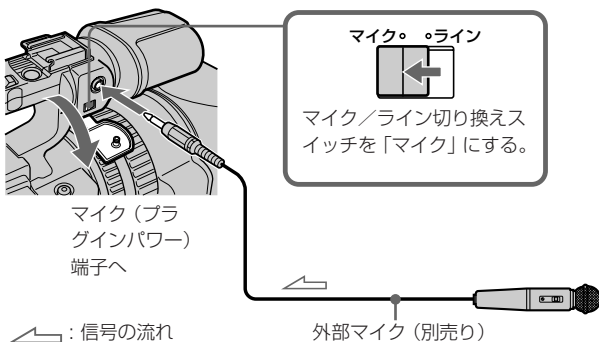
アフレコできません。

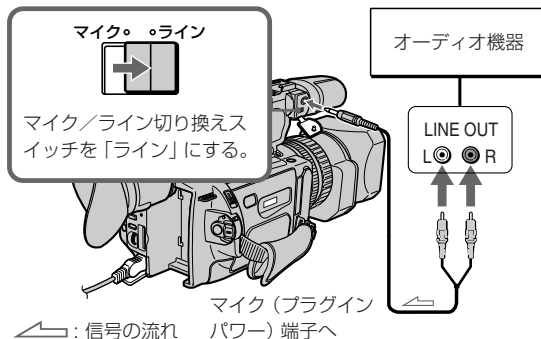
誤消去防止状態のカセットには

アフレコできません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

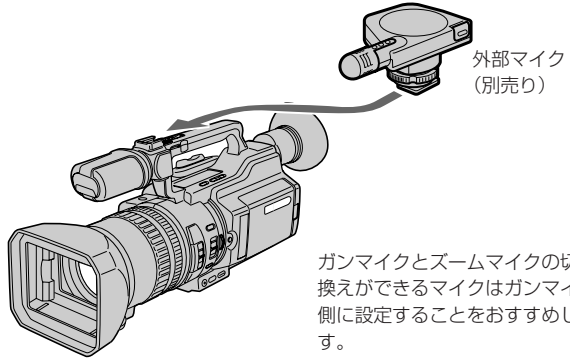
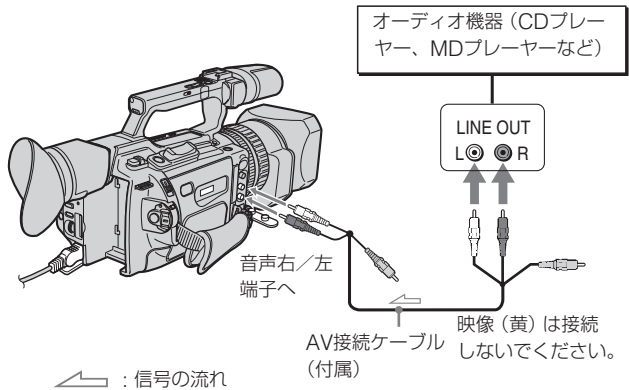
他のビデオ（本機以外のDCR-VX2100を含む）で録画したテープにアフレコすると

音質が劣化することがあります。本機で録画したテープにアフレコすることをおすすめします。

マイク端子から別売りの外部マイクでアフレコする場合

映像端子にテレビなどをつないで、画像を確認することができます。アフレコする音声は、スピーカーからは出力されません。ヘッドホンで確認してください。

マイク端子から別売りのオーディオ機器でアフレコする場合

ご注意

- 音声右／左端子を使ってアフレコするとき、映像は液晶画面またはファインダーで確認できます。
アフレコする音声は、ヘッドホンで確認できます。
- 内蔵マイクまたは外部マイクを使ってアフレコするとき、映像は液晶画面またはファインダー、映像端子に接続した機器の画面で確認できます。アフレコする音声はヘッドホンで確認できます。

別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューに接続してアフレコする場合

音声右／左端子でアフレコする場合

内蔵マイクでアフレコする場合

接続は不要です。

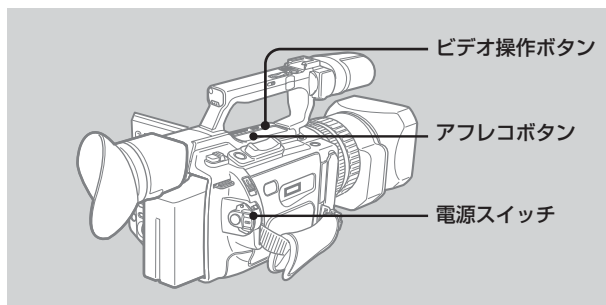
より正確にアフレコするには
再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順3からアフレコを始めると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

ご注意

テープの無記録部分にはアフレコできません。

次の方法でアフレコしたとき、アフレコ音の録音レベルをマイク音レベル調節画面で手動調節できます。
– マイク端子から、別売りの外部マイクやオーディオ機器でアフレコする場合
– 別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューに接続してアフレコする場合
– 内蔵マイクでアフレコする場合

アフレコする

99ページ～100ページのいずれかの接続をして、次の操作をします。

1 **本機に録画済みカセットを入れる。**

2 **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

3 **アフレコの開始点を決める。**

►再生ボタンを押して再生し、アフレコを始めたいところで❚❚一時停止ボタンを押す。

4 **⊖アフレコボタンを押す。**

画面に緑色の⊖❚❚マークが出る。

5 **❚❚一時停止ボタンを押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。**

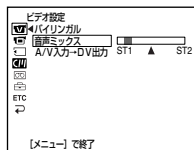
画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録する。

6 **アフレコを終了したいところで■停止ボタンを押す。**

アフレコした音声は次ページの手順で確認できます。

アフレコした音声を聞く

アフレコしたテープを再生する。

メニューの「音声ミックス」で撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音のバランスを調整します。（115ページ）

お買い上げ時はステレオ1のみの音声が出るように設定されています。メニューでバランスを調整しても、電源をはずして5分たつとバランスはステレオ1のみの音が出る設定に戻ります。

タイトルを入れる

カセットメモリー付きカセットを使うと、撮影中、または撮影後にタイトルを入れることができます（インデックスタイトラー機能）。再生すると、タイトルを入れた場面から約5秒間、タイトルが画面に出ます。

本機にあらかじめ登録してある8種類のタイトルと、自分で作ったオリジナルタイトル2種類（107ページ）の中から好みのものが選べます。また、タイトルの色や文字のサイズ、表示位置も選べます。

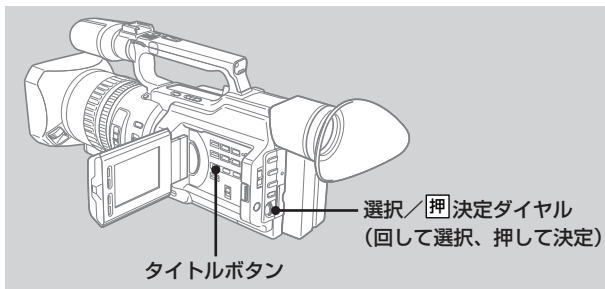
誤消去防止状態のカセットには
タイトルを入れられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

オリジナルタイトルを入れるときは
手順2で「🄣」を選びます。

テープの無記録部分には
タイトルを入れられません。

録画した部分の間に無記録部があるテープでは
タイトルが正しく表示されないことがあります。

本機で入れたタイトルは
- インデックスタイトラー機能付きのMini DVビデオでのみ見られます。
- 他機で頭出ししたとき、インデックスデータとして誤検出されることがあります。

タイトルを出したくないとき
メニューで「タイトル表示」を「切」にします。（115ページ）

1 ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］、［再生中］、［再生一時停止中］のとき
タイトルボタンを押す。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して「🗀」を選び、押して決定する。**

編集する－ダビングなど－

タイトルを入れる（つづき）

3 **選択／押決定ダイヤルを回して入れたいタイトルを選び、押して決定する。**

タイトルが点滅する。

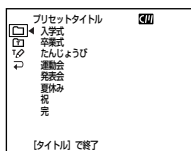
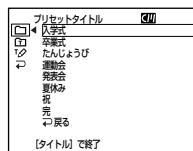
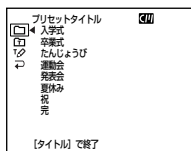
4 **色、サイズ、位置を選択する。**

表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順5に進む。

1 **選択／押決定ダイヤルを回して「色　設定」または「サイズ　設定」、「位置　設定」を選び、押して決定する。**

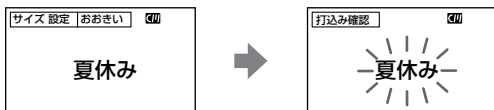
選べる項目が出る。

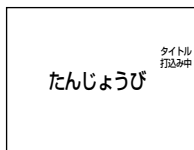
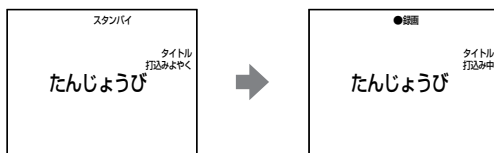
2 **選択／押決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。**

3 **必要なだけ1と2を繰り返す。**

設定表示と表示順

- 「色　設定」
  しろ↔きいろ↔むらさき↔あか↔みずいろ↔みどり↔あお
- 「サイズ　設定」
  ちいさい↔おおきい
  12文字を超えるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。
- 「位置　設定」
  「ちいさい」サイズは9段階、「おおきい」サイズは8段階から選べます。

カセットメモリーの容量がいっぱいのときは

「カセットメモリーがいっぱいです」というお知らせメッセージが出ます。不要なタイトルやインデックスデータ、日付データ、フォトデータ、カセットラベルなどを消してください。

5 **タイトルを確認し、選択／押決定ダイヤルを押す。**

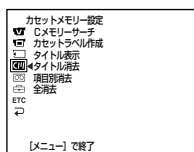
[再生中] または [再生一時停止中]、[撮影中] のとき
[打込み中] の表示が出る。約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

[撮影スタンバイ中] のとき
[打込みよやく] の表示が出る。スタート／ストップボタンを押して撮影を始めると同時に [打込み中] の表示になり、約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

タイトルを消す

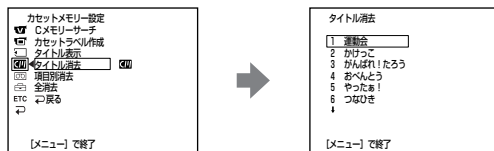
1 **電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。**

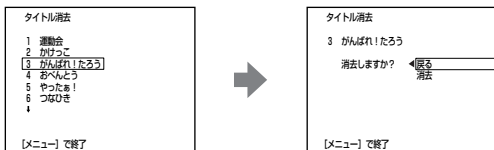
2 **メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

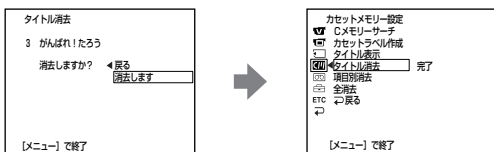
カセットメモリー設定
Cメモリーサーチ
カセットラベル作成
タイトル表示
◀タイトル消去
項目別消去
全消去
ETC
[メニュー] で終了

次のページへつづく

4 **選択／押決定ダイヤルを回して「タイトル消去」を選び、押して決定する。**

タイトル消去画面が出る。

5 **選択／押決定ダイヤルを回して消したいタイトルを選び、押して決定する。**

「消去しますか？」と表示される。

6 **消去するタイトルを確認し、選択／押決定ダイヤルを回して「消去」を選び、押して決定する。**

「消去」が「消去します」に変わる。

7 **選択／押決定ダイヤルを押す。**

「消去中」の表示が約2秒間点滅する。タイトルが消去されると「完了」と表示される。

タイトルの消去を中止する

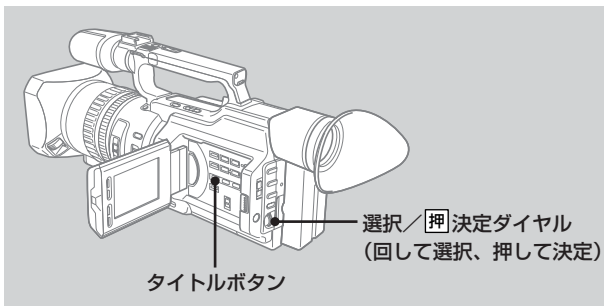
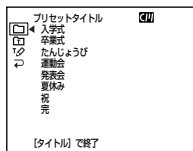
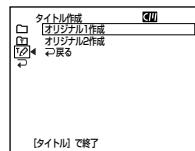
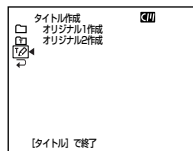
手順6または7で「戻る」を選ぶ。

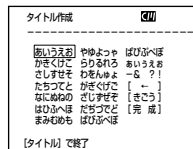
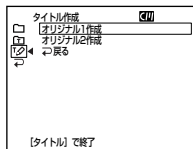
タイトルをすべて消す

「カセットメモリーのデータを消す」（111ページ）をご覧ください。

オリジナルタイトルを作る

20文字以内のタイトルを自分で作って2種類までカセットメモリーに記憶できます。

撮影スタンバイ状態で、カセットを入れてタイトルを作成中に5分たつと自動的に電源が切れます
このとき作成中のタイトルは残っていますが、一度電源スイッチを「切（充電）」にして、手順1からやり直してください。
タイトルの作成に5分以上かかりそうなときは電源スイッチを「ビデオ」にしておくか、カセットを取り出しておけば、電源は切れません。

1 ［撮影スタンバイ中］または［再生中］、［再生一時停止中］のとき
タイトルボタンを押す。

2 **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

3 **選択／押決定ダイヤルを回して「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、押して決定する。**

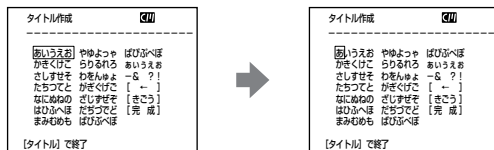
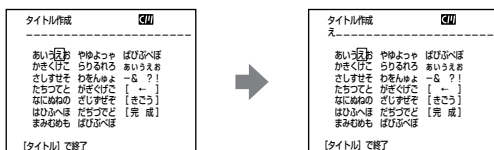
次のページへつづく

オリジナルタイトルを作る（つづき）

［きごう］を選ぶと
アルファベットや数字、漢字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
［　←　］を選ぶと、一番後ろの文字が消えます。

漢字変換機能は
ありません。タイトルに使えるのは、［きごう］にある漢字だけです。

空白を入れたいときは
［－＆　？！］の文字列から、空白の部分を選んでください。

4 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字列を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字を選び、押して決定する。

6 手順4と5を繰り返して希望のタイトルを作る。

7 選択／押決定ダイヤルを回して［完成］を選び、押して決定する。

8 タイトルボタンを押して、タイトル画面を消す。

作成したタイトルを変更する

手順3で変更したいオリジナルタイトルを選び、選択／押決定ダイヤルを押す。［　←　］を選び、ダイヤルを押して文字を消し、文字を選び直す。

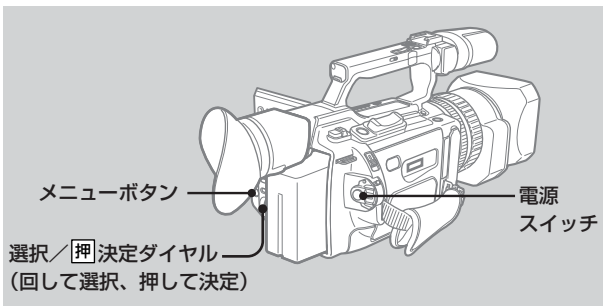
カセットに名前を付ける – カセットラベル

カセットメモリー付きカセットに、10文字までの名前を付けることができます。

名前を付けたカセットを入れ、電源を入れると、付けた名前が約5秒間自動的に表示されます。

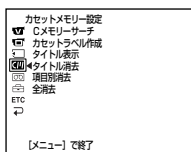
誤消去防止状態のカセットには
名前を付けられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

タイトルが入れてあると
カセットの名前が表示されるときに、カセットに記憶されているタイトルが4つまで画面に出ます。

文字を入れるスペースが10文字分よりも少ないとき
カセットメモリー容量がいっぱいになっています。スペースが表示されている分だけ文字を入れることができます。

❶ 名前を付けたいカセットを入れる。

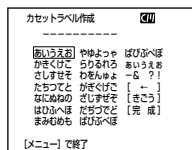
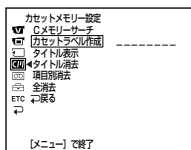
❷ 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にする。

❸ メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「CM」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押決定ダイヤルを回して「カセットラベル作成」を選び、押して決定する。

カセットラベル作成画面が出る。

次のページへつづく

編集する―ダビングなど―

文字を消すとき

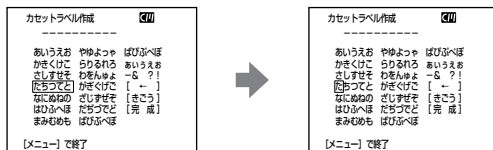
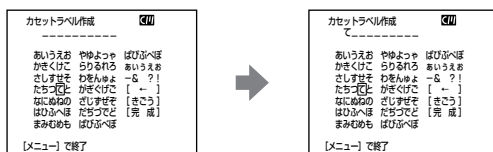
［ ← ］を選ぶと、一番後ろの文字が消えます。

［きごう］を選ぶと

アルファベットや数字、漢字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

空白を入れたいときは

［−＆ ？！］の文字列から、空白の部分を選んでください。

❻ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字列を選び、押して決定する。

❼ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の文字を選び、押して決定する。

❽ 手順6と7を繰り返して希望のカセットラベルを作る。

❾ 選択／押決定ダイヤルを回して［完成］を選び、押して決定する。

作成したカセットラベルを消す

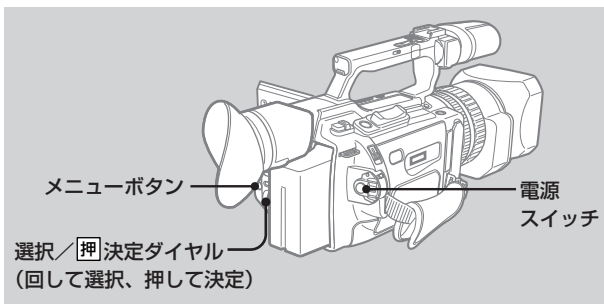
手順6で［ ← ］を選んで消す。

作成したカセットラベルを変更する

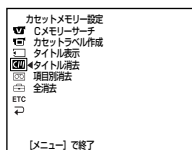
カセットラベルを変更したいカセットを入れ、カセットラベルを作るときと同じ手順で作り直す。

カセットメモリーのデータを消す

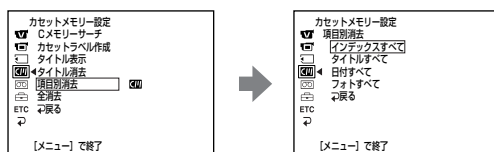
カセットメモリーに保存されているデータを項目別に消去することができます。すべてのデータを一度に消去することもできます。

項目別に消す

1 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にする。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「CM」を選び、押して決定する。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「項目別消去」を選び、押して決定する。

編集するーダビングなどー

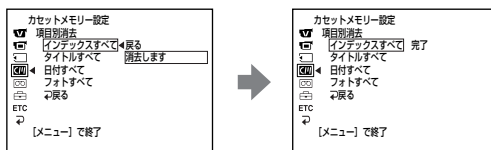
次のページへつづく

5 選択／押決定ダイヤルを回して消去したい項目を選び、押して決定する。

項目	意味
インデックスすべて	インデックスデータをすべて消去する。
タイトルすべて	タイトルデータをすべて消去する。
日付すべて	日付データをすべて消去する。
フォトすべて	フォトデータをすべて消去する。

6 選択／押決定ダイヤルを回して「消去」を選び、押して決定する。

「消去」が「消去します」に変わる。

7 選択／押決定ダイヤルを押す。

選択した項目のデータが消去されると、「完了」と表示される。

消去を中止する

手順6または7で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

すべて消す ー 全消去

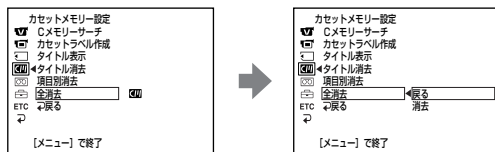
❶ 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にする。

❷ メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

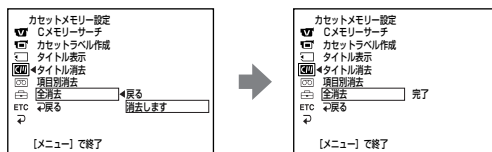
❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「全消去」を選び、押して決定する。

編集する－ダビングなど－

次のページへつづく

❺ **選択／押決定ダイヤルを回して「消去」を選び、押して決定する。**

「消去」が「消去します」に変わる。

❻ **選択／押決定ダイヤルを回して「消去します」を選び、押して決定する。**

データがすべて消去されると、「完了」と表示される。

全消去を中止する

手順5または6で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

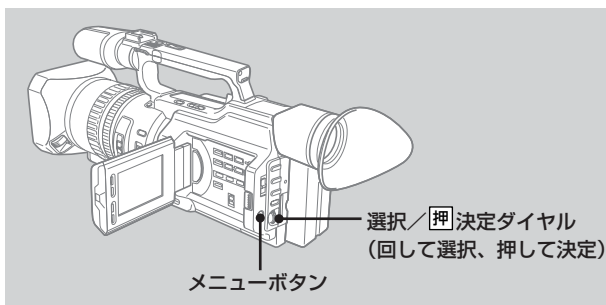
メニューで設定を変える

画面上のメニュー項目を、選択／押決定ダイヤルで選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。

次の順で選択します。

メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

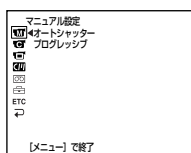
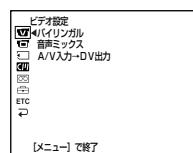
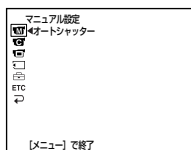
メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

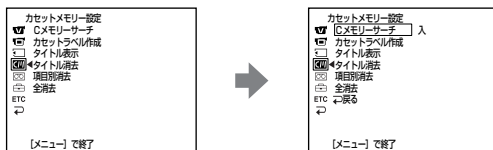
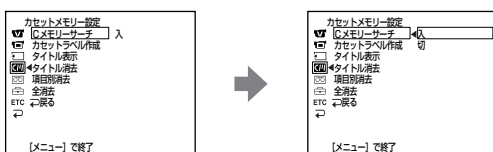
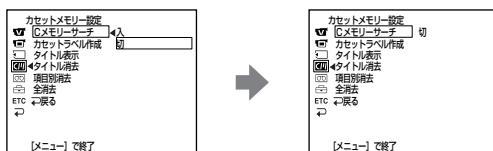
- M マニュアル設定
- C カメラ設定
- V ビデオ設定
- パネル／VF設定
- メモリー設定
- カセットメモリー設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

❶ ［撮影スタンバイ中］または電源スイッチが「ビデオ」か「メモリー」のとき
メニューボタンを押す。

撮影スタンバイ中のとき（「カメラ」のとき）

マニュアル設定
◀オートシャッター
プログレッシブ
ETC
［メニュー］で終了

「ビデオ」のとき

ビデオ設定
◀バイリンガル
音声ミックス
A/V入力→DV出力
ETC
［メニュー］で終了

「メモリー」のとき

メニューで設定を変える（つづき）

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して希望のアイコンを選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。**

❹ **選択／押決定ダイヤルを回して設定を変更し、押して決定する。**

❺ **必要なだけ手順2～4を繰り返す。**

手順2に戻るには、選択／押決定ダイヤルを回して「↩戻る」を選び、ダイヤルを押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（117ページ）をご覧ください。

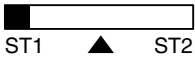
メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、そのとき使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
M オートシャッター	● 入	電子シャッター*が自動でスピードを調節する。	「カメラ」
	切	電子シャッター*のスピードを固定する。	「メモリー」
プログレッシブ	● 切	静止画／動画をインターレース方式で記録する。	「カメラ」
	入	静止画／動画をプログレッシブ方式で記録する。	
C デジタルズーム	● 切	デジタルズームを使用しない（ズームは12倍まで働く）。	「カメラ」
	24×	ズームが12倍を超えると24倍までデジタルズームが働く。（19ページ）	
	48×	ズームが12倍を超えると48倍までデジタルズームが働く。（19ページ）	
ワイドTV	● 切	ワイドTVモードにしない。	「カメラ」
	入	ワイドTVモードにする。（34ページ）	
手ぶれ補正	● 入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	「メモリー」
コマ撮り	● 切	コマ撮り機能を働かせない。	「カメラ」
	入	コマ撮り機能を働かせる。（61ページ）	
インターバル録画	入	インターバル録画機能を働かせる。（58ページ）	「カメラ」
	● 切	インターバル録画機能を働かせない。	
	設定	インターバル録画機能の「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。	

***電子シャッターとは**
電気的にシャッタースピードを調節する機能です。

手ぶれ補正は
- 「手ぶれ補正」が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると
ハンディカムを左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示が出ます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
バイリンガル	● 切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（153ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
音声ミックス	－	音声モードST1↔ST2間のバランスを調節する。（102ページ） ST1 ▲ ST2	「ビデオ」
A/V入力→DV出力	● 切	本機を通して、デジタルの画像をアナログ出力します。	「ビデオ」
	入	本機を通して、アナログの画像をデジタル出力します。	
パネルバックライト	● 明るさノーマル	液晶画面の明るさを標準にする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	液晶画面を明るくする。	
パネル色のこさ	－	選択／押決定ダイヤルでバーを動かして、液晶画面の色のこさを調節する。 うすくなる ▲ こくなる	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
VF バックライト	● 明るさノーマル	ファインダーの明るさを標準にする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	ファインダーを明るくする。	
ガイドフレーム	● 切	ガイドフレームを画面に出さない。	「カメラ」「メモリー」
	入	ガイドフレームを画面に出す。（32ページ）	
連写	● 切	連写しない。	「メモリー」
	入	4連写する。（128ページ）	
	マルチ画面連写	9連写する。（128ページ）	

「パネルバックライト」または「VF バックライト」の「明るい」を選ぶと

撮影時のバッテリー使用時間が若干短くなります。
バッテリー以外の電源で使うときは自動的に「明るい」になります。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
画質	● スーパーファイン（SFN）	“メモリースティック”を使い、最も高画質で静止画を記録する。（125ページ）	「ビデオ」「メモリー」
	ファイン（FINE）	“メモリースティック”を使い、高画質で静止画を記録する。（125ページ）	
	スタンダード（STD）	“メモリースティック”を使い、標準の画質で静止画を記録する。（125ページ）	
プリントマーク	● 切	静止画のプリントマークを消す。	「ビデオ」「メモリー」
	入	プリントしたい静止画にプリントマークを付ける。	
プロテクト	● 切	静止画の誤消去防止指定を解除する。	「ビデオ」「メモリー」
	入	静止画を誤消去しないようにする。（145ページ）	
スライドショー	—	スライドショーをする。（143ページ）	「メモリー」
全消去	—	プロテクトのかかっていないすべての静止画を消去する。（148ページ）	「メモリー」
フォーマット	● 戻る	フォーマットを中止する。	「メモリー」
	フォーマット	本機に入れた“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。 1「フォーマット」の項目を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。 2 選択／押決定ダイヤルを回し、「フォーマット」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。 3 画面に「フォーマットします」と表示されたら、選択／押決定ダイヤルを押す。「フォーマット中」と表示される。「完了」と表示されれば終了。	
オートフォトコピー	—	テープの静止画を“メモリースティック”にコピーする。（136ページ）	「ビデオ」

フォーマット（初期化）とは
“メモリースティック”を最適な状態で使用できるようにすることです。

フォーマット（初期化）すると“メモリースティック”の記録内容は消去されます
以下の点にご注意ください。
- 画像にプロテクトをかけていても消去されます。

フォーマットについて
- 付属または市販の“メモリースティック”はお買い上げ時にフォーマット済みです。あらためてフォーマットする必要はありません。
- 「フォーマット中」と表示されている間は、電源スイッチを切り換えたり、ボタンを操作したり、“メモリースティック”を取り出したりしないでください。
- “メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっていると、フォーマットできません。
- フォーマットしたあとに「メモリースティックを確認してください」と表示されたら、もう1度フォーマットしてください。

フォーマットできなかったときは
「メモリースティックフォーマットエラー」と表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
Cメモリーサーチ	● 入	サーチ時にカセットメモリーを使用する。（65、67、69、71ページ）	「ビデオ」
	切	サーチ時にカセットメモリーを使用しない。	
カセットラベル作成	—	カセットに名前を付ける。（109ページ）	「ビデオ」「カメラ」
タイトル表示	● 入	タイトルを入れてあるところでタイトルを出す。	「ビデオ」
	切	タイトルを出さない。	
タイトル消去	—	タイトルを消去する。（105ページ）	「ビデオ」「カメラ」
項目別消去	—	カセットメモリー内のデータを項目別に消去する。（111ページ）	「ビデオ」「カメラ」
全消去	—	カセットメモリー内のデータをすべて消去する。（113ページ）	「ビデオ」「カメラ」
録画モード	● SP	SP（標準）モードで録画する。	「ビデオ」「カメラ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	● 12BIT	12ビットモード（2つのステレオ音声）の記録ができる。	「ビデオ」「カメラ」
	16BIT	16ビットモード（高音質で1つのステレオ音声）の記録ができる。	
テープ残量表示	● オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源／テープを入れたあと、テープ残量が確定してから8秒間。 • ►再生ボタンまたは画面表示ボタンを押してから8秒間。 • 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。	「ビデオ」「カメラ」
	入	テープ残量を常に表示する。	

LPモードについて

- 本機で記録したLPモードのテープは、本機で再生することをおすすめします。本機で記録したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- アフレコしたいときはSPモードで録画してください。LPモードで録画したテープにはアフレコできません。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードを「16BIT」にすると

アフレコはできません。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは

「音声ミックス」のバランス調節はできません。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
データコード	● 日付／カメラデータ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻またはカメラデータを表示する。	「ビデオ」
	日付データ	日付・時刻を表示する。	
マイク音レベル	● オート	録音レベルを自動で調節する。	「ビデオ」
	マニュアル	録音レベルを手動で調節する。（49ページ）	「カメラ」
日時あわせ	—	日付・時刻を合わせる。（11ページ）	「カメラ」「メモリー」
メニュー文字サイズ	● ノーマル	通常の大きさでメニュー表示をする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	2 ×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。	
デモモード	● 入	本機の機能を一覧できる。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	
ETC 時差補正	—	時差の設定をする。 選択／押決定ダイヤルを回して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	「カメラ」「メモリー」
おしらせブザー	● メロディー	撮影スタート／ストップ時や誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ノーマル	メロディーのかわりにブザー音が鳴る。	
	切	メロディーやブザー、シャッター音が鳴らない。	
リモコン	● 入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	

デモモードは

- カセットが入った状態では操作できません。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。
  カセットを入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。

次のページへつづく

メニューで設定を変える（つづき）

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
ETC 画面表示	● パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	● 入	本体前部／後部の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」「メモリー」
	切	本体前部／後部の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。	
カラーバー	● 切	カラーバーを表示しない。	「カメラ」
	入	カラーバーを表示する。	
プログラムエディット	—	プログラムを作成、実行する。（86ページ）	「ビデオ」
エディット設定	—	デジタルプログラムエディットでダビングするときに、録画機を操作するための設定とタイミング補正をする。（79ページ）	「ビデオ」

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」のとき画面表示ボタンを押して画面表示を出すと、i.LINKケーブル接続時以外は外部入力ができなくなります。

被写体に接近して撮るとき

「録画ランプ」が「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合は、「録画ランプ」を「切」にすることをおすすめします。

電源をはずして5分以上たつと

「プログレッシブ」と「バイリンガル」、「音声ミックス」、「マイク音レベル」、「リモコン」はお買い上げ時の設定に戻ります。その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持します。

“メモリースティック”を使う – はじめに

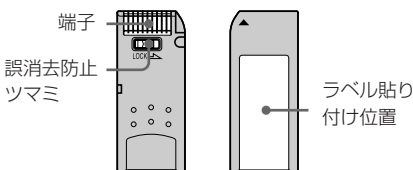
“メモリースティック”（“Memory Stick”）は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録・再生
メモリースティック	○
メモリースティック デュオ[1]	○
マジックゲート メモリースティック	○ [2]
マジックゲート メモリースティック デュオ[1]	○ [2]
メモリースティック PRO	— [2]
メモリースティック PRO デュオ[1]	— [2]

1) 専用アダプターを装着して使ってください。
2) “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能を使ったデータは記録・再生できません。

画像の圧縮形式（JPEG）
本機は、撮影した画像データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「. jpg」です。

画像のデータファイル名
100-0001：本機の液晶画面およびファインダーに表示されます。
Dsc00001.jpg：パソコンの画面に表示されます。

“メモリースティック”について

- お使いの“メモリースティック”によっては、誤消去防止ツマミの位置や形状が異なる場合があります。
- 誤消去防止ツマミを「LOCK」にすると記録、消去などができなくなります。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  –読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  –静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  –高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  –直射日光のあたる場所
  –湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。

パソコンでフォーマット（初期化）した“メモリースティック”は

パソコン（Windows OS、Macintosh OS）でフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。

“メモリースティック デュオ”についてのご注意

メモリースティック デュオアダプターに取り付けて使えば、本機でも“メモリースティック デュオ”を使えます。
以下の場合、“メモリースティック デュオ”が壊れたり、本機のメモリースティックスロットが破損したりすることがあります。
–メモリースティック デュオアダプターを取り付けずに“メモリースティック デュオ”を入れた場合
–逆向きに無理に入れた場合
万が一、誤って“メモリースティック デュオ”を入れてしまった場合、つまようじのようなものでメモリースティックスロットのふたを押さえながら、下に向けて取り出してください。

画像の互換性について

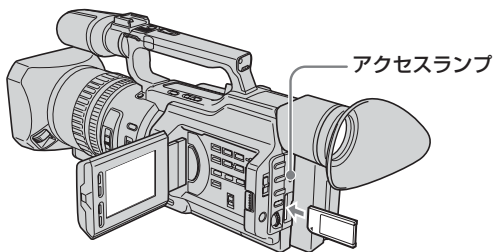
- 本機で“メモリースティック”に記録された静止画像ファイルは、日本電子工業振興会にて制定された統一規格“Design Rules for Camera File Systems”（DCF98規格）に対応しています。
  統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック”が本機で使用できないときは、119ページの手順に従い、フォーマット（初期化）してください。
  フォーマットすると“メモリースティック”に記録してあるデータはすべて消去されますのでご注意ください。

- “Memory Stick”（“メモリースティック”）MEMORY STICK™と“MagicGate Memory Stick”（“マジックゲート　メモリースティック”）はソニー株式会社の商標です。
- “メモリースティック　デュオ”と“MEMORY STICK DUO”はソニー株式会社の商標です。
- “メモリースティック　PRO”と“MEMORY STICK PRO”はソニー株式会社の商標です。
- “マジックゲート”と“MAGICGATE”はソニー株式会社の商標です。
- その他、本書で登録するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文ではTM、®マークは明記していません。

“メモリースティック”を入れる

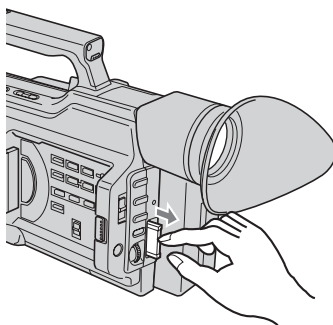
“メモリースティック”のソニーロゴ面が液晶画面側になるようにして、◀マークの向きに合わせて入れます。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
データの読み込み、または書き込みを行っています。このとき、本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

「メモリースティックエラー」と表示されたときは
“メモリースティック”が壊れている、ファイルの形式が正しくない、または非対応の“メモリースティック”です。“メモリースティック”を取り出して、確認してから挿入してください。（123ページ）

“メモリースティック”を取り出す

“メモリースティック”を一度押し込んで、取り出す。

ご注意

押しかたによっては、“メモリースティック”が飛び出すことがあります。

ご注意

画像によっては、画質モードを変えても画質に差がないことがあります。

画質モードの違いは

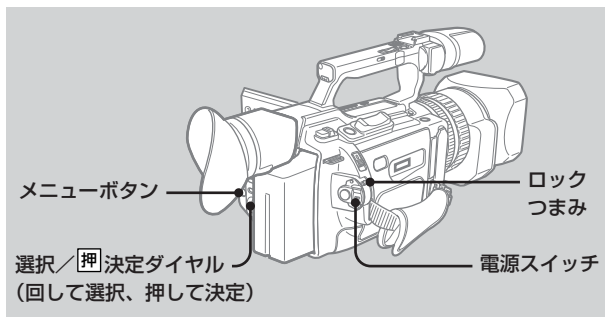
画像はJPEG方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量は、次のようになります。

画質モード	メモリー容量
スーパーファイン	約190Kバイト
ファイン	約100Kバイト
スタンダード	約60Kバイト

画質モードは

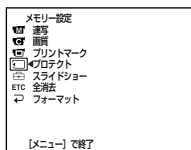
再生時は表示されません。

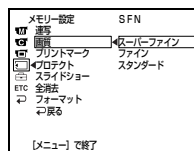
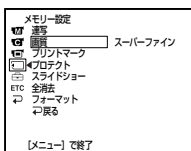
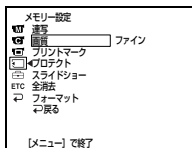
画質モードを選ぶ

あらかじめ静止画記録時の画質を選んで記録できます。お買い上げ時は「スーパーファイン」に設定されています。

1 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「□」を選び、押して決定する。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「画質」を選び、押して決定する。

次のページへつづく

❺ 選択／押決定ダイヤルを回して画質を選び、押して決定する。

画質の設定について

設定	意味
スーパーファイン 表示：SFN	最も画質を優先するときに使います。約1/3に圧縮されます。
ファイン 表示：FINE	画質を優先するときに使います。約1/6に圧縮されます。
スタンダード 表示：STD	標準の画質です。約1/10に圧縮されます。

1枚の“メモリースティック”に記録できる枚数の目安

画質モードの設定および被写体の状況で撮影枚数が異なります。下の表の数字は、本機でフォーマットした“メモリースティック”に記録できる枚数です。

	画質モード		
	スーパーファイン	ファイン	スタンダード
16 Mバイトタイプ	約80枚	約160枚	約240枚
32 Mバイトタイプ	約160枚	約325枚	約485枚
64 Mバイトタイプ	約325枚	約650枚	約980枚
128 Mバイトタイプ	約650枚	約1310枚	約1970枚

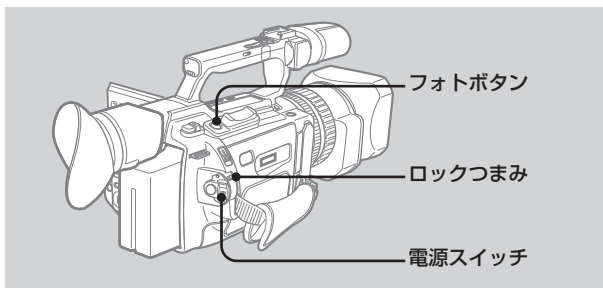
“メモリースティック” に静止画を撮る – メモリーフォト撮影

“メモリースティック” に静止画を記録する
ことができます。

電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。
– ワイドTV
– デジタルエフェクト
– ピクチャーエフェクト
– タイトル
– デジタルズーム
– フェーダー
– プログラムAEのキャンドルモードとスポーツレッスンモード（表示が点滅します）
– 1/30秒以下のシャッタースピード

静止画を記録中は
電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

手順2でフォトボタンを軽く押すと
画像が瞬間的にまたたきますが、故障ではありません。

あらかじめ “メモリースティック” を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

画像の明るさとフォーカスが固定され、撮影が可能になる。撮影するとき、明るさとフォーカスを画面の中央部分の被写体に合わせて調整し直します。

緑の●が点滅から点灯に変わり、撮影可能になる。

❸ フォトボタンを深く押す。

「カシャ」とシャッター音がして、画像が静止画になる。
バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像が “メモリースティック” に記録される。

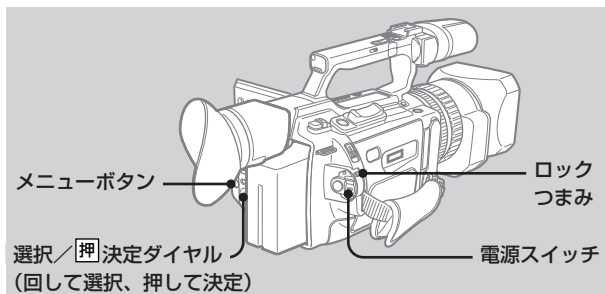
連写の枚数は
“メモリースティック”の残量によって変わることがあります。シャッター音は必ず4回鳴りますが、連写枚数は4枚以下のときもあります。

ビデオフラッシュライト（別売り）は
連写／マルチ画面連写をしているときは使えません。

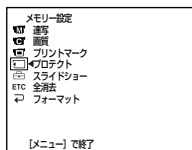
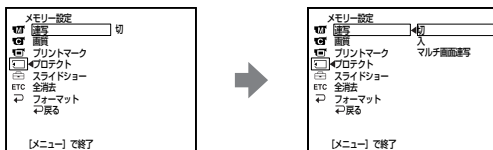
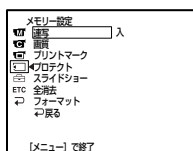
連続して撮る－連写

あらかじめ下記の設定をしてメモリーフォト撮影をすると、以下の連写ができます。

通常の連写
“メモリースティック”の残量に応じて、最大4枚までの連写をする。

マルチ画面連写
9枚の静止画を連続撮影して9分割の画面に表示する。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ **メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「▭」を選び、押して決定する。**

4 選択／押決定ダイヤルを回して「連写」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して「入」または「マルチ画面連写」を選び、押して決定する。

連写の設定について

設定	意味（画面に出る表示）
切	連続撮影しません。
入	約0.5秒間隔で最大4枚の静止画を連続して撮影します。（ ）
マルチ画面連写	約0.5秒間隔で9枚の静止画を連続して撮影し、9分割された1つの画面に表示します。（ ）

"メモリースティック" の容量がいっぱいになると

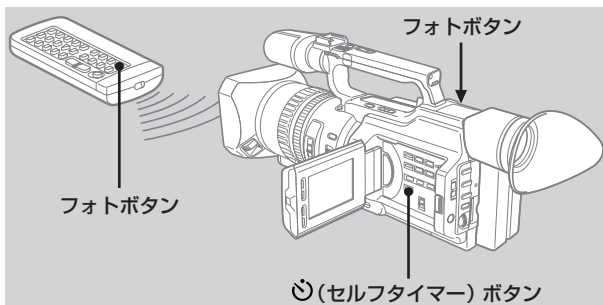
「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示され、メモリーフォト撮影は終了します。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマーメモリーフォト撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーメモリーフォト撮影

セルフタイマーを使って静止画を撮影することができます。

リモコンでも使えます。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 (セルフタイマー）ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

3 フォトボタンを深く押す。

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前になるとブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

秒読み中に撮影を止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度(セルフタイマー）ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。

リモコンを使って撮影を中断することはできません。

静止画を重ねて撮る – メモリーミックス

“メモリースティック”に記録してある静止画を、カメラで撮影している動画に重ねることができます。

M. クロマキー（メモリークロマキー）

イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分を抜いて動画と重ねる。

M. ルミキー（メモリールミキー）

手書きイラストやタイトルなどの静止画を使い、静止画の明るい部分を抜いて動画に重ねる。旅行やイベントの前にあらかじめタイトルを“メモリースティック”に入れておくと便利です。

C. クロマキー（カメラクロマキー）

背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。（青色を背景にして被写体を撮影し、青色の部分を抜く。）

M. オーバーラップ（メモリーオーバーラップ）

フェーダーのオーバーラップと同様に、“メモリースティック”に記録してある静止画から、カメラで撮影している動画にフェードインをする。

M. クロマキーの例

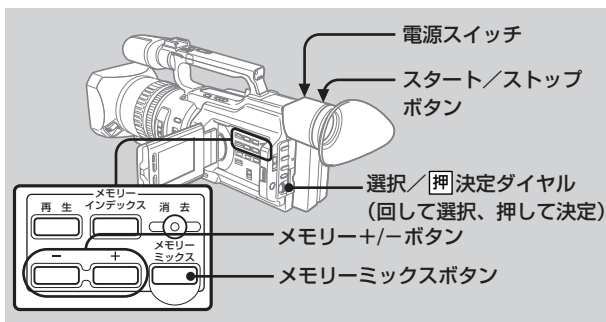
M. ルミキーの例

C. クロマキーの例

M. オーバーラップの例

撮影中は
モードを選び直すことはできません。

重ねる静止画に白い部分が多いと
小画面で表示したときにはっきりと見えないことがあります。

パソコンで加工した画像データや、他機で撮影した画像データは
本機で再生できないことがあります。

あらかじめ本機に記録用のテープと“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「カメラ」にする。**

❷ ［撮影スタンバイ中］に
メモリーミックスボタンを押す。

最後に撮影した静止画、または最後に合成した静止画が画面の右下の小画面に出る。

❸ **メモリー ＋/－ボタン、またはリモコンの＋/－ボタンを押して、重ねたい静止画を選ぶ。**

前の画像を出すときは、－ボタンを押す。
次の画像を出すときは、＋ボタンを押す。

❹ **選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

次の順で変わります。
M. クロマキー↔M. ルミキー↔C. クロマキー↔M. オーバーラップ

❺ 選択／[押]決定ダイヤルを押して、モードを決定する。

静止画が動画と重なる。
M.オーバーラップを選んだときは、静止画と動画がオーバーラップし、スタンバイ状態になる。

❻ 選択／[押]決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下の通り。

M. クロマキー	静止画の、青色の部分の青のこさ。
M. ルミキー	静止画の、明るい部分の明るさ。
C. クロマキー	動画の、青色の部分の青のこさ。
M. オーバーラップ	効果は調節できません。

バー表示を短くするほど効果が大きくなる。

❼ スタート／ストップボタンを押して、撮影を始める。

静止画を選び直す

手順6のあとでメモリー ＋/－ボタンまたは選択／[押]決定ダイヤルを押すと、手順3に戻る。
（M.オーバーラップを除く）

モードを選び直す

手順6のあとで選択／[押]決定ダイヤルを押すと、手順4に戻る。（M.オーバーラップを除く）

メモリーミックスを解除する

もう1度メモリーミックスボタンを押す。

テープの画像を静止画として取り込む

テープに記録された画像を、“メモリースティック”に静止画として記録することができます。

また、外部入力されている画像を取り込んで、“メモリースティック”に静止画として記録することもできます。

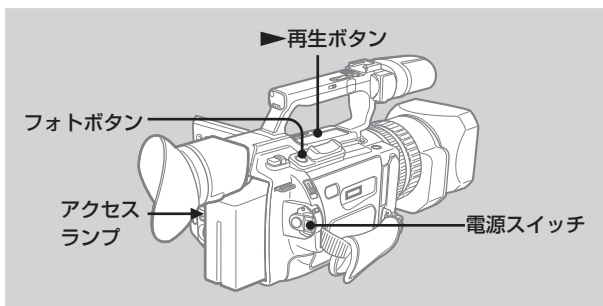
アクセスランプ点灯中および点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

画面に「メモリースティックを確認してください」と表示されたら
フォーマット形式が違うなど本機で認識できない“メモリースティック”を使用しています。フォーマット形式をご確認ください。

再生中にフォトボタンを軽く押すと
テープは一時停止します。

テープに記録された音声は
記録できません。

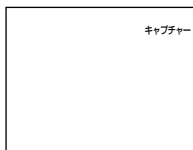
静止画にタイトルを記録することは
できません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

あらかじめ本機に録画済みのテープと“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ►再生ボタンを押す。

テープの画像が映る。

❸ 画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

テープの画像が一時停止し、キャプチャー表示が出る。
このときは、まだ記録されていません。

❹ フォトボタンを深く押す。

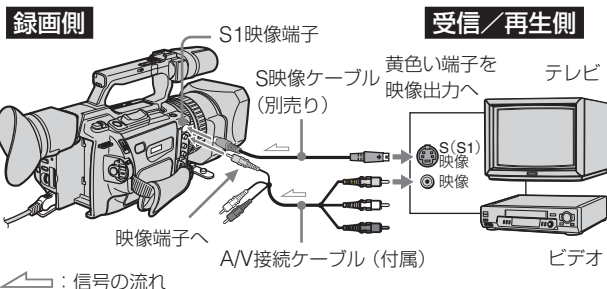
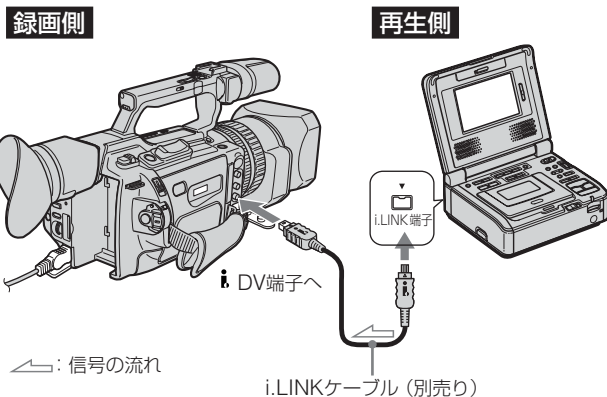
バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像が“メモリースティック”に記録される。テープの画像は再生に戻る。

別売りのS映像ケーブルを使うと

画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりにS映像ケーブル（別売り）で、本機のS1映像端子とビデオやテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

他機をつないで静止画を取り込む

映像またはS1映像端子から取り込む場合

DV端子から取り込む場合

1 **本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューの「画面表示」を「パネル」にする。**

2 **他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。**

他機の画像が液晶画面またはファインダーに映ります。

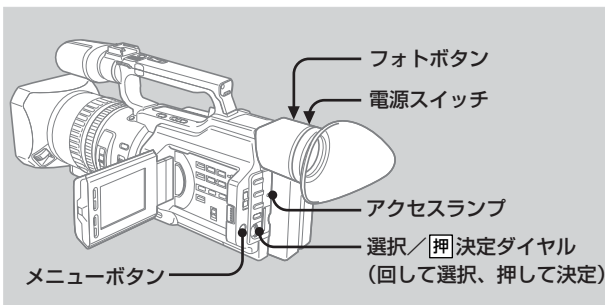
3 **134ページの手順3と4を行う。**

テープの静止画を自動記録する – オートフォトコピー

サーチ機能を使って、テープに記録されている静止画のみを“メモリースティック”に順次取り込んで、記録することができます。

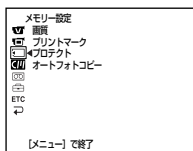
アクセスランプ点灯中および点滅中は
絶対に本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

テープの静止画をすべてコピーしたいときは
テープを最初まで巻き戻してから、コピーを行ってください。

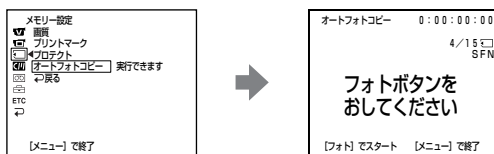
“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっていると
「実行できません」と表示されます。

- 録画済みのテープを入れて、巻き戻しておいてください。
- あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

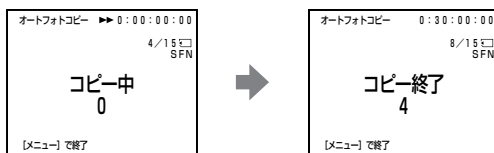
1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

途中で“メモリースティック”を交換すると
前の“メモリースティック”に書き込み終わった画像データの次の画像からコピー作業を再開します。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「オートフォトコピー」を選び、押して決定する。

「フォトボタンをおしてください」と表示される。

5 フォトボタンを深く押す。

テープの静止画が“メモリースティック”に記録される。コピーされた静止画の数が表示され、コピーが終了すると、「コピー終了」と表示される。

コピーを中止する

メニューボタンを押す。

“メモリースティック”の容量がいっぱいになると

「メモリーフル」と表示され、コピーは終了します。

“メモリースティック”を入れ換え、もう1度手順2から操作してください。

静止画を見る – メモリーフォト再生

“メモリースティック”に記録してある静止画を見ることができます。

また、インデックス表示をすると、画像を6枚ずつ表示することができます。

テレビで見るときは

- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
- テレビや液晶画面でメモリーフォト再生をすると、画質が劣化、もしくは画像が揺れているように見えることがありますが故障ではありません。データ上は問題ありません。気になる場合は、プログレッシブモニター、またはパソコン用モニター（140ページ）のご使用をおすすめします。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーから「ピー」という音（ハウリング）が出ることがあります。

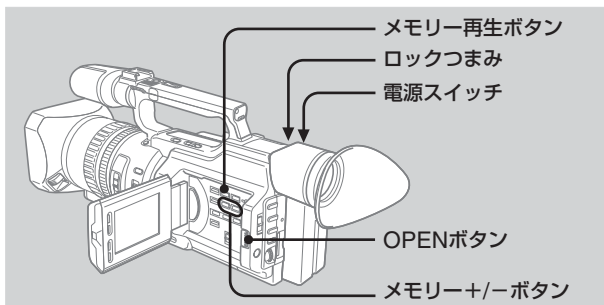
パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

本機で再生できないことがあります。

“メモリースティック”に、表示できる画像が1枚も記録されていないときは

「ファイルがありません」というメッセージが表示されます。

日付／時刻表示は

画面には出ません。自動的に“メモリースティック”上に記録され、再生時にデータコードボタンを押すと見ることができます。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ メモリー再生ボタンを押す。

最後に撮影した画像が映る。

❸ メモリー +/−ボタン、またはリモコンの+/−ボタンを押して、静止画を選ぶ。

−：前の画像を見るとき

＋：次の画像を見るとき

メモリーフォト再生を止める

もう1度メモリー再生ボタンを押す。

データファイル名について

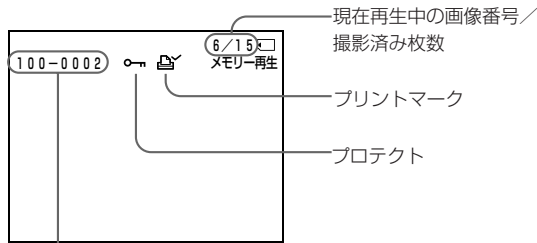
- ディレクトリーとファイル番号の間が「－（ハイフン）」のファイルは、DCF98規格に準拠しています。「＿（アンダーバー）」のファイルは準拠していません。
- ディレクトリー構造がDCF98規格に準拠していないと、ディレクトリーは表示されません。
- ファイルがDCF98規格に準拠していないと、「メモリースティックディレクトリーエラー」と表示されることがあります。このとき、再生は可能ですが、記録することはできません。
- データファイル名が点滅したときは、ファイルが壊れているか、本機で扱えない種類のファイルです。

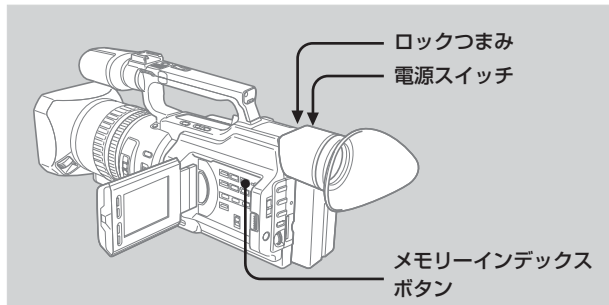
パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

インデックス表示ができない場合があります。

ご注意

インデックス表示をしているときの画像右上の番号は、“メモリースティック”に記録された順番を示す番号です。データファイル名（上記）とは違います。

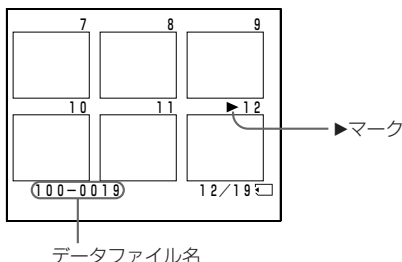
静止画再生中の画面表示

画像を6枚ずつ表示する－インデックス表示

撮影した画像を6枚ずつ一度に再生できます。画像を検索するときなどに便利です。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

次のページへつづく

❷ **メモリーインデックスボタンを押す。**

インデックス表示になる。インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示される。

- 次の6枚を見るときは、メモリー ＋ボタンを押し続ける。
- 前の6枚を見るときは、メモリー －ボタンを押し続ける。

1枚の表示（シングル表示）に戻す

メモリー ＋/－ボタンで▶マークを表示したい画像に移動し、メモリー再生ボタンを押す。

パソコンで見る

下記のいずれかの方法で“メモリースティック”の画像をパソコンに取り込むことができます。

- USBポートを使う

メモリースティックリーダー／ライター（別売り）をお使いください。

- PCカードスロットを使う

メモリースティック用PCカードアダプター（別売り）をお使いください。

- フロッピーディスクドライブを使う

メモリースティック用フロッピーディスクアダプター（別売り）をお使いください。

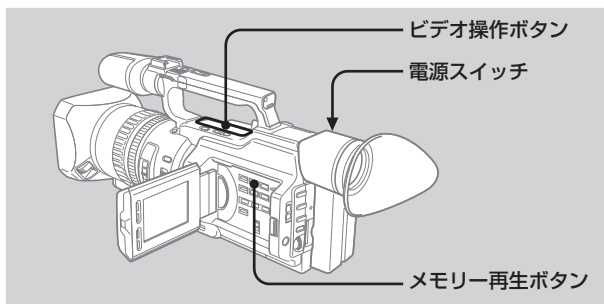
詳しくは、上記の各商品の取扱説明書をご覧ください。

“メモリースティック”で撮った画像をテープにダビングする

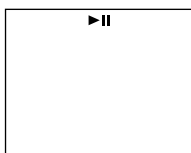
“メモリースティック”に記録した静止画や
タイトルなどをテープにダビングすることが
できます。

ダビング中は
メモリー再生ボタン、メモリーインデックスボタン、メモリー消去ボタン、メモリー＋ボタン、メモリー－ボタン、メモリーミックスボタンは操作できません。

インデックス画面は
録画できません。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
ダビングできないことがあります。

あらかじめ本機に記録用のテープと再生する“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ビデオ操作ボタンを使って、静止画をダビングしたい場所を探し、テープを再生一時停止にする。

❸ ●録画ボタンを2つ同時に押し、録画一時停止にする。

●II

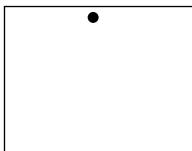
次のページへつづく

録画中または録画スタンバイ中に画面表示ボタンを押すと
タイムコードなど、テープに関する表示以外に、メモリー再生表示、ファイル名表示も見ることができます。

ご注意
静止画を録画したい部分を繰り返して探すときに、エディットサーチ機能は使わないでください。（再生している"メモリースティック"の静止画が画面から消えます。）

4 メモリー再生ボタンを押し、ダビングしたい静止画像をメモリー再生する。

5 ❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

録画を止めたいところでもう1度❚❚一時停止ボタンを押す。

6 他にもダビングする場合は、手順4と5を繰り返す。

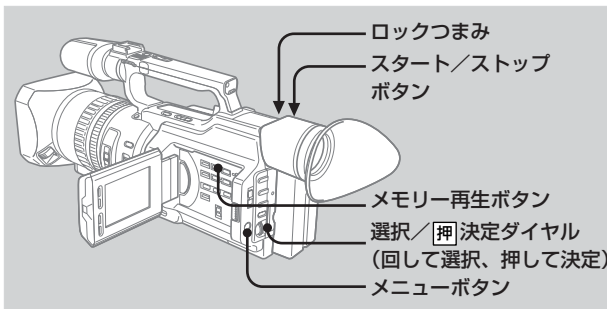
ダビングを途中で中止するときは

■停止ボタンを押す。

静止画を自動再生する – スライドショー

画像を順番に次々と自動再生します。記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

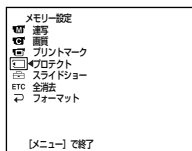
テレビで見るときは
あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでください。

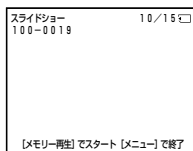
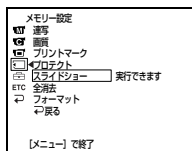
設定中に“メモリースティック”を入れ換えたときは
初めから操作し直してください。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

3 選択／押決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「スライドショー」を選び、押して決定する。

次のページへつづく

5 **メモリー再生ボタンを押す。**

“メモリースティック”の画像が順番に再生される。

スライドショーを中止する／終了する

メニューボタンを押す。

スライドショーを一時停止する

メモリー再生ボタンを押す。

お好みの画像からスライドショーを始める

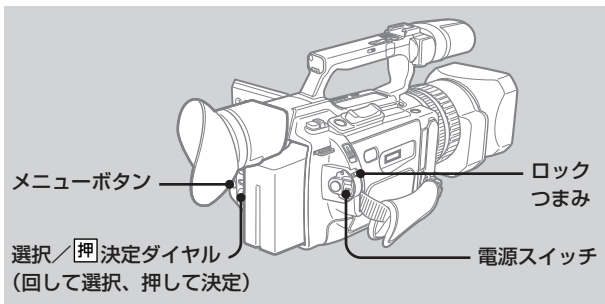
手順2の前にメモリー +/－ボタンで最初の画像を選んでおく。

大切な画像を残す – プロテクト

大切な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

ご注意

画像にプロテクトがかかっていても“メモリースティック”をフォーマットすると“メモリースティック”の内容はすべて失われます。フォーマットする前に内容を確認してください。

“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっていると
プロテクトは実行できません。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

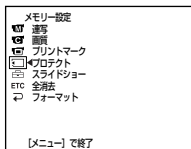
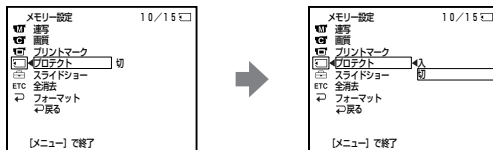
1. **電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。**
   ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

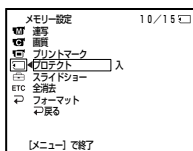
2. **プロテクトする画像を再生する。（138ページ）**

3. **メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。**

4. **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

次のページへつづく

大切な画像を残す ─ プロテクト（つづき）

5 選択／押決定ダイヤルを回して「プロテクト」を選び、押して決定する。

6 選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

画像にプロテクトがかかる。

7 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

プロテクトされた画像ファイル名に「O-π」マークが付く。

プロテクトを解除する

手順6で「切」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

画像を消す – 消去

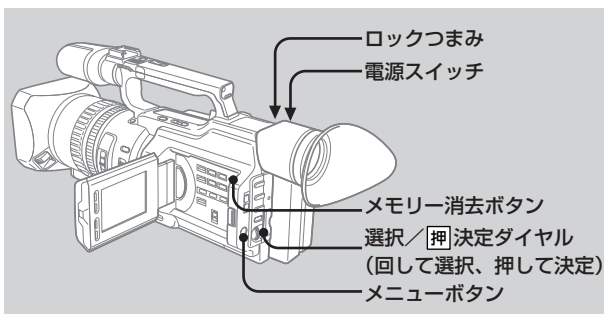
不要になった画像を消去できます。
撮影したすべての画像を一度に消去したり、画像を選んで消去したりできます。

ご注意

- プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像は元に戻せません。消去する前に内容を確認してください。

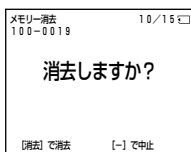
“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっていると
消去は実行できません。

「消去中」と表示されているときは
電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

不要になった画像を消去する

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 消去したい画像を再生する。（138ページ）

3 メモリー消去ボタンを押す。
「消去しますか？」と表示される。

4 もう1度メモリー消去ボタンを押す。
画像が消去される。

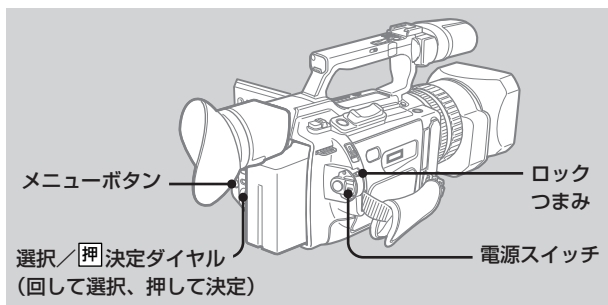
画像の消去を中止する

手順4でメモリー －ボタンを押す。

インデックス表示している画像を消す

メモリー +/−ボタンで▶マークを削除したい画像に移動してから手順3と4を行ってください。

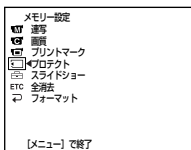
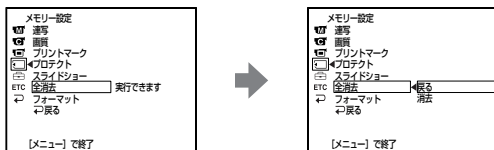
すべての画像を消去する

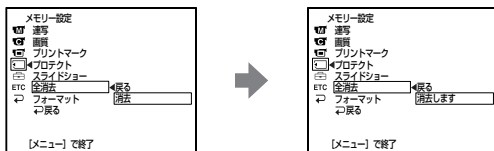
プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

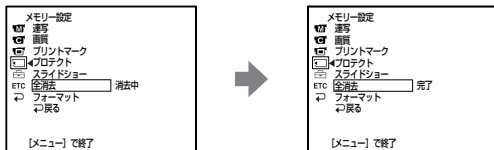
❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ **メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。**

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「全消去」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押決定ダイヤルを回して「消去」を選び、押して決定する。

「消去」が「消去します」の表示に変わる。

❻ 選択／押決定ダイヤルで「消去します」を選び、押して決定する。

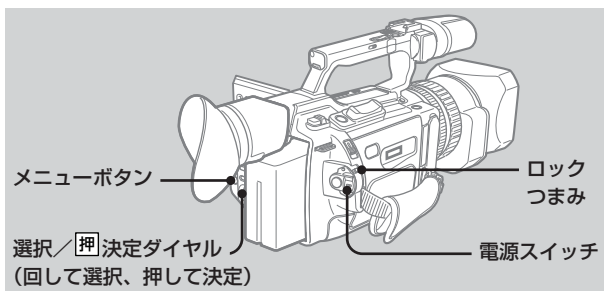
「消去中」と表示される。プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

全消去を中止する

手順5で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

プリントマークを付ける – プリントマーク

“メモリースティック”に撮影した画像の中から、プリントしたい画像を指定して、マークを付けることができます。あとでプリントするときに便利です。

本機はプリントしたい画像をあらかじめ指定できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

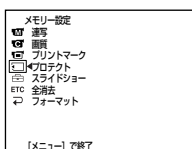
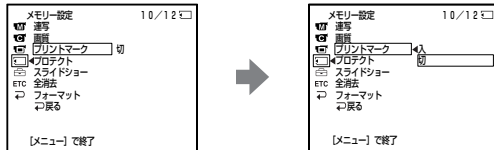
“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっていると
プリントマークは実行できません。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

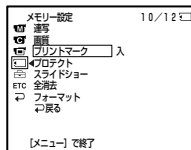
1 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 プリントしたい画像を再生する。（138ページ）

3 メニューボタンを押して、メニュー画面を出す。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「[icon]」を選び、押して決定する。

❺ **選択／押決定ダイヤルを回して「プリントマーク」を選び、押して決定する。**

❻ **選択／押決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**

表示されている画像にプリントマーク🖨✓が付く。

❼ **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

プリントマークを付けた画像のファイル名に「🖨✓」マークが付く。

プリントマークを解除する

手順6で「切」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

使えるビデオカセット

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークの付いたカセットをお使いください。*

8、Hi8方式や、VHS、VHSC、SVHS、SVHSC、β、ED Beta、DV、D8、MICROMV方式のビデオカセットは使えません。

* ミニDVカセットには、カセットメモリー付きのものと、カセットメモリーなしのものがあります。カセットメモリー付きカセットにはCM（Cassette Memory）マークが付いています。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。

  カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
  カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの冒頭や途中に一度無記録部を作ると、信号が不連続になり、タイトルが間違って表示されたり、サーチが誤動作することがあります。無記録部を作らないために、下記の操作を行ってください。

撮影の途中でテープを出し入れしたり、ビデオモードで再生した場合には、次の撮影の前にエンドサーチボタンを押し、撮影終了位置に戻す。

  無記録部があったり、テープ上の信号が不連続なものは、上記の点に注意して新たにテープの最初から最後まで撮影すれば、カセットメモリー機能を正しくお使いいただけます。
  カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に、カセットメモリー機能がないカメラレコーダーで録画したときも同じ症状が出ることがあります。

著作権保護信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で録画することはできません。
このようなカセットを録画しようとすると液晶画面やファインダーに「ダビングプロテクトされています　録画できません」の表示が現れます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

カセットのCM 4K マークについて
この表示は、このカセットで4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセット（CM 16K マークが本体側面についています）まで対応しています。

カセットメモリーの最大記録件数は
（4キロビット（512バイト）の場合）

インデックス	32件（15バイト/件）
タイトル	20件
日付	6件（10バイト/件）
フォト	12件（10バイト/件）
ラベル	1件

（上記の件数は目安です）

これらは商標です。

Mini DV Digital Video Cassette

ミニDVカセットのマークです。

CM Cassette Memory

カセットメモリーのマークです。

音声モード

DV方式では、下記の2つがあります。

12ビットモード：「ステレオ1」と「ステレオ2」に2つのステレオ音声が記録できます。撮影時の音声は「ステレオ1」に、アフレコした音声は「ステレオ2」に32 kHzで記録されます。メニューの「音声ミックス」で「ステレオ1」と「ステレオ2」の音のバランスを調整することができます。

16ビットモード：高音質で1つのステレオ音声が記録できます。音声のアフレコはできません。32 kHzまたは44.1 kHz、48 kHzで記録された音声も再生できます。

16ビットモードで記録されたテープを再生すると、16BIT表示が液晶画面またはファインダーに表示されます。

音声多重記録テープを再生するとき

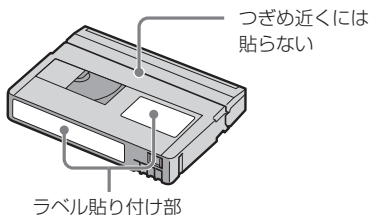
ステレオ音声で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（115ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声+副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

本機では二重音声は記録できません。

ミニDVカセットについてのご注意

ラベルは指定の位置に

カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しく貼ってください。故障の原因になります。

ミニDVカセットの使用後は

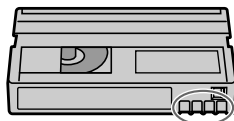
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります。）巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

カセットメモリー機能が働かないときは

カセットを入れ直してみてください。金メッキ端子にゴミなどが付着していると、カセットメモリー機能が働かないことがあります。

端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒などでカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作方法が異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100 Mbps*）
S200（最大転送速度　約200 Mbps）
S400（最大転送速度　約400 Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については77、94ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV端子）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズ）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、DV機器とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめDV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

ご注意

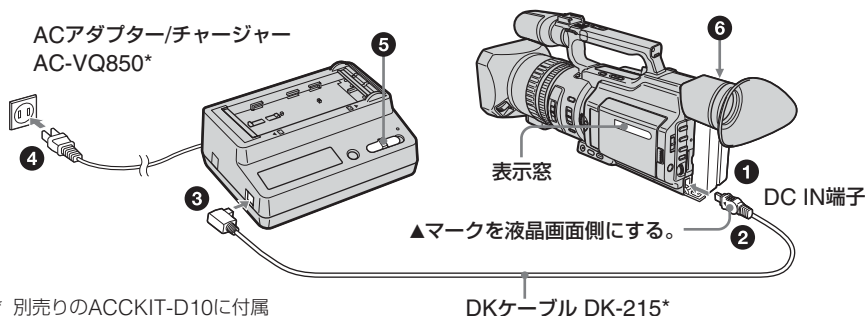
i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINK接続する場合は、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いた状態で、i.LINKケーブルを抜き差ししてください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製のi.LINKケーブルをお使いください。
4ピン ←→ 4ピン（DVダビング時）

i.LINKと i は商標です。

本体に取り付けたバッテリーを充電する

本機に取り付けたバッテリーを充電すること
ができます。（本体内充電）

* 別売りのACCKIT-D10に付属

ご注意

ACアダプター/チャージャーに接続したDKケーブルを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

本体内充電中は

ACアダプター/チャージャーに取り付けたバッテリーは充電されません。

表示窓に表示されるバッテリー残量時間は

ファインダーを使って連続撮影した場合の目安です。実際の撮影時間とは異なることがあります。

バッテリー残量を計算するまでは

表示窓には「- - - min」と表示されます。

❶ バッテリーを本機に取り付ける。（8ページ）

❷ DC IN端子カバーを開け、DKケーブルを▲マークを液晶画面側にして、本機のDC IN端子につなぐ。

❸ DKケーブルをACアダプター/チャージャーにつなぐ。

❹ 電源コードをコンセントにつなぐ。

❺ ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」にする。

6 本機の電源スイッチを「切（充電）」にする。

充電が始まると、表示窓にバッテリー残量時間が表示される。

5 15min FULL → 5 75min FULL

実用充電

表示窓のバッテリーマークがすべて点灯するまで充電したときの状態

満充電

表示窓のバッテリーマークに「FULL」が表示されるまで充電したときの状態

7 DKケーブルを本機から取りはずす。

バッテリーの充電が終わったら、DKケーブルを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

本体内充電時間

バッテリー	満充電	実用充電
NP-F550	210	150
NP-F570	260	200
NP-F730	300	240
NP-F750	300	240
NP-F770	370	310
NP-F960	420	360
NP-F970	485	425

使い切ったバッテリーを充電したときの時間（約　分）。
NP-500/510/710はご使用いただけません。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にお問い合わせください。

液晶画面やファインダー、表示窓に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。165ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない。	●電源スイッチが「カメラ」になっていない。	●「カメラ」にする。	14
	●テープが終わりになっている。	●巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	13、26
	●カセットが誤消去防止状態になっている。	●そのカセットで撮るときは、誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいカセットを入れる。	13
	●テープがヘッドドラムに貼りついている（結露）。	●カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	169
電源が途中で切れる。	●撮影スタンバイ状態が5分以上続いたときは、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れる。	●一度電源スイッチを「切（充電）」にしてから、もう1度「カメラ」にする。	14
	●バッテリーが消耗している。	●充電したバッテリーを取り付ける。	6、8
ファインダーの画像がはっきりしない。	視度調節が正しくない。	視度を調節する。	17
手ぶれ補正が働かない。	メニューの「手ぶれ補正」が「切」になっている。	「入」にする。	115
オートフォーカスが働かない。	●手動ピント合わせになっている。	●フォーカススイッチを「自動」にする。	56
	●オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	●手動でピントを合わせて撮影する。	56
フェーダーボタンが働かない。	デジタルエフェクト機能が働いている。	解除する。	38

次のページへつづく

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	—	—
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	—	—
画面に白点が出ることがある。	シャッタースピードを遅くしたときやキャンドルモードのときに出る現象で、故障ではありません。	—	—
画面に斜めの縞模様が出る。	ゼブラスイッチが「70」または「100」になっている。	ゼブラスイッチを「OFF」にする。	44
液晶画面やファインダーに見慣れない画面が現れる。	カセットを入れずに電源スイッチを「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットを入れるとデモンストレーションは中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	121
シャッター音が出ない。	メニューの「お知らせブザー」が「切」になっている。	「お知らせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	115
ビデオフラッシュライト（別売り）を使用しているのに画像が暗い。	•NDフィルタースイッチが「1」または「2」になっている。 •手動調節の設定が状況に適していない。（⚡が点滅する。）	•「切」にする。 •オートロックスイッチを「オートロック」にするか、手動調節を解除する。	43 40

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ビデオ操作ボタンが働かない。	電源スイッチが「ビデオ」になっていない。	「ビデオ」にする。	23
►再生ボタンが働かない。	テープが終わりになっている。	テープを巻き戻す。	26
画像に横線が入る。またはぼけたり、映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	169
音声が小さい。または聞こえない。	●音量を最小にしている。 ●メニューの「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	●音量を大きくする。 ●「音声ミックス」を調節する。	24 115
タイトルサーチできない。	●カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 ●メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 ●タイトルが入っていない。 ●テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	●カセットメモリー付きカセットを使う。 ●「入」にする。 ●タイトルを入れる。 —	67、152 115 103 67
撮影日を画面に出して日付サーチできない。	●カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 ●メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 ●テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	●カセットメモリー付きカセットを使う。 ●「入」にする。 —	69、152 115 69
アフレコした音声が聞こえない。	メニューの「音声ミックス」が「ST1」側になっている。	モニターしたい音声に合わせる。	115
タイトルが出ない。	メニューの「タイトル表示」が「切」になっている。	「入」にする。	115
テレビやビデオにつないで再生するとき、画像や音が出ない。	—	AV接続ケーブルを映像端子と音声右／左端子からいったん抜き、再びつなぐ。	—

次のページへつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にしても動作しない。	●バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。 ●ACアダプター/チャージャーのプラグがコンセントからはずれている。 ●ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチが「充電」になっている。	●充電されたバッテリーを取り付ける。 ●コンセントに差し込む。 ●「ビデオ/カメラ」にする。	6、8 9 9
エンドサーチが働かない。	●カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出した。 ●カセットを入れてからエンドサーチ操作をするまでに、一度も撮影していない。	— —	22、26 22、26
エンドサーチが誤動作する。	テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	—	22
ファインダーの画像が消えている。	液晶画面が開いている。	液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	15
バッテリーの消耗が早い。	●周囲の温度が極端に低いところで撮っている。 ●充電が不充分。 ●バッテリーの寿命。	— ●満充電する。 ●新しいバッテリーに交換する。	— 6 8
バッテリー残量の表示が正しくない。	●温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 ●バッテリーの寿命。 ●バッテリーが消耗している。	— ●新しいバッテリーに交換する。 ●満充電したバッテリーを取り付ける。	— 8 6、8
カセットが取り出せない。	●電源（バッテリーやACアダプター/チャージャー）がはずれている。 ●バッテリーが消耗している。	●電源をきちんと接続する。 ●充電されたバッテリーを取り付ける。	8、9 6、8
💧や⏏が点滅し、カセット取出しスイッチ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	169

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
カセットメモリー付きのカセットを使用しているのにカセットメモリー表示が出ない。	カセットの金メッキ端子が汚れている。または、ゴミが付着している。	金メッキ端子をクリーニングする。	153
テープ残量表示が出ない。	メニューの「テープ残量表示」が「オート」になっている。	常にテープ残量を出したいときは「テープ残量表示」を「入」にする。	115

故障かな？と思ったら（つづき）

“メモリースティック”操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
操作を受け付けない。	●電源スイッチが「カメラ」または「切（充電）」になっている。	●「メモリー」または「ビデオ」にする。	–
	●“メモリースティック”が入っていない。	●“メモリースティック”を入れる。	124
撮影ができない。	●すでにメモリー容量いっぱいに撮影している。	●不要な画像を消去してから撮影する。	127、147
	●フォーマット形式の異なる“メモリースティック”を入れた。	●フォーマットするか、別の“メモリースティック”を使う。	119
	●“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	●「LOCK」を解除する。	123
画像を消去できない。	●プロテクトされている。	●プロテクトを解除する。	145
	●“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	●「LOCK」を解除する。	123
フォーマットが実行できない。	“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	123
全消去が実行できない。	“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	123
プロテクトが実行できない。	●“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	●「LOCK」を解除する。	123
	●プロテクト操作をしたい画像が表示されていない。	●メモリー再生ボタンを押して画像を表示する。	138
プリントマークが実行できない。	●“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	●「LOCK」を解除する。	123
	●プリントマーク操作をしたい画像が表示されていない。	●メモリー再生ボタンを押して画像を表示する。	138
オートフォトコピーが実行できない。	●“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっている。	●「LOCK」を解除する。	123
	●バッテリーが消耗している。	●充電されたバッテリーを取り付ける。またはACアダプター/チャージャーを使う。	8、9

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
タイトルを入れられない。	●カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 ●カセットのメモリーがいっぱいになっている。 ●カセットが誤消去防止状態になっている。 ●無記録部分にタイトルを入れようとしている。	●カセットメモリー付きカセットを使う。 ●不要なデータを消去する。 ●誤消去防止ツマミを元に戻す。 ●録画された部分にタイトルを入れる。	103、152 111 13 103
カセットに名前を付けられない。	●カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 ●カセットのメモリー容量がいっぱいになっている。 ●カセットが誤消去防止状態になっている。	●カセットメモリー付きカセットを使う。 ●不要なデータを消去する。 ●誤消去防止ツマミを元に戻す。	109、152 111 13
ダビング編集中、i.LINKケーブルを正しく接続しているのにモニター画像が出ない。	—	i.LINKケーブルを一度抜いてからもう1度接続し直す。	77
デジタルプログラムエディットが働かない。	●録画機側の入力切り換えができていない。 ●ソニー製以外のDV機器と接続している。（i.LINKケーブル接続時） ●無記録部分にプログラム設定しようとしている。 ●本機と録画機の録画のタイミングが合わない。	●接続を確認して、録画機側の入力切り換えスイッチを設定し直す。 ●「コントロール選択」を「リモコン」に設定し、準備2からやり直す。 ●録画された部分に設定し直す。 ●タイミング補正をする。	79 79 86 84
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	●メニューの「リモコン」を「切」にしている。 ●リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。 ●リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。 ●乾電池の寿命。	●「入」にする。 ●障害物を取り除く。 ●正しく入れる。 ●新しい乾電池に交換する。	115 — 178 178
外部入力しているのに、液晶画面やファインダーに入力した画像が映らない。	メニューの「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」になっている。	「パネル」にする。	115

次のページへつづく

その他

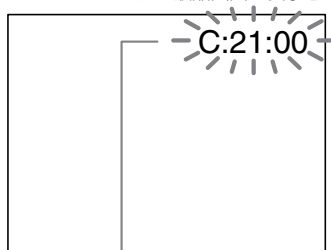
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
おしらせブザーが5秒間鳴り続ける。	●結露している。	●カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	169
	●本機に異常が発生している。	●カセットを入れ直し、もう1度操作し直す。	—
本体に取り付けたバッテリーを充電中、表示窓に何も表示が出ない。または表示が点滅する。	●ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチが「充電」になっている。	●「ビデオ/カメラ」側にする。	155
	●バッテリーが壊れている。	●テクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。	—
本体に取り付けたバッテリーが充電できない。	本機の電源スイッチが「切（充電）」になっていない。	電源スイッチを「切（充電）」にする。	155
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	—	満充電する。 残量が正しく表示されます。	—
電源が入っているのに操作できない。	—	バッテリーまたはACアダプター/チャージャーのDKケーブルを取りはずし、約1分後、もう1度バッテリーまたはACアダプター/チャージャーのDKケーブルを取り付け、電源を入れる。それでも操作できないときは、ゼブラスイッチの右側のリセットボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	9、174

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、ファインダーまたは液晶画面、表示窓にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

ファインダーまたは液晶画面、表示窓

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターに相談していただく状態

表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	6
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	169
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	169
C:31:□□ C:32:□□	上記以外の状態になっている。	•カセットを入れ直し、もう1度操作する。 •電源を一度取りはずし、取り付け直してからもう1度操作する。	— —
E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	—

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面とファインダーには、次のような表示が出ます。詳しい説明は、（　）内のページにあります。

警告表示

バッテリー残量に関する警告
遅い点滅
- バッテリー残量が少ない

状況によっては、バッテリー残量が5分から10分ほどでも警告表示が点滅することがあります。

テープ関連の警告
遅い点滅
- テープ残量が5分を切った
- カセットが入っていない*（13ページ）
- カセットが誤消去防止状態になっている*（13ページ）

速い点滅
- テープが終わっている*

≜ テープを取り出す必要がある警告*
遅い点滅
- カセットが誤消去防止状態になっている（13ページ）

速い点滅
- 結露している（169ページ）
- テープが終わっている
- 自己診断表示が出ている（165ページ）

結露の警告*
速い点滅
- テープが結露している
  カセットを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置する（169ページ）

自己診断（165ページ）

“メモリースティック”関連の警告*
遅い点滅
- “メモリースティック”が入っていない（124ページ）

速い点滅
- 認識できない“メモリースティック”が入っている（123ページ）

画像プロテクトの警告
遅い点滅
- 画像が消去できないようになっている*（145ページ）

100-0001“メモリースティック”のファイル関連の警告*
遅い点滅
- ファイルが壊れている（139ページ）
- 扱えないファイル（123ページ）

“メモリースティック”フォーマットエラー*
速い点滅
- ディレクトリが2つ以上ある
- データが壊れている
- “メモリースティック”が正しくフォーマットされていない（119ページ）

お知らせメッセージ

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。

メッセージに従って操作してください。（カッコ内は参照ページ）

- バッテリーを取りかえてください（8ページ）
- このバッテリーは古くなりました　取りかえてください（8ページ）
- “インフォリチウム”バッテリーをつかってください（6ページ）
- テープが終わっています*（26ページ）
- カセットを入れてください*（13ページ）
- カセットの誤消去防止ツマミを確認してください*（13ページ）
- メニューで日付・時刻をあわせてください（11ページ）
- ヘッドが汚れています／クリーニングカセットをつかってください（169ページ）
- 結露しています　カセットを取りだしてください*（169ページ）
（テープが入っていないとき、メッセージは「結露しています」になります。）
- ダビングプロテクトされています　録画できません*（152ページ）
- 音声モードがちがいます　確認してください*（120ページ）
- 録画モードがちがいます　確認してください*（120ページ）
- テープを確認してください*（99ページ）
- “i. LINK”ケーブルをぬいてください*（99ページ）
- カセットメモリー付きカセットを入れ直してください*（152ページ）
- カセットメモリーがいっぱいです*（104ページ）
- メモリースティックを確認してください*（134ページ）
- メモリーフル（137ページ）
- メモリースティックのメモリーがいっぱいです*（129ページ）
- メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください*（123ページ）
- ファイルがありません*
- メモリースティックを入れてください*（124ページ）
- メモリースティックエラー*（124ページ）
- メモリースティックフォーマットエラー*（119ページ）
- メモリースティックディレクトリーエラー*（139ページ）

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

海外で使う

本機は外国でもお使いになれます

ACアダプター/チャージャーAC-VQ850（別売りのACCKIT-D10に付属）は、AC100V～240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。海外でもお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、**電源コンセントの形状の異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。**トラベルコンバーターはご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要です。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

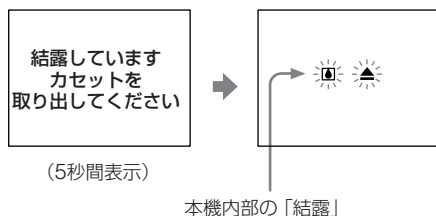
時差補正機能について

海外でお使いになるときはメニューで「時差補正」を選べば、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは115ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、ファインダーや液晶画面に下記のような警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

本機内部の「結露」

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取出しスイッチ以外は働きません。（テープが入っていないときは、⏏表示は出ません。）

電源を切ってカセットぶたを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

ヘッドをきれいにする

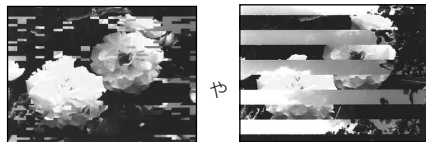
ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。

次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM12CLDを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- ファインダーまたは液晶画面に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

正常画

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、本機をビニール袋に入れて空気が入らないように密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

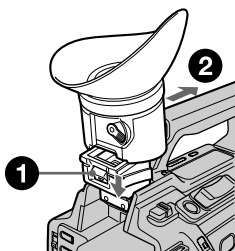
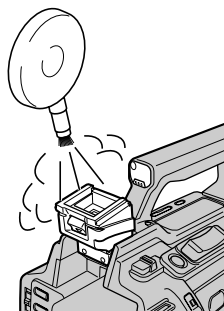
液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

バッテリーについて

- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。
- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために、一度満充電にして、本機で使い切ってから保管してください。
- バッテリーは湿度の低い、涼しい場所で保管してください。

ファインダーをきれいにする

1 **❶つまみを下にずらしたまま、❷接眼部をはずす。**

2 **カメラ用のブロワーブラシなどで、ゴミを取り除く。**

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し、4か月近く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。

ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切（充電）」にして24時間以上放置する。

“メモリースティック”を廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、“メモリースティック”内のデータは完全には消去されないことがあります。“メモリースティック”を譲渡するときは、パソコンのデータ消去用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また“メモリースティック”を廃棄するときは、“メモリースティック”本体を物理的に破壊することをおすすめします。

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32 kHz（ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48 kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81 mm/秒 LP：約12.56 mm/秒
録画／再生時間 （DVM60使用時）	SP：60分　LP：90分
早送り／巻き戻し時間	約2分30秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	1/3型CCD固体撮像素子（3CCD） 約38万画素（有効画素数：約34万画素）
ズームレンズ	12倍（光学）、48倍（デジタル） f=6〜72 mm（35 mmカメラ換算では43.2〜518.4 mm） F1.6〜2.4 フィルター径58 mm
色温度切り換え	自動追尾、屋内（3200K）、屋外（5800K）、ワンプッシュ
最低被写体照度	3ルクス（F1.6）

入・出力端子

S1映像端子	入力／出力自動切り換え Y出力　1 Vp-p 75 Ω不平衡 C出力　0.286 Vp-p 75 Ω不平衡
映像端子	入力／出力自動切り換え 1 Vp-p、75 Ω不平衡
音声右／左端子	入力／出力自動切り換え 327 mV（47 kΩ負荷時）、入力インピーダンス47 kΩ以上、出力インピーダンス2.2 kΩ以下
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
LANC端子	ステレオミニミニジャック（Ø2.5）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
DV端子	i.LINK（IEEE1394．4ピンコネクターS100）
スピーカー	ダイナミックスピーカー（Ø20）

液晶画面

画面サイズ	6.2 cm（2.5型）
総ドット数	211 000ドット 横960×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー挿入口入力7.2 V DC入力端子8.4 V
消費電力（バッテリー使用時）	4.0 W （ファインダー使用時） 4.7 W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0 ℃〜+40 ℃
保存温度	–20 ℃〜+60 ℃
外形寸法 （最大突起部を除く）	120×159×393 mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 1.5 kg（レンズキャップ付きフード含む）
撮影時総質量*	約 1.9 kg * バッテリーNP-F970、テープ（DVM60）含む。
付属品	“メモリースティック”（1） レンズキャップ付きフード（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3形乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） 取扱説明書（1） 安全のために（1） 保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

各部の名称

使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

本体

次のページへつづく

各部の名称（つづき）

スピーカー

液晶画面（16ページ）

液晶画面明るさボタン（16ページ）

音量ボタン（24ページ）

バッテリー（8ページ）

ゼブラスイッチ（44ページ）

リセットボタン（164ページ）

メモリー再生ボタン（138ページ）

画面表示ボタン（25ページ）

メモリー－ボタン（132、138ページ）

データコードボタン（25ページ）

タイトルボタン（103ページ）

（セルフタイマー）ボタン（21、29、130ページ）

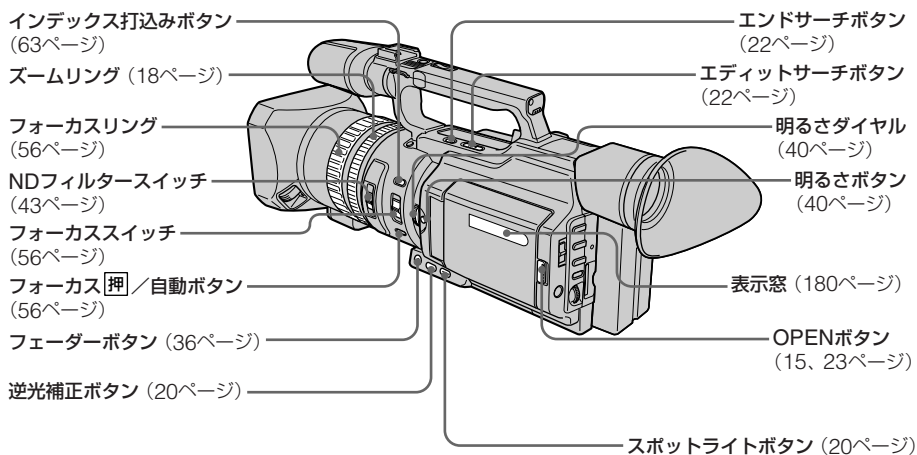
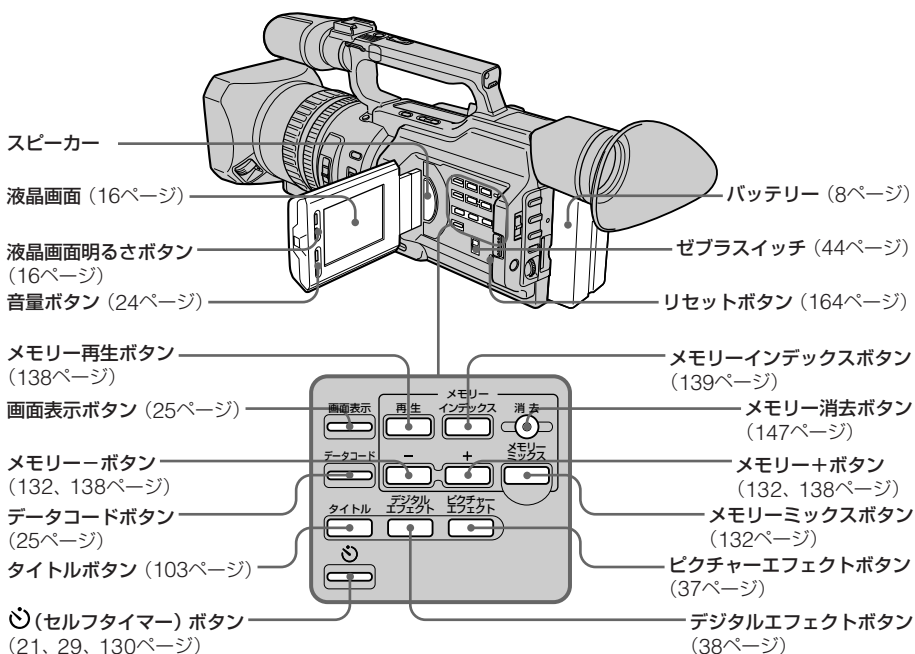
メモリーインデックスボタン（139ページ）

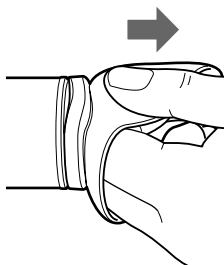
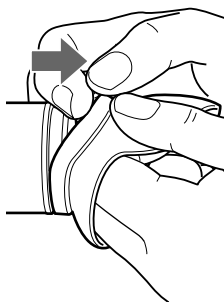
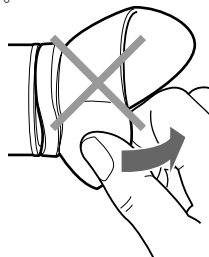
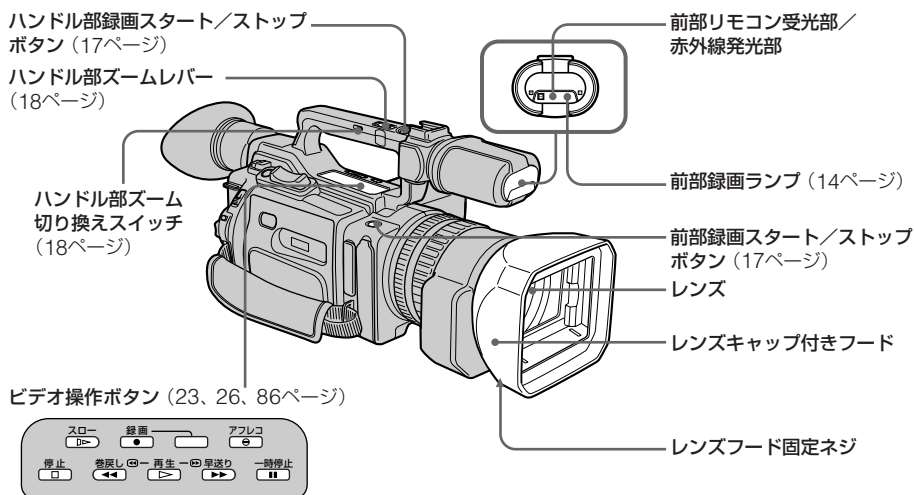
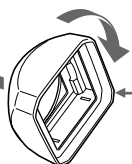
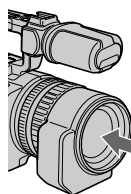
メモリー消去ボタン（147ページ）

メモリー＋ボタン（132、138ページ）

メモリーミックスボタン（132ページ）

ピクチャーエフェクトボタン（37ページ）

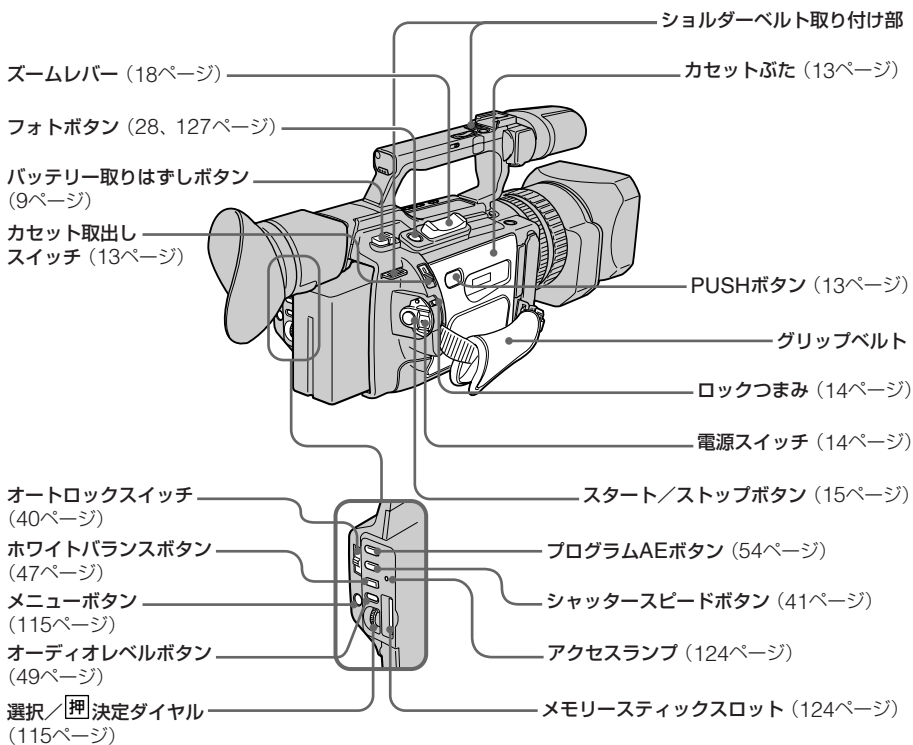
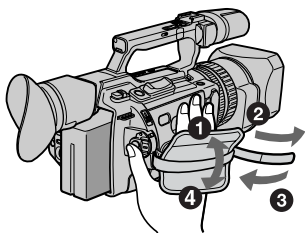
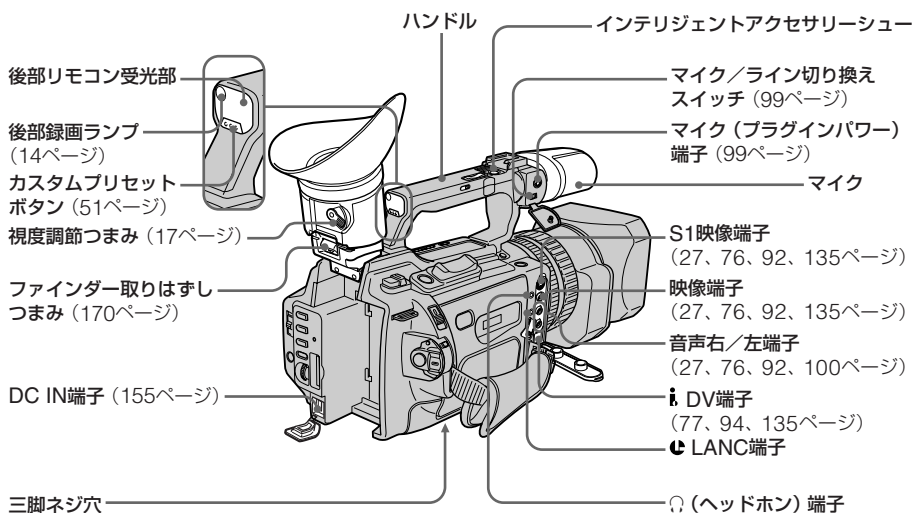
デジタルエフェクトボタン（38ページ）

アイカップの取り付けかた、取りはずしかた

アイカップを左右交換のために取りはずすときは、①アイカップの上部を軽くひっぱり、②アイカップの浮いた部分に指を入れてはずしてください。
取り付けるときは、アイカップを本体の溝に合わせて取り付けてください。

アイカップを内側へ引っ張ったり、無理にはずそうとすると、アイカップが損傷することがあります。

レンズキャップ付きフードの取り付けかた、取りはずしかた
本体側とレンズキャップ付きフード側の印を合わせ、レンズキャップ付きフードを右方向に回して（ねじって）取り付け、レンズフード固定ネジ（下）をしめます。
取りはずすときは、レンズフード固定ネジ（下）をゆるめ、レンズキャップ付きフードを左方向に回して（ねじって）はずします。

レンズキャップ付きフードのシャッターを開閉するには、つまみを矢印の方向にずらします。

フィルターなどをお使いになるときは
ソニー製フィルターをおすすめします。

次のページへつづく

各部の名称（つづき）

ショルダーベルト取り付け部
ズームレバー（18ページ）
カセットぶた（13ページ）
フォトボタン（28、127ページ）
バッテリー取りはずしボタン（9ページ）
カセット取出しスイッチ（13ページ）
PUSHボタン（13ページ）
グリップベルト
ロックつまみ（14ページ）
電源スイッチ（14ページ）
スタート／ストップボタン（15ページ）
オートロックスイッチ（40ページ）
プログラムAEボタン（54ページ）
ホワイトバランスボタン（47ページ）
シャッタースピードボタン（41ページ）
メニューボタン（115ページ）
アクセスランプ（124ページ）
オーディオレベルボタン（49ページ）
選択／押決定ダイヤル（115ページ）
メモリースティックスロット（124ページ）

グリップベルトの締めかた

グリップベルトはしっかりと締めてください。

Intelligent Accessory Shoe

インテリジェントアクセサリーシューについて

- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入／切ができます。
（お使いになるアクセサリーの取扱説明書もあわせてご覧ください。）
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

LANC マークについて

は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

ヘッドホンを使うと

スピーカーから音は出ません。

マイク端子を使う場合

マイク（プラグインパワー）端子は、プラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子、およびオーディオ機器からの入力端子が兼用になった端子です。外部マイクを使用するときは、マイク／ライン切り換えスイッチを「マイク」にしてください。オーディオ機器を使用するときは、マイク／ライン切り換えスイッチを「ライン」にしてください。

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

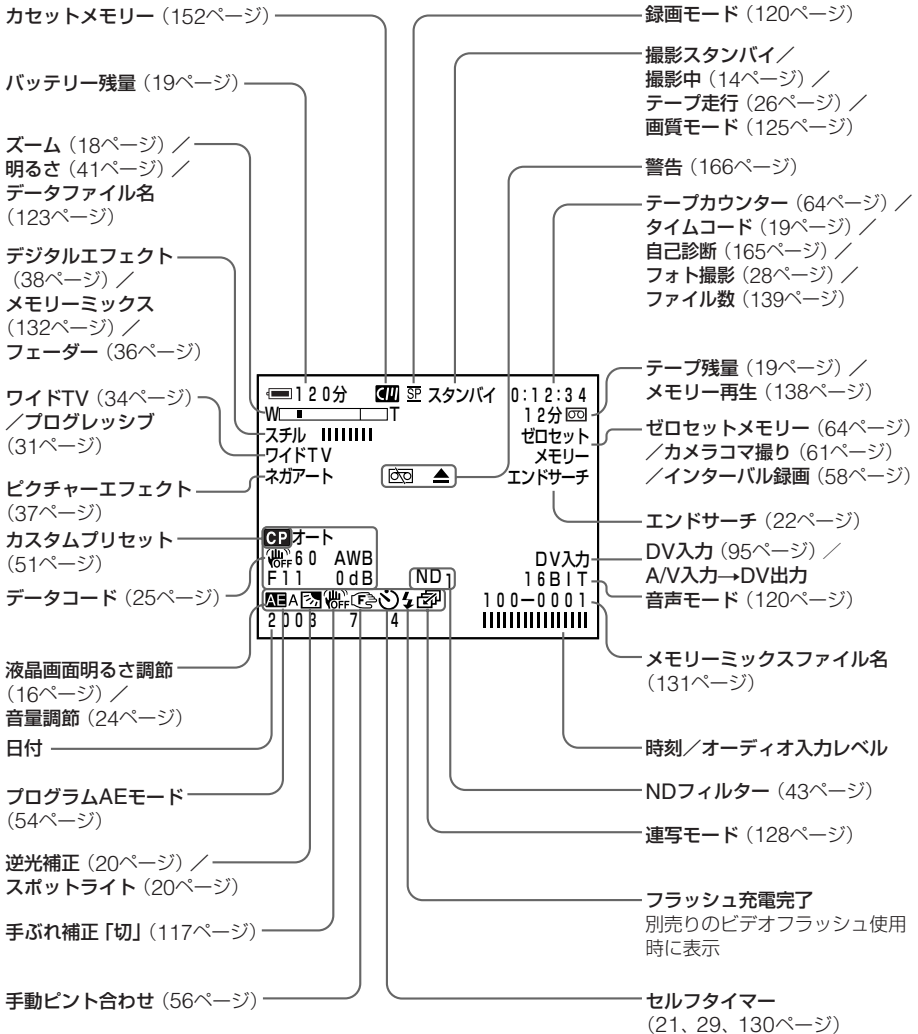
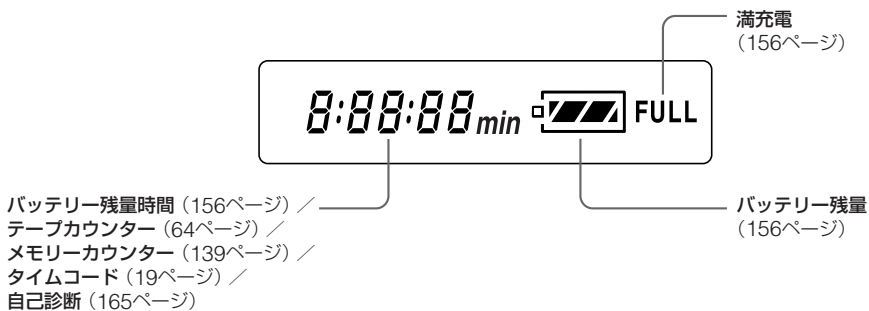
❶ 押しながらずらす。 ❷ 入れる。 ❸ 元に戻す。

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチを切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ファインダーと液晶画面の表示

表示窓の表示

8:88:88min
FULL
満充電
（156ページ）
バッテリー残量時間（156ページ）／
テープカウンター（64ページ）／
メモリーカウンター（139ページ）／
タイムコード（19ページ）／
自己診断（165ページ）
バッテリー残量
（156ページ）

こんなときにはこの機能

明るさが気になるときの機能 ［撮影時］

ろうそく程度の明かりしかないとき	キャンドル	54ページ
花火大会や夕暮れ、夜景を撮るとき	サンセット＆ムーン	54ページ
逆光（被写体の背後に光源がある）のとき	逆光補正	20ページ
結婚式・舞台など、一部分が明るいとき	スポットライト	20ページ

インパクトのある画像を作るための機能 ［撮影時］

場面転換する	フェードイン・フェードアウト	35ページ
静止画を撮りたい	フォト	28、127ページ
画像をデジタル処理したい	ピクチャーエフェクト／デジタルエフェクト	37、38ページ
タイトルを入れたい	タイトル機能	103ページ

自然な画像にするための機能 ［撮影時］

ズーム時の画質低下を抑えたい	メニュー：デジタルズーム	115ページ
意図的にピントを合わせたい	手動ピント合わせ	56ページ
ゴルフスイングなどの速さをとらえたい	スポーツレッスン	54ページ

撮影後の編集・お手持ちの機器との接続のための機能 ［撮影時］

ワイドテレビで見る予定のとき	ワイドTVモード	34ページ
パソコンに静止画を取り込みたい	“メモリースティック”	123ページ

撮影し終わったテープで行う機能 ［再生時］

撮影した画像をデジタル処理したい	ピクチャーエフェクト／デジタルエフェクト	74、75ページ
撮影した日時を確認する	データコード	25ページ
見たい場面にすばやく戻す	ゼロセットメモリー	64ページ
タイトルの入った場面を探す	タイトルサーチ	67ページ
静止画の場面を探す	フォトサーチ	71ページ
静止画だけ次々と見る	フォトスキャン	73ページ
モノラル音声、副音声で聞く	メニュー：バイリンガル	115ページ

索引

■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

ハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ハンディカムホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
ハンディカムの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

メモリースティック対応表
http://www.sony.co.jp/mstaiou
使用可能な“メモリースティック”を確認することができます。

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください）

テクニカルインフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-00-0066
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

携帯電話・PHSでのご利用は 0466-38-0253
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
＜電話受付時間＞
月～金曜日　午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日　午前9時～午後5時
お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

指定宅配便での修理品のお引き取りから修理後の製品のお届けまでを一括して行います。テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan